

平成 2 7 年度
神戸大学附属図書館年次報告

平成 2 8 年 7 月

編集：神戸大学附属図書館評価委員会

＊附属図書館ホームページ掲載＊

<http://lib.kobe-u.ac.jp/www/>

刊行のご挨拶

附属図書館長 野海正俊

平成 28 年 6 月に仙台で全国の国立大学図書館の組織である国立大学図書館協会の第 63 回総会が開催されました。本会議の最大のトピックは「国立大学図書館機能の強化と革新に向けて～国立大学図書館協会ビジョン 2020～」を採択したことでした。

ビジョンの中で、大学図書館の基本理念が次のように記されています。「大学図書館は、今日の社会における知識基盤として、記録媒体の如何を問わず、知識、情報、データへの障壁なきアクセスを可能にし、それらを活用し、新たな知識、情報、データの生産を促す環境を提供することによって、大学における教育研究の進展とともに社会における知の共有や創出の実現に貢献する。」

昨今、ネットワークの発展に伴って、図書館のサービスの形態が大きく変容しています。自分の PC で電子ジャーナルを使う教員、大学院生が増え、場としての図書館としてラーニングコモンズが整備されつつあります。さらに教員の研究成果をサーバから発信する機関リポジトリが認知度を高めています。

しかし、資料の媒体やサービスの形態は変わっても、学術情報を利用者に提供し知の再生産に寄与する図書館の使命は変わりありません。

ビジョンでは、基本理念を実現するために蔵書（知識・情報）、場（空間）、人材育成の 3 つの重要領域と、各々の領域における戦略的な目標が提言されました。知の共有、知の創出、新しい人材こそが図書館機能の強化に欠かせない三本柱になります。本学附属図書館でもこのビジョンを参考にしつつ、神戸大学のミッションと中期計画に沿って、新たな役割を模索しつつ取り組んでいく所存です。

本報告書では、平成 27 年度の附属図書館が行った幅広い事業をまとめ総括しています。学生や教員に直接提供している各種の充実したサービスからなる「動」の面と、社会科学系を中心とするコレクション構築の側面から、文理融合の総合大学として戦前の神戸高商以来の伝統を踏まえた着実な運営を行っている「静」の両面を、統計的なデータを踏まえて詳細に記述しています。

図書館に限らず、大学における事業の評価のためには客観的な数値やエビデンスが不可欠です。本報告書は、利用者サービス、コレクション構築、電子図書館事業、情報リテラシーなどの主要な図書館事業について、必要な統計データを揃えるとともに、各々の数値について自己評価を記載し、大学内外に対する説明責任を果たすことを意図しています。

この報告書を通して、より多くの方に、学術情報基盤としての附属図書館の実績をご理解頂けることを願いますとともに、今後の図書館運営について忌憚のないご意見を頂戴できましたら幸いです。

平成 2 7 年度神戸大学附属図書館年次報告

刊行のご挨拶

<u>1. 平成 2 7 年度の取り組みの概要</u>	p . 1
-----------------------------	-------

2. 学習・教育支援

(1) 開館サービス	p . 6
(2) 学生用資料整備	p . 9
(3) 資料提供サービス	p . 1 0
(4) 図書館相互利用 (ILL) サービス	p . 1 5
(5) 学生参加型及び学生との協働の取組	p . 1 5
(6) 情報リテラシー教育の推進支援	p . 1 9

3. 学術研究支援

(1) 研究用資料の整備	p . 2 4
(2) 電子的情報基盤の整備	p . 2 6
(3) 蔵書目録データベースの整備	p . 3 0
(4) 資料の保存	p . 3 1

4. 社会連携・情報発信

(1) 一般市民への資料提供サービス・展示会の開催	p . 3 2
(2) 震災文庫	p . 3 4
(3) 電子図書館システムによる情報発信	p . 3 5
(4) 機関リポジトリによる情報発信	p . 3 6
(5) 国際連携	p . 3 7
(6) 大学文書史料室	p . 4 2

5. 管理運営等

(1) 図書館組織と運営	p. 48
(2) 事務組織と人事管理	p. 49
(3) 予算及び財務会計業務	p. 53
(4) 施設整備・システム整備	p. 54
(5) 図書館界での諸活動	p. 56

<付録>

達成度評価

達成度評価特記事項	p. 58
達成度評価表	p. 59

基本統計表

蔵書・受入等の現況（各館室別）	p. 61
サービス業務の現況（各館室別）	p. 62
電子的情報サービスの現況	p. 63

図書館組織図・事務組織図	p. 64
附属図書館諸会議（議題一覧、委員名簿）	p. 65
附属図書館予算・決算表（運営経費、資料費）	p. 72
附属図書館活動日誌	p. 74

1. 平成27年度の取り組みの概要

◆学習・教育支援

(1) 開館サービス

本年度は「学生生活実態調査」等で要望が多い開館時間拡充に対応する取組を開始し、開館日数を全館合計で48日増やした。社会科学系図書館の日曜開館日数増や人文科学系図書館の夜間開館時間延長等、入館者数の増加が認められたものもあるが、効果を見極めるには次年度以降も動きを注意深く見ていく必要がある。年間総入館者数は約94万人で前年度並みであったが、1日あたりの平均入館者数は前年度より若干減少している。次年度からスタートする教育改革でのクォータ制導入やカリキュラム変更など、変化に迅速かつ的確に対応できるよう、ニーズ・利用状況・経営面から現行サービスに検討を加え、準備を進めていく必要がある。

(2) 学生用資料整備

各館室の学生用資料整備は図書館予算から各館室に配分した経費と各館室のサービス対象部局から拠出された経費を合わせて実施されている。平成27年度の図書館予算は、全学運営費交付金の減額に伴い前年度より1.3%減の58,450千円とした。また、平成26年度に整備した学生用図書の選定評価を実施し、構成と利用の面で選定が適切に行われたことが確認された。今後も教育・学習活動の支援のため現行の予算規模の維持を目指すと共に、より適切な資料選定を行うよう留意する必要がある。

(3) 資料提供サービス

学生への年間貸出総冊数は約25万冊余りとなり、引き続き最多冊数を更新中である。本年度はデリバリ（図書館間資料配送）サービスに経済経営研究所図書館が加わった。全館室で安定した資料提供ができる体制が整い、デリバリによる貸出数は17%増加した。また、図書利用促進の取組も引き続き継続している。前年度を上回る回数のテーマ図書展示を各館室で実施し、蔵書の紹介を積極的に行った。厳しい財政状況の下、これまで培ってきた選書やデリバリの体制を維持しつつ、利用促進の工夫や取組をさらに進めていかなければならない。

(4) 図書館相互利用（ILL）サービス

図書館相互利用（ILL）について、全体として複写は減少、貸借は増加の傾向にある。社会科学系図書館は、複写は全体の約39%、貸借は約50%を受付ており、全学の中でILL受付の大きな部分を担っており、同館が人文社会科学系の外国雑誌センター館としての責務を果たしていることがわかる。外部機関との提携においては、アジア経済研究所図書館との相互利用、国立国会図書館の図書館向けデジタル化資料送信サービス実施など、国内外の図書館との協力連携・研究支援に貢献している。

(5) 学生参加型及び学生との協働の取組

本年度は「大学生のための生活講座」など、「協同学修シリーズ」と題したイベントを5回開催した。その他「クイズラリー」などの学生参加型のイベントを実施し、好評を得た。11月に鶴甲第一キャンパスラーニングコモンズ（LC）が新設された。附属図書館も参加する全学組織であるLC運用準備委員会により、新設LCのオープニングイベントを4日連続で実施し、また全学の共通LCロゴマークを策定した。学生協働を目的とした「附属図書館学生チーム」を公募により発足させ、留学生を含む9名の学部学生・院生がメンバーとなった。今後、学生の自主的な活動の促進が課題となっている。

る。

(6) 情報リテラシー教育の推進支援

全学共通教育必修科目「情報基礎」では、1 コマ(90 分)を図書館職員が担当し、計 23 回の講義を行い、約 2,700 名が受講した。ガイダンス・オリエンテーションは、情報リテラシー係を中心に、情報リテラシー教育支援 WG メンバー等が担当し、計 163 回、3,405 名が受講。他に学術英語スキルアップセミナーを開催し、106 名が参加した。また、学習支援の一環として、パスファインダー「授業資料ガイド KULiP」の運用を継続している。広報は、メールマガジンの発行に加え、公式ツイッターを活用し、情報共有の輪を広げつつある。ホームページについては、スライドパネルやバナーの活用を始め、親しみやすく、宣伝効果も高いデザインの構築を目指している。

◆学術研究支援

(1) 研究用資料の整備

平成 27 年度は、「教育研究基盤資料整備費」3.23 億円が措置され、部局負担の 0.2 億円を加えることにより、電子ジャーナル及びデータベースは平成 26 年度の規模を維持することができた。平成 28～30 年度の同事業については、特定分野の基盤資料への補填率を見直しすることによって維持される方向となった。当館の外国雑誌センターは、その所在する社会科学系図書館の ILL の年間受付件数が全国大学の上位にあり、わが国の学術情報流通基盤において一定の役割を果たしているといえるが、今後もその役割を維持するために、限られた予算をより有効に利用することが必要である。

(2) 電子的情報基盤の整備

平成 27 年度末における電子ジャーナル購読数は 26,539 タイトル、総ダウンロード数は教育研究基盤資料整備事業によるもので約 107 万件と、総体として非常によく利用されており、必須の教育研究基盤資料となっている。附属図書館審議会答申をうけ、平成 19 年度以降、全学経費を投入して学術情報基盤の維持を図ってきたが、平成 25 年以降の急激な円安により購読経費は答申に示された上限額を突破している。平成 27 年度については辛うじて従来水準を維持はしたが、平成 27 年 10 月から開始された海外電子配信への消費税課税の影響もあり、今後電子ジャーナル購読数の減少は必至と思われる。

(3) 蔵書目録データベースの整備

目録遡及入力の平成 27 年度入力実績は、外部委託による入力(電子図書館事業経費：3,826 千円)と館員による研究室からの返納図書等を合わせ約 2 万冊だった。遡及入力総数は約 158 万冊となり、全蔵書数約 375 万冊のうち約 318 万冊(約 85%)が OPAC(オンライン目録)で検索できるようになった。本年度は第 2 次中期計画期間(平成 22～27 年度)の遡及入力計画の最終年度に当たり、全蔵書のうち館室配置図書については目録入力を完了した。残る未入力冊数は 57 万冊で全蔵書の約 15%にあたり、遡及入力計画対象外であった製本雑誌、研究室所蔵の未登録資料と和・洋古書、漢籍などの特殊資料が該当する。

(4) 資料の保存

貴重資料の保存対策として「新聞記事文庫」のマイクロフィルム戦前 II 期～戦後期分の修復・複製 102 リールと複製 72 リールを行い、「大阪商業新報」「大阪商業新聞」15 年分(1907-1921)を脱酸・修復した上で、デジタル化した。収容スペース狭隘化解消のため、「資料収容力確保策の見直し」

(平成 24 年度制定) にもとづいて資料の廃棄をすすめている。平成 27 年度は全館室で重複資料等、計 29,847 冊の廃棄を行い、廃棄冊数は平成 25 年度から累計で約 10 万冊となった。

◆社会連携・情報発信

(1) 一般市民への資料提供サービス・展示会の開催

総合・国際文化学図書館と海事科学分館において一般市民への貸出サービスを実施しているが、平成 27 年度の利用登録者数は前年度より 86 名増加した。貸出冊数は前者において前年度とほぼ同数であり、後者においては 50%増であった。資料展については、人文学研究科地域連携センターの協力により、所蔵している地元の古文書の調査成果を展示した。一般市民の関心も高い地元の歴史に関わる展示内容となり、地域・社会貢献を行うことができたと考えている。また震災関連リバイバル展示を実施し、「神戸大学サテライト巡回展」に会場提供することで展示ホールの稼働率を上げ、展示を通じた地域貢献の機会を増やすことができた。

(2) 震災文庫

震災 20 年の節目であった前年から見学・取材等は減少したが、来館者数は例年並みで堅実に利用されている様子が窺われる。所蔵資料総数は 5 万 4 千件を超え、震災文庫データベースへの本年度のデータ入力 は 3,891 件、レコード総数は 28 万 2 千件を超えた。また、HP へは約 1 万 8 千件のアクセスがあった。視聴覚資料のメディア媒体変換も進めており、本年度は VHS テープ 47 点が完了した。媒体変換は優先順位を決め継続して行っているが、作業完了までには数年間かかる見込みである。

(3) 電子図書館システムによる情報発信

平成 11 年より「神戸大学電子図書館システム」によるデジタルアーカイブ構築を行っており、「震災関係資料」、「経済関係資料」、「学内研究成果」を 3 本柱に事業を推進している。「経済関係資料」では「新聞記事文庫」の電子化公開を進めている。本年度は科学研究費補助金の採択を受け、約 7,300 記事を電子化した。記事数は累計約 30 万件にのぼり、その規模の大きさと希少性から高い評価を得ている。アクセス数(約 7 万 3 千件)は、継続してデジタルアーカイブ中トップである。引き続き計画的に電子化を進め、戦前期の完成を目指したい。「学内研究成果」の博士論文では平成 25 年 4 月以降の学位授与分についてリポジトリからのインターネット公開が原則となった。前年度学位授与分の博士論文について、非公表・公表延期が決定している論文以外はリポジトリにて全文公開した。

(4) 機関リポジトリによる情報発信

平成 18 年度に稼働を始めた「神戸大学学術成果リポジトリ(Kernel)」も 10 年が経過し、比較的順調に成長を続けている。平成 27 年度は 1,357 件登録し総コンテンツ数は 23,445 件、年間ダウンロード数は約 118 万件となった。『Kernel』通信の発行、ダウンロード数お知らせメールは継続して行っているが、今後もより一層学内での認知度を高めるための広報活動が重要である。また神戸大学研究者紹介システム「KUID」との連携は手作業による論文へのリンク付与にとどまっており、今後の連携方法が課題となっている。

(5) 国際連携

科学研究費(奨励研究)および国立大学図書館協会海外派遣事業経費により、職員 2 名を米国大学図書館視察(3 大学)へ派遣したほか、海外からの招聘も EUIJ 国際シンポジウムおよび Barbara Tierney 氏招聘の 2 件行われた。また韓国海洋大学校図書館との協力協定にもとづく職員交流を引き

続き行った。今回は同大学より館長および職員 2 名が来学し、特にラーニングコモンズを中心として本学および他大学の見学を行った。

（６）大学文書史料室

政令指定機関としての法的義務を全うするため、歴史公文書等の移管受入れ、目録入力、利用請求処理、展示活動、レファレンス、研修、電子化事業、内閣総理大臣への状況報告、見学受入れ等を実施するとともに、本学記念事業、大学史等関連授業、本学広報・同窓会活動に協力して資料作成、講師派遣、寄稿、講演などを行った。なお、展示活動では、展示案内の初実施や巡回展開催地増設などにより前年度の来場者数を 2,000 名以上も上回った。また、前年度の約 3 倍に増加した資料利用請求に迅速かつ適正に対応するとともに、レファレンスにも注力し 922 件（前年度比 31.3%増）の照会に対応した。今後の緊要な課題としては、利用増加への対応、書庫収蔵スペースの深刻な狭隘化への対応が挙げられる。

◆管理運営等

（１）図書館組織と運営

平成 27 年 3 月、任期満了により釜谷武志館長（人文学研究科教授）が退任し、4 月より部局長経験者である野海正俊館長（理学研究科教授）が就任した。館長の交代に伴い、副館長 3 名が交替した。4 月 14 日に館長・副館長懇談会を開催し、新たな役割分担を決めた。附属図書館運営委員会は 4 回開催し、懸案事項である平成 28 年度以後の教育研究基盤資料整備事業の方針について、各部局等の意見、学内外の諸事情を考慮しながら策定を進め、第 3 期中期計画前半(2016-2018)における冊子体補填率については 15%、特定主題分野 DB 等の補填率については 35%とすることが承認された。

（２）事務組織と人事管理

平成 27 年 5 月現在、附属図書館事務部は 2 課 18 係、定員 47 名、非常勤職員 38 名の 85 名となった。定員職員の新規採用としては 4 月に 2 名、11 月に 1 名、2 月に 1 名を採用した。経済経営研究所図書係は定員 3 名を配置、大学文書史料室は定員 1 名、非常勤職員 3 名を配置している。国立情報学研究所等の主催する各種研修等に職員を派遣しスキルアップに努めるとともに、職員の知識習得を目的とした内部研修も開催した。研修の成果は、報告書の提出により他の職員の能力開発に役立てている。また、係横断的な業務や課題解決のため 6 つのワーキンググループを組織し、いずれも活発に活動し成果をあげた。遡及入力及び資産点検におけるアウトソーシングによる効率化は、本年度が最終年度となる第 2 期中期計画期間における目標達成に大いに寄与した。

（３）予算及び財務会計業務

教育研究基盤資料整備費として確保した 3.23 億円に、本年度に限り合計 2 千万円の部局負担を加えた 3.43 億円により、26,539 誌の電子ジャーナルと 33 種のデータベースの提供を維持した。経常運営費及び経常事業費の予算総額は 10 千円の減額とほぼ前年度並みだったが、平成 28 年度は部局当初予算が要求額より 9%、29,304 千円の大幅減額となっており、これまで以上に効率的な予算執行の必要がある。図書資産点検は、総合・国際文化学図書館、社会科学系図書館、経済経営研究所図書館の 3 館にて約 32 万冊をアウトソーシングで実施し、第 2 期中期計画期間中に一巡する目標を達成できた。

（４）施設整備・システム整備

総合・国際文化学図書館を含む鶴甲 1 地区に LC を設置することができた。更なる学習支援機能の

強化のため、自然科学系図書館での LC 設置計画を推進する必要がある。その他施設整備としては、安全上早期の改善が必要だった自然科学系図書館外壁タイルの改修工事や、老朽化が目立った自然科学系図書館、保健科学図書室、海事科学分館のトイレ改修を実施できた。システムについては、平成 28 年度にリプレースを実施予定であり、新システムへの移行を円滑に行うことが最大の課題である。

(5) 図書館界での諸活動

国立大学図書館協会西ブロック選出の監事館を務め、総会準備等に携わり円滑な運営に努めた。兵庫県大学図書館協議会では平成 26 年度に引き続き、会長館、事務局として協議会の運営にあたった。

国立情報学研究所等が開催する 5 つの研修や講習会に、講師をのべ 5 名派遣した。図書館諸団体の活動・運営に貢献するのみならず、参加する職員の資質向上につながるものであり、今後も推進が期待される。

2. 学習・教育支援

(1) 開館サービス

《開館状況》

		総合・国際	社会科学系	自然科学系	人文科学	人間科学	研究所	医学分館	保健科学	海事分館
通常期	平日	8:45-21:30	8:45-21:30	8:45-21:30	8:45-21:00	8:45-21:00	8:45-17:00	8:45-21:00	8:45-21:00	8:45-20:00
	土曜	10:00-18:00	10:00-19:00	10:00-18:00	10:00-18:00	10:00-18:00	休館	9:00-17:00	10:00-18:00	10:00-18:00
	日曜	休館	10:00-19:00(注1)	10:00-18:00	休館	休館	休館	休館	休館	休館
休業期		平日 17:00まで 土日休館	通常期と同じ	平日 17:00まで 土日休館	平日 17:00まで 土日休館	平日 17:00まで 土日休館	通常期と同じ	通常期と同じ	平日 17:00まで 土日休館	平日 17:00まで 土日休館
試験期 特別開館		日祝 10:00-18:00	祝 10:00-19:00	祝 10:00-18:00	日祝 10:00-18:00	日祝 10:00-18:00	通常期と同じ	通常期と同じ	日祝 10:00-18:00	平日 21:00 まで延長 日祝 10:00-18:00

(注1) 原則奇数月第1日曜日は除く

- 平成27年度の開館時間帯は上表のとおりである。
- 本年度は「学生生活実態調査」等で要望が多かった「時間外開館の拡大」について、以下のとおり、拡充および拡充に向けての試行を実施した。

項目		実施館	内容
日曜開館日数増	本運用	社会科学系図書館	館内整理日(清掃)を毎月第1日曜日から奇数月・第1日曜日に変更。
日曜開館	試行	自然科学系図書館	通常期日曜日の10時～18時開館。
夜間開館時間延長	試行	人文科学図書館	通常期平日の開館時間を20時までから21時までに1時間延長。
試験期特別開館の拡充	試行	全館室(医学分館・経済経営研究所図書館を除く)	対応期間(定期試験開始日6日前～最終日前日)の開始日を早め、一律に前期試験は7月15日から、後期試験は1月8日から開始。
試験期朝開館	試行	総合・国際文化学図書館 社会科学系図書館	7月8日(水曜日)～8月7日(金曜日) 開館時間を30分早め、8時15分から開館。
定例休館日(館内整理)の開館時間変更	本運用	海事科学分館	原則毎月第1水曜日(半日)の開館時間を13時から12時に早める。

- 人文科学図書館において、試行を続けてきた館内整理のための定例休館を本運用とし、原則毎月第2火曜日の8:30～13:00を休館とした。

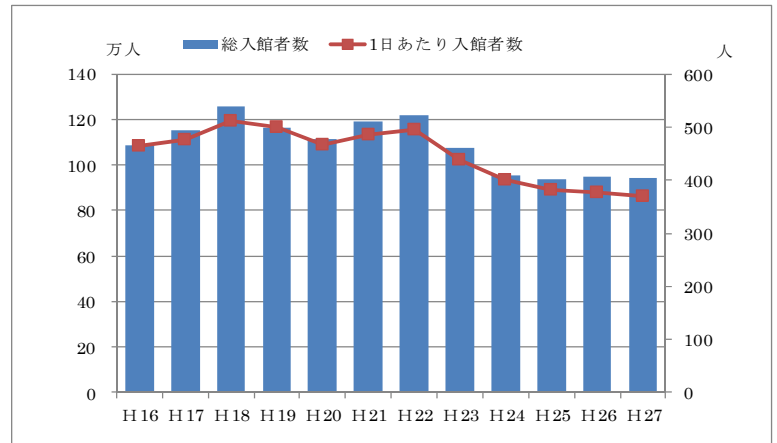
＜入館者数の推移＞

＜入館状況＞

＜入館者数経年推移＞

平成 16～27 年度の総入館者数および 1 日あたりの入館者数の経年推移を右に掲げた。

平成 16～25 年度で減少している年は、改修工事（総合・国際、社会系）および入退館管理システム導入の影響があった。平成 26 年度以降は、ほぼ横ばい状態である。



＜全館入館者数＞

	総入館者数	1日あたり入館者数
H27/H26	1.00	0.98
H26 年度	948,026	377.3
H27 年度	940,894	369.1

- ・表は、全館の平成 27 年度の入館者数について、前年度と比較したものである。
- ・総入館者数は前年度並みであったが、1 日あたり入館者数は 8.2 人減少した。

＜通常開館＞

平日 8:45～17:00 時間帯の 1 日あたりの入館者数

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H27/H26	1.02	0.99	0.85	1.11	0.91	0.89	0.95	1.08	0.98	0.98
H26 年度	994.4	635.4	396.9	259.6	281.5	22.9	287.9	177.2	102.5	351.2
H27 年度	1,012.3	629.9	339.3	287.8	257.4	20.4	273.6	190.8	100.7	345.3

- ・表は、平日 8:45～17:00 の時間帯の 1 日あたりの入館者数を平成 26 年度と比較したものである。
- ・人文科学図書館で増加した要因としては、ラーニングコモンズで授業・オフィスアワーをはじめ各種イベントを開催したこと、他館からの資料取寄せ（デリバリ）件数が増加して手続きのための来館が増えたこと、加えて前年度 11 月に開設した「日本文化資料コーナー」の利用が多くあったことが考えられる。自然科学系図書館で減少しているのは、館内改修や外壁補修など工事が続いた影響と思われる。

＜夜間開館＞

平日夜間（17:00～）時間帯の 1 日あたりの入館者数

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H27/H26	1.06	0.99	0.85	1.36	0.88	—	0.99	1.05	1.02	1.01
H26 年度	178.9	123.4	109.7	55.7	48.4	—	87.9	34.5	14.0	83.7
H27 年度	190.3	121.9	93.7	75.6	42.6	—	86.8	36.3	14.3	84.6

- ・人文科学図書館は、開館時間を 1 時間延長（試行）したことにより大幅に増加した。
- ・一方、自然科学系図書館、人間科学図書館では減少傾向が続いており、次年度以降も注意深く見て

いく必要がある。

- ・ 総合・国際文化学図書館、社会科学系図書館の数値は、前期試験期間に実施した「朝開館」を含んでいる。

<土曜・日祝開館>

土曜・日祝日の1日あたりの入館者数

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H27/H26	0.93	1.07	0.81	0.88	0.78	—	1.01	0.97	1.07	0.96
H26 年度	160.8	287.1	153.0	112.0	50.5	—	98.7	63.2	29.8	141.5
H27 年度	148.9	307.9	124.6	98.6	39.5	—	100.0	61.2	31.8	136.4

- ・ 館によって増減はあるが、全体として前年度より4%減少している。
- ・ 自然科学系図書館で本年度から通常期の日曜開館（試行）が始まった。開館日数は37日で総入館者数は4,198人、1日あたりの入館者数は113.5名であった。
- ・ 社会科学系図書館は、館内整理による休館日が毎月から隔月になったことにより増加している。

<24時間開館>

- ・ 自然科学系図書館と医学分館で実施している。

利用者数は右表のとおりである。両者の利用者数に大きな開きがあるのは、医学分館では自習や試験準備のために学部2年次以上の学生が利用しているのに対し、自然科学系図書館では、主に院生が雑誌論文の複写のために入館するといった利用が中心となっているからである。

	自然系	医学
H27/H26	—	1.19
H26 年度	155	17,884
H27 年度	96	21,244

◆評価と課題

平成27年度の入館者数は940,894人でほぼ横ばい（約0.8%減）であった。1日あたりの平均入館者数も前年度より若干減少しており、要因は特定できないが微減傾向であるため、次年度以降も動きを注意深く見ていく必要がある。

本年度は「学生生活実態調査」等で要望の多い開館時間について、いくつかの拡充を試みた。開館日数を全館合計で48日増やし、人文科学系図書館における通常期平日の開館時間延長や社会科学系図書館の日曜開館日増加などでは一定の効果が認められた。一方、前期試験期に総合・国際文化学図書館、社会科学系図書館で試行した朝開館は、平均入館者数が総合・国際で50.2人、社会系で33.5人と一定数の利用はあったものの、実施にあたる人員確保に問題点があることも確認された。また、自然科学系図書館の24時間特別利用サービスは、セキュリティおよび施設・物品管理上に問題があること、近年利用者数が減少していることから、平成27年3月末をもって中止することになった。今後も厳しい財政状況の下、現行サービスについては、拡充と縮小の両方向を視野に入れ、ニーズ・利用状況・運営面からの調査・検討を慎重に行い、改善を進めていく必要がある。

本年11月、総合・国際文化学図書館に附属図書館としては三つ目のラーニングコモンズが設置された。既設の人文科学系図書館ラーニングコモンズが入館者数増加に寄与し始めているように、多くの利用者を惹きつける場として定着するよう、環境整備や人的支援などの取組を進めていかなければならない。

平成28年度から神戸大学教育改革がスタートする。クォータ制導入やカリキュラム見直しなどの変化に迅速かつ的確に対応できるよう、関連部署と連携を図りながら努めていかなければならない。

（２）学生用資料整備

館室別の蔵書数、受入図書冊数、資料費総額等は別添基本統計の通りである。

＜資料費予算と重点整備＞

- 各館室の学生用資料の整備は、図書館予算（図書館セグメント）から各館室に配分した経費と、各館室のサービス対象部局から拠出された経費（部局セグメント）を合わせて実施することとなっている。
- 平成 27 年度の図書館予算は 58,450 千円であった。前年度に引き続き、全学運営費交付金の減額に伴い 1.3%の減額とした。
- 平成 18 年度より震災文庫資料費（500 千円）は独立した予算項目となっている。
- 平成 16 年度より実施している装備付納品を、引き続き総合・国際文化図書館（1,783 冊）、社会科学系図書館（1,786 冊）、自然科学系図書館（1,197 冊）、人間科学図書館（549 冊）、保健科学図書室（198 冊）において実施し省力化・合理化を進め、その人的資源を目録遡及入力作業等に投入した。

＜各館室の整備状況＞

H27 受入	総合	国際	社会	自然	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
図書冊数	3,697	418	3,265	2394	814	1,385	121	993	1,053	1,344	14,976
雑誌種数	102	11	30	133	22	333	0	178	96	125	1,030

- 各館室では配分された資料費をもとに関係部局のシラバス掲載図書の購入をはじめ参考図書、授業関連図書等の資料整備を行った。

＜選書体制と収集方針＞

- 平成 16 年度に「学生用資料整備計画大綱」（附属図書館運営委員会決定）に基づき各館室図書委員会にて学生用図書資料の範囲、選定体制・方法等の整備計画の策定を行った。
- 総合図書館では「総合図書館学生用資料整備計画」を策定するとともに学生用資料整備を推進するため「総合図書館資料選定委員会」（構成委員は職員）を立ち上げて具体的な選書スケジュール、選書手順などについて検討し、資料整備を進めた。
- また、総合図書館では、学生の声を資料選定に反映させるための試みとして、「学生選書ツアー」（学生が図書館に置いてほしい図書を、書店の店頭で直接手にとって内容を確認しながら選定するというもの）を平成 22 年度より実施している。平成 27 年度は、10 月 23 日にジュンク堂書店三宮店において店頭選書を行ったほか、ジュンク堂書店の発注システムを利用したオンライン選書も行った。あわせて 19 名の学生（学部生 12 名、院生 7 名）が参加して選書を行い、157 冊を購入した。学生が必要とする資料の一層の充実を図るため、今後も、こうした取り組みを継続する方針である。

＜選書評価＞

- 平成 18 年度から、前年度に整備した学生用図書について、利用状況の分析等による収集資料の評価を開始し、平成 21 年度からは、各館室とも共通したフォーマットによる選定評価を行っている。本年度末には、平成 26 年度に整備した学生用図書の選定評価を実施し、構成と利用の面で選定が適切に行われたことが確認された。（平成 27 年度第 4 回附属図書館運営委員会で報告）

◆評価と課題

平成 17 年度以降、学生用資料費の図書館予算が大幅に増額され、概ね要求は満たされたものとな

っているが、本年度は前年度に続き前年度比 1.3%の減額となった。今後も教育・学習活動の支援のため現行の予算規模の維持を目指すと共に、より適切な資料選定を行うよう留意する必要がある。また選定評価についても、現状の利用面の評価に他の評価視点を加え、収書の PDCA サイクルの強化を検討する必要がある。

（３）資料提供サービス

貸出およびデリバリ図書配送冊数等の詳細は、付録「基本統計表」（p 62）のとおりである。相互利用サービスについては、2（４）に後述する。

《貸出サービス》

運用面について、以下の変更を行った。

○「どこでも返却」・「取り寄せ（デリバリ）」参加館の追加

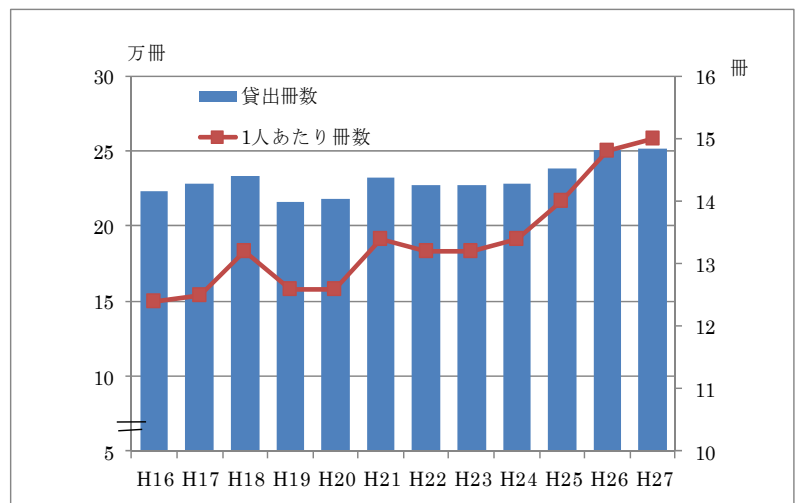
・平成 27 年 4 月から経済経営研究所図書館が加わり、全 9 館室で利用可能になった。

＜貸出冊数（学部生・院生）経年推移＞

平成 16 ～27 年度の
経年推移を右に掲げた。

- ・本年度の貸出冊数は、約 1,500 冊増加し、251,799 冊であった。
- ・学生 1 人当たりの貸出冊数は院生の貸出数が伸びたため、前年度 14.8 冊から 15.0 冊になった。

＜貸出冊数(学部生・院生)＞



＜館室別学部生・院生貸出冊数＞

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H27/H26	0.93	0.98	0.99	1.23	1.05	1.43	1.02	1.04	1.14	1.01
H26 年度	72,425	59,223	39,630	17,105	23,472	565	7,038	13,545	17,241	250,244
H27 年度	67,066	58,260	39,224	20,982	24,597	809	7,204	14,051	19,606	251,799

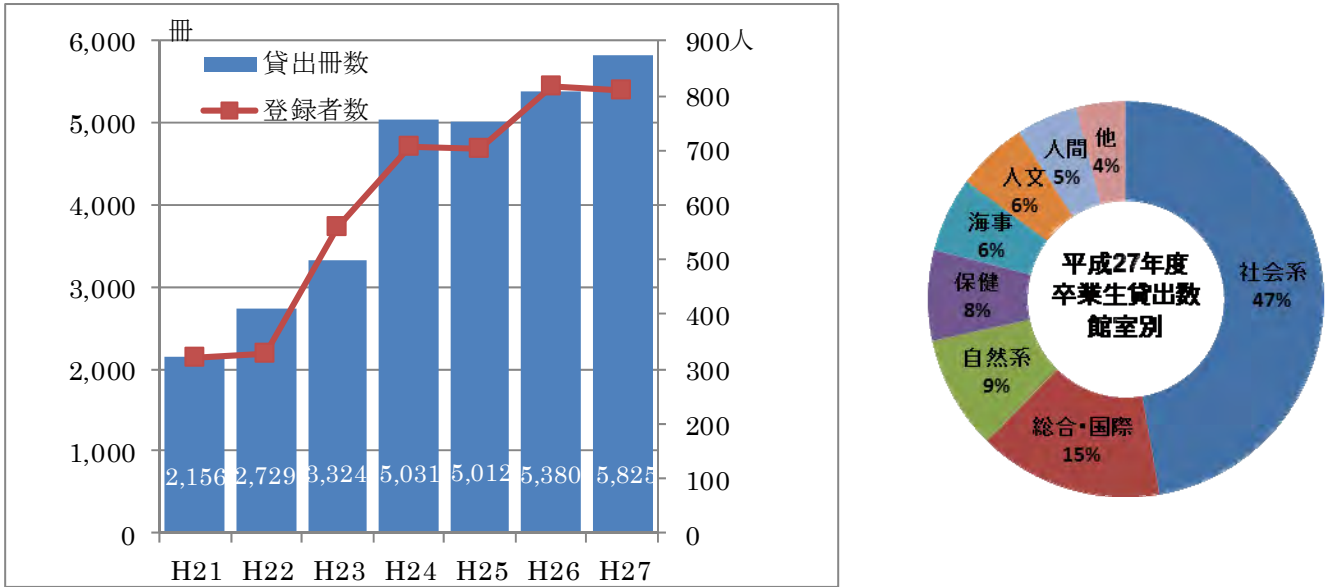
- ・経済経営研究所図書館が増加しているのは本年度からデリバリに参加したことによる。
- ・人文科学図書館は大学院生の貸出冊数が大幅に増えたため増加した。総合・国際文化学図書館で減少しているのは、学部生の貸出冊数が減ったためである。

＜卒業生及び修了者に対する貸出＞

本学卒業生及び修了者への貸出サービスは、平成 21 年 3 月から始まった。本年度の登録者数は約

800 人で前年度とほぼ同数であったが、貸出冊数は 8%ほど増え約 5,800 冊となった。従来どおり社会科学系図書館を中心に利用されているが、理系分野の利用が増えており、利用は各館室に分散する傾向にある。

<卒業生貸出の推移>

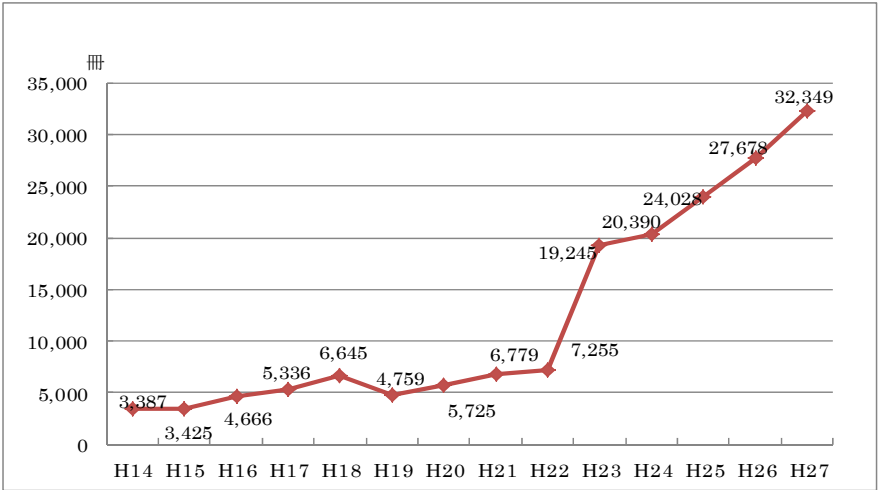


《デリバリ（図書館間資料配送）サービス》 <デリバリサービスの推移>

デリバリサービスは、平成 12 年度後期に院生、教職員（異キャンパス間は学部学生も）を対象に始まった。

平成 23 年度に激増したのは、六甲台キャンパス内の学部学生にサービスを拡大したことによる。本年度は、経済経営研究所が加わり、全館室でサービスが利用できる体制が整った。貸出数は前年度から更に 4,671 冊（17%）増加し、平成 24 年度以来 15%を超える増加傾向が継続している。

<デリバリサービス貸出冊数推移>



<館別デリバリ発送・受取冊数>

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H27/H26	1.14	1.14	1.16	1.19	1.14	—	1.19	1.25	1.05	1.17
H26 年度	13,319	12,122	5,344	9,643	7,483	—	1,141	2,101	4,203	55,356
H27 年度	15,164	13,835	6,216	11,497	8,500	1,095	1,358	2,632	4,401	64,698

- ・ 上の表は、平成 27 年度に他館室へ発送した冊数と他館室から受け取った冊数を館別に合算し、平成 26 年度と比較したものである。全館で前年度より増加している。
- ・ 発送冊数と受取冊数を合算しているため、貸出冊数（発送冊数）の 2 倍になっている。

<附属中等教育学校への図書貸出サービス>

平成 24 年度から総合・国際文化学図書館、人間科学図書館の 2 館が所蔵する図書を附属中等教育学校へ貸出するサービスを行っている。これは「中等教育学校図書室」に後期課程生徒（高校生）向け図書の整備ができる平成 28 年度まで、5 年間限りの特別措置として実施しているものである。

前年度、総合・国際文化学図書館からの貸出はなかったが、本年度は多数の利用があった。

これで 4 年間の貸出総数は 437 冊となったが、これまでの実績から問題点も見えてきた。また、平成 28 年 2 月には附属学校部長、附属中等教育学校長連名で、附属図書館長に対し本サービスの延長を含めた要望書が提出された。次年度は、平成 29 年 3 月の更新に向け、サービス方法の改善などについて担当者間で協議していくことになっている。

貸出冊数

単位：冊

	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	合計
総合・国際	134	11	0	246	391
人間	7	25	7	7	46

<<利用促進>>

<テーマ図書展示>

所蔵図書からテーマに沿った図書を館員が選び、期間を決めて展示する取組は、当初数館室で個別・不定期に行われていたものを、平成 26 年度からサービス企画ワーキングの下、全館共通テーマを設定して各館室の参加を促し、附属図書館ウェブサイト専用ページを設定して全館規模の活動へと発展した。本年度は総合図書館資料選定委員会の計画の下、春は「大学新生活スタート」、秋は「古典」を共通テーマとして各館室で展示を展開した。また、それ以外の時期にも各館室の特色やイベントに合わせた展示を積極的に行い、年間合計 37 回を次の表のとおり実施した。

テーマ展示一覧

共通テーマ	開催月	館室名	テーマ
大学新生活スタート	4-5	総合・国際	大学生になったあなたへオススメする 83 冊
	4-5	社会系	はじめの第一歩
	4-5	人間	人間関係の本
	4-5	医学	医を志す人に贈る～はじめに読む本～
	4-5	自然	自然科学は冒険かも。
	4-5	保健	新生活応援本 ～「健康的な食生活」から「暮らしの知恵」まで～
	4-6	人文	ようこそ、人文学の世界へ
	4-5	海事	セカイがあなたを待っている。
-	6-7	人間	ファッションの本
-	6-7	医学	マンガ+@、集めてみました
-	6-7	社会系	レポート・論文の書き方
-	6-7	社会系	ダメされないチカラ ～悪質商法回避術～
-	6-7	社会系	企業を知る ～消費の一步～
-	6-7	海事	レポート・卒論の書き方
-	6-8	総合・国際	レポートの書き方
-	7-8	人文	レポート・論文の書き方
-	8-9	人間	戦時下の教育
-	8-9	社会	心・頭の中をスッキリさせる本
古典	10-11	社会	日本の今を考えるための古典と研究
	10-11	人間	古典派の作曲家たち ～ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンを中心に～
	10-11	人文	受け継がれる古典
	10-11	医学	医学の古典と関連図書
	10-11	海事	こてん。
	10-12	総合・国際	故くて新しい古典の世界
-	11-12	社会	三商ゼミ、発表ゼミの先生の著書
-	12-1	医学	学生図書委員が選んだ本
-	12-1	海事	教員推薦図書
-	12-1	人間	院生さんのおすすめ本
-	12-2	総合・国際	特設展示「職業と学び ～キャリアデザインを考える～」
-	12-2	総合・国際	書評・キャッチコピーコンテスト入賞作品
-	12-3	社会	P.F. ドラッカー没後 10 年企画～『ドラッカーの教え』
-	1-3	総合・国際	学生選書ツアー2015 選定図書
-	2-3	総合・国際	特設展示 ウンベルト・エーコの著作
-	2-3	人文	New Arrivals!
-	2-3	人間	いじめについて考える本
-	2-3	医学	医学生のための英語特集
-	2-3	自然	宇宙を見上げて

<イベント>

・BOOKISH FES 書評・キャッチコピーコンテスト

附属図書館の資料活用の活性化を図る企画の一環として「BOOKISH FES 書評・キャッチコピーコンテスト」を実施した。この企画は、自分の伝えたいことを表現する機会を設けるとともに、他者の読書体験を通して多様な読み方に触れてもらうことを目的として本年度初めて行ったものである。書評部門とキャッチコピー部門の2部門に分けて募集した結果、書評部門12編、キャッチコピー部門31編の作品が集まった。投稿された作品は総合・国際文化学図書館内に掲示し、利用者の投票により優秀作品を決定した。投票数は書評部門50票、キャッチコピー部門57票であった。

・手作りPOPワークショップ

(日程：12月18日、会場：総合・国際文化学図書館、参加：12名)

「学生選書ツアー」(2(2)参照)の参加者を対象に平成26年度にスタートした。選書ツアーで選定された図書は展示コーナーに一定期間展示するとともに、手書きPOPも作成しているが、それを職員だけではなく、選定した学生自身にも作ってもらう企画である。当日は職員の指導のもと、学生と職員の有志が、選定した資料をわかりやすく推薦するPOPを作成した。設置後半年間のデータをみるとPOPのある図書12冊の平均貸出冊数がPOPのない資料の約1.7倍になっており、学生との協働作業によって選書資料のアピールをすることができた。

◆評価と課題

平成27年度の学部生・院生への貸出総冊数は約252,000冊で、平成13年度以来最多であった前年度冊数をわずかながら上回った。非常によく利用されていると評価できる。

しかし内訳をみると、学部生の貸出数は148,555冊で6%減少しており、逆に大学院生は103,244冊で12%増加という対照的な結果が出ており、従来とは異なる傾向を示している。

大学全体の財政状況が厳しさを増す中、本年度の学生用図書資料費は1.3%減額を余儀なくされ、新刊書購入冊数は減らざるを得ない状況である。テーマ図書展示に代表される図書利用促進に繋がる各種取り組みを全学的に継続して実施したこと、全館室体制となったデリバリ(図書館間資料配送)サービスがよく機能していることにより、高い貸出数を維持することができている。

今後も利用推進活動の継続とバージョンアップ、デリバリによる迅速で安定した資料提供環境の確保を基本とすべきであろう。また、卒業生や附属学校など関係者から寄せられる要望が大きくなっており、現行サービスとのバランスを考えながら応えていく必要がある。その上で、カリキュラム・授業とより密接に連動した選書や利用促進活動をめざすため、教員および教育関連部署との情報交換や連携にも踏み込んでいく必要がある。

(4) 図書館相互利用 (ILL) サービス

<相互利用サービス>

区分		総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
複写	受付	H27/H26	1.40	0.93	0.97	0.75	1.15	1.35	0.99	0.87	0.94
		H26 年度	194	3,303	688	716	431	188	1,617	919	8,374
		H27 年度	272	3,058	668	536	495	253	1,595	799	7,879
	依頼	H27/H26	0.66	0.96	0.77	1.14	1.40	0.37	0.82	1.04	0.97
		H26 年度	932	1,746	661	881	987	35	800	684	6,860
		H27 年度	614	1,669	507	1,000	1,377	13	657	710	6,629
貸借	受付	H27/H26	1.31	0.98	0.75	1.38	0.79	1.50	0.90	0.50	1.07
		H26 年度	344	1,544	166	413	262	10	10	8	2,818
		H27 年度	449	1,513	124	572	206	15	9	4	3,002
	依頼	H27/H26	0.93	0.86	1.00	1.39	1.35	1.00	1.67	1.00	1.12
		H26 年度	260	338	112	460	122	19	6	13	1,333
		H27 年度	242	289	112	639	165	19	10	13	1,498

・館室によって増減はあるが、全体として前年度と比べて文献複写の受付は 6%減、依頼は 3%減、現物貸借の受付は 7%増、依頼は 12%増となっている。

◆評価と課題

平成 27 年度の利用は全体として複写は減少、貸借は増加となっている。これは、平成 27 年度だけの一時的現象のようにも思われるが、今後の推移に注目していきたい。

自然科学系図書館・保健科学図書室・海事科学分館ではトイレ改修工事に伴う書庫の一部閉鎖などの影響で、外部への依頼件数・受付件数に変動があった。

社会科学系図書館は、複写は全体の約 39%、貸借は約 50%を受付ており社会科学系の外国雑誌センター館として、また地域の中核となる図書館として、その責務を果たしていくことが求められていると言える。

平成 23 年 4 月 1 日より、中華民国（台湾）の國立成功大學図書館と相互利用を開始した。また平成 24 年 9 月 1 日より海事科学分館と公益財団法人日本海事センター海事図書館（東京）との間で相互協力を開始した。平成 26 年度は、5 月 12 日にアジア経済研究所図書館と「相互利用に関する覚書」を締結した。また、6 月 4 日より国立国会図書館の図書館向けデジタル化資料送信サービスを「社会科学系図書館」「総合・国際文化学図書館」「人文科学図書館」「人間科学図書館」の 4 館室にて実施した。このような国内外の図書館との協力を含め、今後はより多様化するニーズに応えるサービスを展開していかなければならない。

(5) 学生参加型および学生との協働の取組

《学修支援における取組》

平成 26 年度より「サービス企画 WG」において、既存の情報リテラシー支援活動の枠を超え、新たな学修および研究支援の方法を模索している。平成 27 年度はその活動の重点を引き続き学修支援

に置き、学生が自主的にアクティブ・ラーニングを行うための仕掛けづくりを主な目標とした。またその目標実現のために、図書館内外の連携を図った。

その他にも、必ずしも直接の学修支援ではないが図書館の利用促進と、図書館および図書館資料への理解を深めるための試みを行っている。

＜協同学修シリーズ＞

附属図書館においては情報基礎の講義（２（６）参照）において１コマを担当し、教育活動に携わっているところであるが、さらに講義の外で行う広い意味での学修支援活動を「協同学修シリーズ」と名づけ、企画している。平成 27 年度は 2 テーマにおいて同シリーズを開催した。

1. 「大学生のための生活講座」

（会場：国際文化学部学生ホール、参加：計 17 名）

学生は就活をする頃になって初めて、キャリアについて考えることが多い。その段階における直接的なサポートはキャリアセンターによって行われているが、それとは別に、早い段階から広い意味でのキャリア形成を考える機会となることを目的として実施した。講師として経営学研究科 馬場新一准教授に加え、公益社団法人 NACS および一般財団法人 ASAP より外部講師を迎えた。

第 1 回 6 月 8 日 テーマ「ダメされないチカラ～悪質商法回避術～」

悪質商法の問題が紹介され、学生の相談が多い事例をワークショップ形式で学んだ。

第 2 回 6 月 22 日 テーマ「企業を知る～消費の一步～」

広告やパッケージ表示を題材に、企業は消費者とどのように向き合っているかを学んだ。

2. 「ライティングコモンズ開設記念セミナー」

（会場：鶴甲第一キャンパス LC 参加：計 66 名）

鶴甲第一キャンパスライティングコモンズ開設記念行事として、前年度に引き続きアカデミックライティングの初歩についてのセミナーを開催した。本年度は各回に演習の時間を設け、受講者が実際に手を動かす時間を作った。第 3 回目は大阪大学附属図書館において教員・職員・TA の協働によるライティングセミナーを開催し、授業化することに成功した、同大学堀准教授を講師として迎え、「職員・TA のためのアカデミックライティング指導法」と題し、今後図書館員をはじめとする職員や TA がライティングの指導に関与することを想定とした講座を行った。

募集対象は主に 1～2 年生としたが、学生の参加が非常に少なく、開催時期・時間・広報の方法等が検討すべき課題となった。来年度は情報基礎や初年次セミナーとの連動を目標とした。一方、附属中等教育学校教員を含む教職員の参加が多数あり、学内にライティング指導に対する必要性の認識が存在することが確認できた。

第 1 回 11 月 24 日「論理的な文章の書き方入門」

講師：大学教育推進機構 近田政博教授

第 2 回 12 月 10 日「レポート・卒論の書き方：バーチャル参加もできる 2 ちゃんねる型授業」

講師：経済学研究科 滝川好夫教授

第 3 回 12 月 15 日「職員・TA のためのアカデミックライティング指導法」

講師：大阪大学全学教育推進機構 堀一成准教授

＜その他の企画＞

1. 「クイズラリー」

（日程：5月7日～6月5日、会場：総合・国際文化学図書館はじめ学内全館、参加：86名）

総合・国際文化学図書館では平成25年度より、主に新入生を対象に、ラリーマップと図書館利用案内を手がかりにして館内をめぐり、OPAC検索を交えたクイズに答えると景品がもらえるイベントを行っている。前年からは学内の他の図書館3館を回るとさらに景品がもらえるルールに変更した。ゴールした人数は総合・国際文化学図書館内が86名で、そのうち36名がそれ以外の図書館3館を訪れていた。新入生に多数の図書館を訪問するきっかけを作るものとなった。

2. 脱出ゲーム「うりこ、ぼたん鍋の危機」

（日程：12月7日～12月22日、会場：総合・国際文化学図書館、参加153名）

附属図書館学生チーム ULiCS（後述）の発足および、総合・国際文化学図書館ラーニングコモンズ完成を記念して行ったイベントである。図書の探し方程度は知っている学生を対象に、館内をめぐりながらクイズを解きつつ図書館活用のためのスキルの向上をはかることを目的として実施した。ULiCSは問題作成、実施テストに参加した。参加者数（問題配布数）153名、ゴールの達成者が39名であった。新設したラーニングコモンズの周知とともに、ULiCSとの企画段階からの協働を実現することができた。

3. 書庫ミュージアム展：アート in 図書館書庫

（日程：1月19日～1月21日、会場：人間科学図書館、参加約70名）

人間発達環境学研究科・立体造形特論ゼミ学生の作品の展示会場として人間科学図書館の書庫を提供した。作品は、壁・通路、書架や天井等に展示するだけでなく、触ってもらうことも可能であった。人と「書庫」をアートで繋げるというコンセプトに基づき、「書庫」という空間を知識の倉庫と、またそこにある「本」を情報発信の一媒体と捉え、それを紹介することも目的とした。展示会開催後、書庫が身近に感じられるようになったとの声が多く寄せられている。

＜附属図書館マスコットキャラクター「うりこ」＞

これまでガイダンスやイベントにおける配布物、附属図書館の制作するノベルティグッズ等にしばしば使用されてきたイノシシの図案「うりこ」について、平成26年度「附属図書館マスコットキャラクターの取扱いに関する申し合わせ」を策定し、公式的なキャラクターとした。

本年度は、新入生向け利用案内等に使用された他、図書館総合展で開催された「第1回図書館キャラクター・グランプリ」に参加し、142組のエントリーの中から来場者投票により「見た目で勝負」部門に入賞した。



（うりこ）

＜ラーニングコモンズにおける取組＞

11月に、学内のラーニングコモンズ（以下「LC」）における基盤的施設と位置付けられる、「鶴甲第一キャンパスLC」を開設した。その開設にあたっては、附属図書館の職員が委員として参加する、教育担当理事の元に設置された全学的組織「LC運用準備委員会」（以下「全学LC委員会」）において、12回の委員会を開催し、フロアプランや備付機器・什器選定を含む設置計画、利用ガイドラインの検討、オープニングイベントの検討、SA/TAの活用を含む設置後の運用課題の検討、LCウェブサイトの開設等を行った。

更に同委員会では、この鶴甲第一キャンパスLCを基軸に、全学の関連施設の全体を「神戸大学スタイルLC」と捉え、全学的な協働のもとに学修支援を行う体制を構築するため、全学LC共通ロゴ

の外注制作（素案は前年度公募決定済み）を行った。また、全学の部局から募集した LC 設置候補施設のうち、基準を満たすものについて LC としての認定を行い、ロゴマークの配布を行った。以上において同委員会は設置の役割を完了したが、同事業は、本学の大学教育推進委員会に設置された「LC 専門委員会」およびその下に置かれる「LC 連絡会」として継続実施される。附属図書館からは館長が専門委員会、職員が連絡会に参加することとなった。

＜鶴甲第一キャンパス LC オープニングイベント＞

（会場：鶴甲第一キャンパス 1 階 LC、参加：各回約 15～20 名）

ラーニングコモンズが単なる談話室や自習スペースにならないためには、ただ設置するだけではなく、使い方について提示していくことが必要であるとの意識により、全学 LC 委員会の企画において 4 つのオープニングイベントを行い、図書館職員も企画運営に参加した。

第 1 回はロゴマークを制作したデザイン会社へのインタビュー、以降は学生団体による研究等発表であったが、いずれの回も別の学生団体等による司会進行で行われた。特に第 3～4 回目は理系学生の発表に対してに文系学生がインタビューを行う形を取り、「学問の垣根を超えた議論を通じて、開かれた協同の学びを实践する場」としての「神戸大学スタイル LC」の在り方の一例を示した。

第 1 回 11 月 9 日「LC ロゴマークお披露目 明後日デザイン制作所 × 神大ニュースネット委員会」

第 2 回 11 月 10 日「六甲祭プレイベント × 神戸大学新聞会」

第 3 回 11 月 11 日「工学部レスキューロボットチーム「六甲おろし」× 神大学生ボランティア」

第 4 回 11 月 12 日「塚本研究室「光るルミナリエ募金箱」× 文系学生」

＜附属図書館学生チーム ULiCS＞

アルバイト以外の形での学生との協働を模索する初の試みとして「附属図書館学生チーム」を設立した。7 月にメンバーを公募したところ、幅広い学部・研究科の、留学生を含む 9 名の学部学生・院生から応募があった。学生チームメンバーとして図書館活動に関わることを通じて、コミュニケーション力や協働する力の向上を図り、さらに自らの情報リテラシー能力を向上させることを目的としている。また図書館においては、学生との協働により、教職員以外の視点を図書館活動に取り込むことを目的としている。

募集にあたって、想定される活動内容を、イベントの企画・運営、図書館の利用案内づくり、グッズの企画制作とした。職員の作業補助等を行う一時雇用またはボランティアや、今後雇用が検討されている SA/TA 制度との違いを明確にした。

職員と合同の会議を含む、10 回に及ぶミーティングにおいて、学生の発案で団体名を「ULiCS」（うりくす）と決定し、次年度の本格活動に向け、展示企画およびイベントの企画を行った。広報の方法としてツイッターアカウントを作成した他、ホームページを作成予定である。

年度内の催しとしては、前述「脱出ゲーム」企画に参加した他、予算要求中である自然科学系図書館改修についての工学研究科院生との意見交換会ならびに、その改修計画の参考に資するための全学図書館ツアー（9 館中 7 館を訪問）を行った。

◆評価と課題

附属図書館による情報リテラシー支援の諸活動および、前年度から開始したサービス企画 WG でのイベント的な学修支援の試みは、図書館としての体系的な学修支援の枠組みにおいて位置づけられる必要がある。その大枠は既に設定されているが、今後はその精緻化と、ロードマップを設定しての実施が必要と考えられる。

ライティング支援活動において、職員も教えることに関与することが求められている。また将来図書

館において SA/TA を雇用しての学修支援活動を開始する場合、職員はそれら SA/TA の研修・指導の役割を担うことになる。以上の理由から行われた「職員・TA のためのアカデミックライティング指導法」を契機に、次年度に向けて図書館職員が講師を担当するセミナーの計画と、そのテキストづくりを開始した。但しこれは、従来行われてきた共通教育科目「情報基礎」への図書館職員の関与とは違い、ライティングに関する講義科目がない中での試みであって、今後の継続のためには全学の教員との連携が必須である。学内においてライティング支援活動に関心のある教員とコンタクトをとり、大学全体としての連携を図ることが今後必要である。

ラーニングコモンズについては、鶴甲第一キャンパス LC の完成と、学内の多くの部署に LC 関連施設を認定したことは、あくまでスタート地点に立った状態と考えるべきで、まずは鶴甲第一キャンパス LC において、常にすべての学生に開かれた知的活動が行われている状態をつくっていくためにも、LC 関連委員会による利用促進が今後も必要である。

附属図書館学生チームについては、募集から非常に短期間でメンバーが集まり、学内に一定の割合で図書館活動に高い関心のある学生が存在することが明らかになった。図書館側からみて学生チームとの活動目標は、学生協働による利用者目線でのサービスの提供であるが、まずは学生チームが館内において自由に、自発的な活動を行うことのできる環境が必要である。そうした活動のために必要な「部室」にあたる場の提供が困難であることが課題となっている。また学生は年々入れ替わっていくため、今後の活動においては継続性にも留意することが必要である。



(全学 LC 共通ロゴ)



(LC 開設記念セミナーチラシ)



(脱出ゲームチラシ)

(6) 情報リテラシー教育の推進支援

<情報リテラシー教育支援>

- 平成 16 年度より設けられた全学共通教育必修科目「情報基礎」では、平成 20 年度より 1 コマ (90 分) が「情報の活用：レポート・論文作成のための情報リソース活用法」にあてられ、図書館職員が担当することになった。本年度は、5 月中旬～6 月下旬を中心に計 23 回 (補講・再履修を含む) 講義 (実習を含む) を行った。
- 平成 20 年度より情報リテラシー係と各館室のサービス係員から構成される「情報リテラシー教育支援 WG」を組織して、課題や理解度テスト (ちからだめし) など改訂し、WG メンバーで分担し講義を行っている。学部新入生全員に補講受講者等を加え、約 2,700 人が受講した。

- ・ 基本となる図書館ホームページ上のサービス紹介をはじめ、レポート・論文作成の際に役立つ各種データベースの紹介、所蔵検索 OPAC（実習を含む）、CiNii Books（実習を含む）、各種 Web サービス等を中心とする内容で実施した。
- ・ 次年度に向けて、授業内容やテキスト・課題・理解度テストの再検討を行った。

＜オリエンテーション、ガイダンス＞

- ・ 情報リテラシー係を中心に、情報リテラシー教育支援 WG メンバー等で以下のガイダンスを開催した。

名称	内容	時期	時間	会場	回数	参加者
留学生オリエンテーション	附属図書館の紹介	4 月上旬	10 分	六甲ホール	1	350
就職ガイダンス	情報収集、操作説明	7、10、11 月	10 分	六甲台講堂、六甲ホール	4	167
新入生図書館ツアー	各館室の案内 資料の探し方、他	4、5 月	15～20 分	各館室	47	168
雑誌論文の探し方(海事科学編)	CiNii、電子ジャーナル等	5 月中旬	70 分	海事科学分館	2	14
雑誌論文の探し方(自然科学編) 「国内編」と「海外編」	CiNii、JDreamⅢ、WoS 電子ジャーナル等	5 月下旬	70 分	自然科学系図書館	4	38
Mendeley 説明会	Mendeley	5 月下旬	70 分	自然科学系図書館	2	18
Web of Science 説明会	Web of Science	5 月下旬	70 分	海事科学分館	2	16
雑誌論文の探し方(社会科学編) 「国内編」と「海外編」	CiNii、magazineplus、 WoS、電子ジャーナル等	6 月上旬	70 分	社会科学系図書館	4	29
EBSCO 海外データベース説明会	EBSCOhost	6 月上旬	70 分	社会科学系図書館	2	6
SciFinder 説明会	SciFinder	6 月上旬	90 分	自然科学系図書館	2	15
日経テレコン説明会	日経テレコン	6 月中旬	70 分	社会科学系図書館	2	7
eol 説明会	eol	6 月中旬	70 分	社会科学系図書館	2	4
雑誌論文の探し方(人文科学編)	CiNii、WoS、電子ジャーナル等	6 月下旬	70 分	人文科学図書館	2	12
ジャパンナレッジ Lib 説明会	ジャパンナレッジ Lib	6 月下旬	70 分	人文科学図書館	2	3
雑誌論文の探し方(発達科学編)	CiNii、WoS、電子ジャーナル等	7 月上旬	70 分	人間科学図書館	2	8
EBSCO 海外データベース説明会	EBSCOhost	7 月上旬	70 分	人間科学図書館	2	2
図書館利用入門(職員対象)	PubMed, 医中誌 Web 等	7 月下旬	90 分	医学分館	1	11

雑誌論文の探し方(社会科学編) 「国内編」と「海外編」	CiNii、magazineplus、 WoS、電子ジャーナル 等	10月下旬	70分	社会科学系図書館	4	10
雑誌論文の探し方(自然科学編) 「国内編」と「海外編」	CiNii、JDreamⅢ、WoS 電子ジャーナル等	10月下旬	70分	自然科学系図書館	4	38
SPEEDA 説明会 (主催:企業資料総合セン ター)	SPEEDA	10月下旬	90分	経済経営研究所	2	9
参考文献の書き方・見方・探し 方	参考文献に関する解 説・実践	10月下旬	70分	自然科学系図書館	2	13
EndNote basic 説明会	EndNote basic	11月下旬	70分	社会科学系図書館	2	8
参考文献の書き方・見方・探し 方	参考文献に関する解 説・実践	11月下旬	70分	社会科学系図書館	2	3
オーダーメイド・ガイダンス	雑誌論文検索方法等 依頼内容を説明	4-3月	60~120分	国文・人間・ 社会・海事・保健等	56	1264

- Web of Science、ジャパンナレッジ Lib、SciFinder、EBSCOhost、SPEEDA、eol、日経テレコン、Mendeley、EndNote basic の各データベース・ツール説明会は、ベンダーから外部講師を招いて実施した。その他は、情報リテラシー係職員、情報リテラシー教育支援 WG メンバー等が講師を務めた。
- 前期の新入生を含む利用者へは、各館室で図書館ツアーを集中的に実施した。
- 「情報の探し方ガイダンス」は、7 館室で実施した。また、教員からの依頼によるオーダーメイド・ガイダンスも多数実施した。
- 実施会場は iMac 端末の設置場所とし、参加者が端末操作して実習できるようにしている。広い会場には、スクリーン、プロジェクター、スピーカーやマイク等を持ち込んで使用し、参加者が理解しやすくなるように努めた。
- ちらし・ポスターや、ホームページ上のお知らせなどに、情報リテラシー系のメールアドレスや図書館 HP の URL を組み込んだ QR コードを採用するなど、利用者が参加しやすくなるように工夫した。

＜ワークショップ＞

- 前年度に引き続き、2 月 3 日、附属図書館と大学教育推進機構・国際コミュニケーションセンター、学術研究推進本部、男女共同参画推進室との共催により、大学院生や若手研究者を対象としたワークショップ「Take a New Step! 学術英語スキルアップセミナー」を開催した。参加者は 106 名、身分別では学部生・大学院生・研究生が約 68%、教員・研究員・職員が約 28%であった。アンケート回答にも、「自身の英語の弱点及び改善方法がより明確になった」「実践的な内容で、スキルをあげるためにトライしてみたいと思える研修だった」等といった声が寄せられ、大変充実したものとなった。



<授業資料ガイド KULiP>

- ・ 図書館による学習支援の一環として、授業シラバスに沿った指定書や、授業内容に関連した資料を紹介する「シラバス型パスファインダー」として、「授業資料ガイド KULiP (Kobe University Library Pathfinder)」を前年度より運用している。本年度終了時点で、作成ガイド数が 31（終了分含む）となり、利用は着実に増加しつつある。

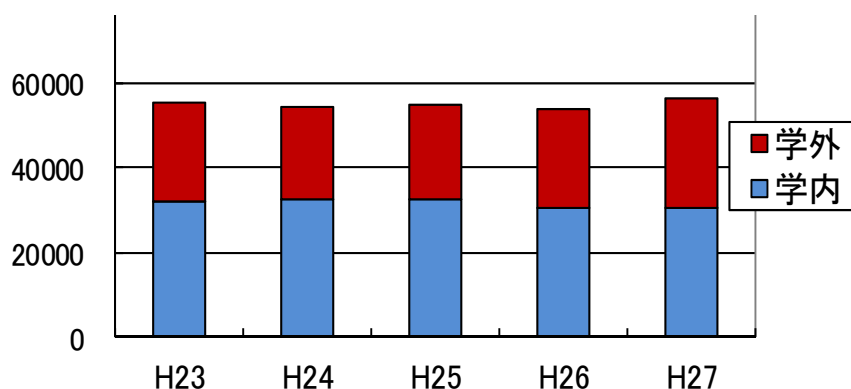
<広報>

- ・ 平成 21 年 6 月から開始した「神大図書館 NEWS」の普及を更に促進するとともに、ガイダンスやトライアル、図書館行事等、様々なニュースを発信して広報に活用した。1 年間で No.173～197 の計 25 回発信した。
- ・ 前年度より運用を開始した公式ツイッターでは、速報性を重視した発信を心がけた。本年度終了時点でツイート数が約 3,700 回、フォロワー数は約 2,400 名となり、着実に情報共有の輪が広がっている。
- ・ 上記に加えて、生協のメールマガジンや「キャリア形成支援 page」カレンダーに掲載を依頼し、ガイダンス等の広報に活用した。

<図書館ホームページの維持・更新>

- ・ 月平均アクセスは約 56,000 件となっている（月別アクセス数は別添統計（p 63）のとおり）。
- ・ 図書館ホームページについては、求める情報に訪問者を効率的に導けるよう、恒常的に調整を図った。イベントや新サービスを告知するスライドパネルやバナーを活用し、親しみやすく、宣伝効果も高いホームページのデザインを目指した。
- ・ ガイダンスに際して作成した資料をホームページに順次アップした。また、各種情報のメンテナンス及び新着事項の掲載等を引き続き行った。

<図書館トップページ月平均アクセス数>



◆評価と課題

必修科目「情報基礎」は 12 年目に入ったが、滞りなく運営できた。「情報の探し方」等の図書館ガイダンスに参加できる利用者は、会場の狭小やテーマの専門性もあり、ある程度限られてくる。そのため、新入生全員を対象とした必修授業を担当することは、図書館にとって大学教育に直接的な貢献ができるだけでなく、図書館利用者の教育という面でも大きな効果を得ることに繋がっている。

授業の課題については、「テーマに従って検索した図書を実際に図書館で探す」という、より実践的な内容として、授業内容の定着を図っている。新入生にとっては、図書館に初めて足を運ぶ機会にもなり、その経験が新鮮なためか、良好な反応が授業後のアンケートにも多数うかがわれる。また、授業内容についても、冗長な説明箇所を整理し、興味ある設問にするなどして、学生の理解度を増すとともに、授業中の注意力が散漫にならないよう工夫し、絶えず改善を施す努力を続けている。

「情報の探し方」等のガイダンスと、外部講師を招いてのデータベース説明会については、ほぼ前年並みの実施回数だったが、参加人数はやや減少した。全体の学生数から見れば、ガイダンスへの参加者数の割合はまだ少なく、広報の工夫や、学生の授業日程を踏まえた開催時期・曜日・時間等の検討が常に必要である。参加者が端末操作して実習できるように、図書館の情報端末室を会場とし、場合によっては情報基盤センターや各部局の演習室などで実施する等の工夫をしている。複数会場での実施により、ガイダンス参加の機会や可能性を広げている一方、常設の会場を持たないため、実施毎に設営に手間がかかり、恒常的な講習会の日程を組みにくい、といった側面も抱えている。

熱心な受講者や教員から、オーダーメイド・ガイダンスの依頼は引き続き増加している。特に教員の依頼によるものは、1度開催すると翌年以降も申込のあることが多い。学生の2年次や3年次に学科・専修単位で毎年実施している例も複数あり、卒業までの履修・学習全体を通した情報リテラシー教育支援を考える上での一例として、今後も継続していく意義があるだろう。

学習支援の一環として運用開始した「授業資料ガイド KULiP」について、参加授業数は着実に増加しつつあるが、今後も学生・教員の両者に対する周知宣伝が必要である。単なるシステム構築に終わることなく、教員と密接に連携しながら「KULiP」を有効活用した授業モデルを模索・提示することにより、学生・教員双方にとって更に魅力ある機能を作り上げて行くことが重要である。また、こうした教員との連携業務が、やがては学習支援担当者＝リエゾン・ライブラリアンとしての職員養成に資するであろうことが期待される。

図書館ホームページについては、最新の情報を掲載できるよう留意し、維持更新に努めた。ホームページのリニューアルは平成28年度に実施されることが決定しており、今後は、様々なリソースを一括して検索できるディスカバリー・サービスや、ソーシャル・ネットワーク・サービスの導入を踏まえた、新しい情報検索・情報発信のあり方を構築していく必要がある。

広報については、掲示物、ホームページやメールマガジン「神大図書館 NEWS」、更には公式ツイッター等による速報性を重視した広報も合わせて展開した。こうした様々な形態を組合せた効果的な活用とともに、予定されている新システムの導入により、更なる展開が待たれる所である。

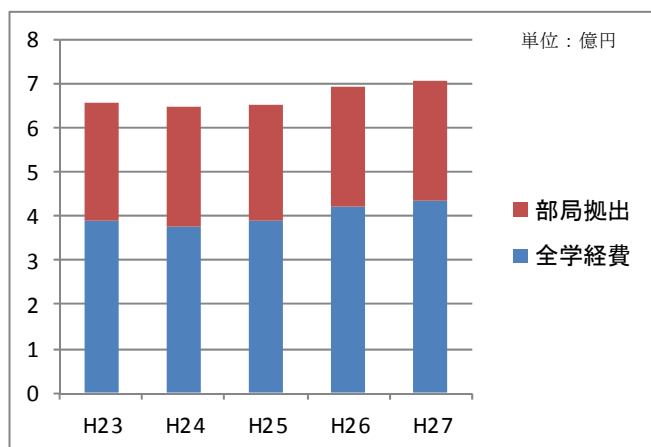
3. 学術研究支援

(1) 研究用資料の整備

各館室の蔵書数、受入図書冊数、資料費等は別添統計（p 61）のとおりである。

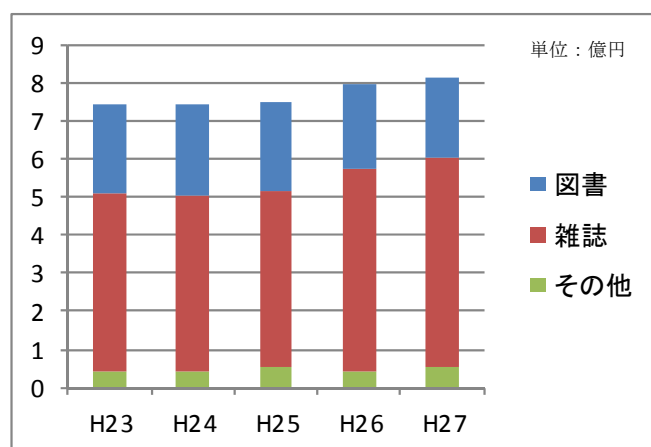
<資料受入状況>

(図 1) <資料費経年推移>



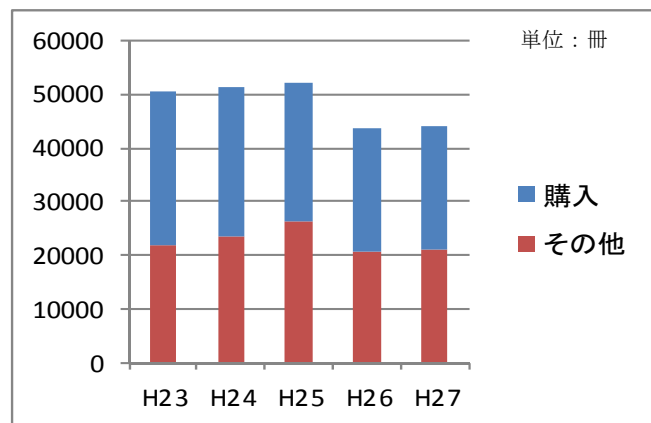
* 一般財源に限る

(図 2) <資料費の用途別内訳推移>



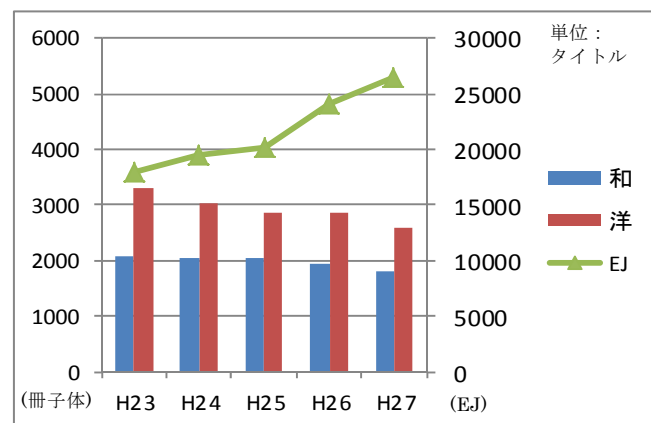
* 電子ジャーナル経費は雑誌として計上

(図 3) <受入図書冊数経年推移>



* 「購入」は一般財源のみ

(図 4) <購入雑誌数経年推移>



* 「購入」は一般財源のみ

- 資料費（一般財源）において、電子ジャーナル・データベース等の提供維持のための経費である「教育研究基盤資料整備費」を含む全学経費分が増加し、約 4.3 億円となっている。部局拠出分は平成 26 年度から微減している。（図 1）
- 資料費（補助金等を含む）においては、図書・雑誌ともに平成 26 年度と同程度を維持している。ただし雑誌費の維持は、購読料値上げと為替変動の影響から購読数が減少したことによる。（図 2）
- 受入図書冊数については、購入（一般財源）の減少傾向が続いているものの、全体としては平成 26

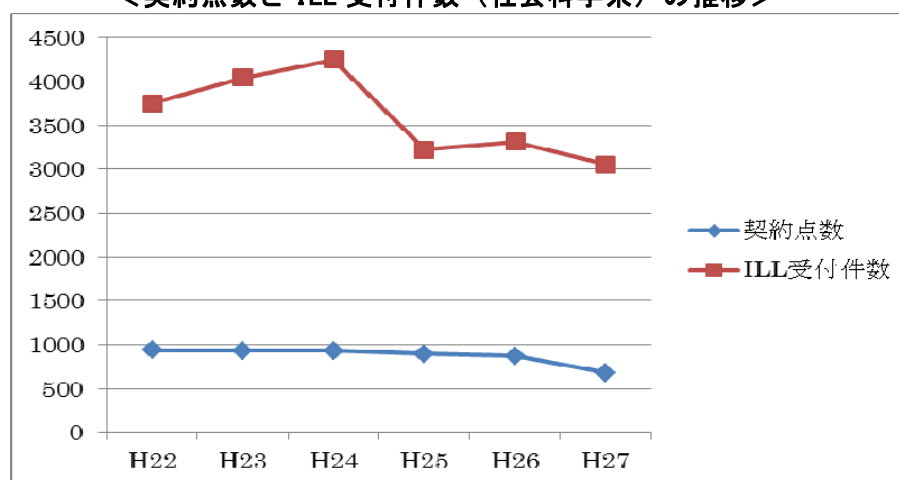
年度と同程度を維持した。(図 3)

- 雑誌の購入タイトル数は平成 21 年度をピークとして減少を続けている。一方、電子ジャーナル数は平成 27 年度末で約 2.6 万タイトルと、増加を続けている。(図 4)

＜外国雑誌センター館＞

- 昭和 61 年度より「人文・社会科学系外国雑誌センター館」の指定を受け、国内での所蔵館が 3 館以内の外国雑誌を体系的に収集し、全国共同利用に供している（配架は社会科学系図書館）。分野別の外国雑誌センター館は全国で計 9 大学に設置され、人文・社会科学系は一橋大学と神戸大学の 2 大学に設置され、分担収集を行っている。
- 平成 26 年度まではタイトル数を大きく減少させることなく維持してきたが、主として為替変動の影響により平成 26 年度は 5,000 千円以上の赤字が見込まれる状況となった。このため、同年度中に購読タイトルの見直しを行い、所蔵館が 3 館以上となっていた雑誌を中心に約 150 誌の中止を決定、平成 27 年度予約点数は 676 誌となった。
- ILL 複写サービスについては、他機関からの複写依頼を常時受け付け、迅速な対応により外国雑誌センター館としてのサービス体制を継続している。

＜契約点数と ILL 受付件数（社会科学系）の推移＞



◆評価と課題

平成 27 年度は、「教育研究基盤資料整備費」3.23 億円が措置され、部局負担の 0.2 億円を加えることにより、電子ジャーナル及びデータベースは平成 26 年度の規模を維持することができた。平成 28～30 年度の同事業については、特定分野の基盤資料への補填率を見直しすることによって維持される方向となった。外国雑誌センター館においては、従来のいわゆるレア・ジャーナル（国内での所蔵が稀少な雑誌）を主な対象とした収集方針を維持しつつも、電子的資料も収集の対象としている。この方針変更はわが国の学術情報流通基盤としての外国雑誌センターのあり方を模索するものであったが、電子的資料を含めた外国雑誌購読に関わる大学図書館の環境は現在一層厳しさを増してきている。そもそも外国雑誌センター館の予算額を維持することも本学では難しい。今後わが国の学術情報流通基盤の 1 つとして外国雑誌センター館が果たすべき役割については個々の外国雑誌センター館の継続的な購読ポテンシャルを見極めたうえで、各館の実情に応じ検討すべきものと思われる。

なお当館の外国雑誌センターは、その所在する社会科学系図書館の ILL の年間受付件数が全国的にも上位にあることから、わが国の学術情報流通基盤において一定の役割を果たしていると考えられる。今後もその役割を維持するためには、限られた予算をより有効に活用することが必要である。

(2) 電子的情報基盤の整備

<外国雑誌と電子ジャーナル>

有料で導入している主な電子ジャーナルは次のとおりである。

	分野	導入年	誌数	範囲	備考
Elsevier 社 ScienceDirect	全分野	H14	2,400	1995～	コンソーシアム契約によるフリーダムコレクション 講読規模維持が条件
Elsevier 社 ScienceDirectBackFile	全分野	H21	2,000	(分野による)	
Springer 社 SpringerLINK	多分野	H14	1,600	2000～	発行のほぼ全タイトル（主要部分は創刊号から）講読規模維持が条件
Wiley-Blackwell 社 WileyInterScience	多分野	H14	1,400	1997 前後～	発行のほぼ全タイトル 講読規模維持が条件
JSTOR	自然科学 及び社会科学	H14	1,500	創刊号～ (最近 3～5 年は対象外)	Arts & Sciences I (H14～) Arts & Sciences II (H17～) Arts & Sciences III (H19.3～) Arts & Sciences IV (H18.3～) Arts & Sciences V (H23.1～) Arts & Sciences VI (H23.1～) Arts & Sciences VII (H21.4～) Arts & Sciences VIII (H23.1～) Arts & Sciences IX (H23.1～) Life Sciences (H15～) Business III (H23.1～)
Nature 社	自然科学	H15	40	創刊号～	
AAAS Science Online	自然科学	H15	1	過去 5 年	
IEEE CSDL	情報通信	H15	30	1968～	会議録年間 300(1995 以降)も利用可能 2015 年度で購読中止
ACM Portal	情報通信	H15	500	ほぼ創刊号～	会議録等も利用可能 2015 年で購読中止
APS	物理系	H16	10	2001～	米国物理学会。 *H16 よりライセンス料要 (以前から利用可能)
Cell Press	生命科学	H16	9	1996～	ScienceDirect で利用
LWW via Ovid	医学臨床	H16	50	1996～	パッケージ購読は 2015 年度まで
ACS	化学系	H16	40	1996～	米国化学会
Oxford University Press	多分野	H17	260	1996～	2014 年刊行タイトル(うち 171 誌は創刊号から) 講読規模維持が条件
Cambridge University Press	多分野	H18	300	1997～	発行のほぼ全タイトル(うち 89 誌は創刊号から) 講読規模維持が条件

- ・ その他、単体で購読しているもの等も加えて、平成 27 年度末における電子ジャーナル購読数は 26,539 タイトルとなった。

- ・ 総体として非常によく利用されており、必須の教育研究基盤資料となっている。
- ・ 電子ジャーナル等については平成 17 年度および平成 20 年度に出された附属図書館審議会答申に基づき本学の教育研究における基盤資料として維持・整備が行なわれ、これまで一定の水準を維持してきた。しかし急激に進展した円安、税制変更に伴う税負担などにより、購読予算の増加は想定を超え、平成 27 年度をピークに今後は購読数の減少が想定される。

平成 27 年度における電子ジャーナル等の提供内容は次のとおりである。

(1) 電子オンリー中心の包括利用契約

大手 5 社（Elsevier 社、Wiley-Blackwell 社、Springer 社、Oxford 社、Cambridge 社）発行のものについては、基本的に各社発行電子ジャーナル全タイトルが利用できる電子オンリー中心の包括利用契約をおこない、その対象となる冊子体の購読はオプションとする。

なお、冊子体の購読を希望する場合は、購読額の 25% 程度の特別価格で購読できるが（Oxford を除く）、これに関しては、雑誌購読補填は行わない。

(2) 上記以外の外国雑誌購読に係る経費補填

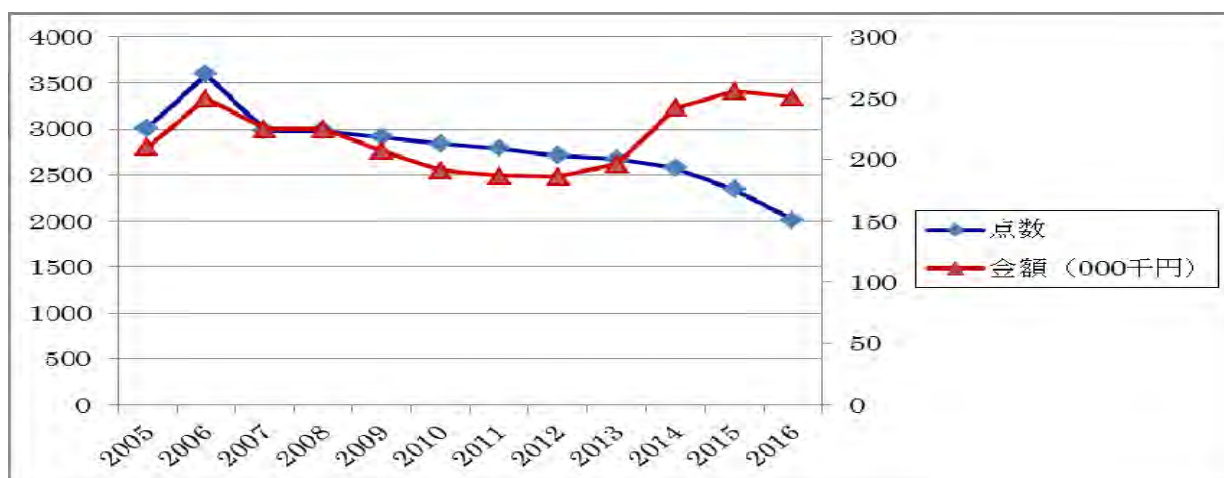
冊子体を各図書館室に配置し、全学共同利用が可能なものについては、全学経費から、当該雑誌購読所要額の 20% を補填する。予算の上限を超えたため平成 27 年度は新規タイトルへの補填は行わなかった。なお補填率は平成 28 年度から 15% に引き下げられることが決定している。

- ・ 平成 28 年外国雑誌の契約は、点数・契約金額とも前年より減ったが、特に点数の減少幅が大きく 1 割以上のマイナスとなっている。契約金額も 2% 程度減少しているものの、平成 27 年 10 月より開始された海外電子配信への消費課税により別途 12,000 千円の消費税負担が求められることになり、実際の所要額としては 2.7% の増となっている。

平成 27 年契約点数 2,343 点 → 平成 28 年 2,011 点 (14.2% 減)

平成 27 年契約金額 約 256,000 千円 → 平成 28 年 約 251,000 千円 (2.0% 減)

<外国雑誌購読推移>



<データベースの整備>

主な導入データベースは次のとおりである。(全てウェブアクセス)

	分野等	導入	範囲	備考
Web of Science SCIE	自然科学 (引用索引)	H15	1900～	H22 バックファイル追加
Web of Science SSCI	社会科学 (引用索引)	H21	1900～	H22 バックファイル追加
Web of Science AHCI	人文学 (引用索引)	H21	1975～	H22 バックファイル追加
JCR Web	全分野	H17		
MathSciNet	数学	H13	1940～	
SciFinder Academic	化学	H16	1840～	利用申請が必要
Readers' Guide to Periodical Literature	一般雑誌	H6	1983～	H18.4 より Web 版に変更 同時アクセス 1
EconLit	経済学	H3	1969～	同上 同時アクセス 4
Index to Legal Periodicals & Books	法学	H3	1981～	同上 同時アクセス 1
EBSCOhost (Business Source Premier, PsycInfo, PsycArticles, CINAHL)	経営学 心理学 看護学	H22		
HeinOnline	法学	H22		アクセス制限なし
Lexis.com	法学	H22		利用申請が必要
Westlaw International	法学	H22		
OECD iLibrary	多分野	H22		H22 に「Source OECD」より名称変更
ProQuest Dissertations & Thesis	多分野	H22		抄録と索引のみ
CiNii	多分野	H15	多種	機関別定額制
医学中央雑誌	医学	H5	1983～	Web 版は H14 から 医学・保健にサービス
メディカルオンライン	医学	H22		
官報	官報記事	H18	1947.5～	同時アクセス 2
日経テレコン21	新聞記事等	H18	1975～	H19.7 より全学利用可 同時アクセス 20
*JapanKnowledge	全分野 (辞典等)	H17		同時アクセス 4
*KOD(研究社オンライン・ディクショナリー)	辞典	H21		同時アクセス 5 H26 よりオプション辞書 2 点追加 2015 年度で契約中止
*MAGAZINEPLUS	国内雑誌記事	H18	1945～	同時アクセス 3 2015 年度で契約中止。(ざっさくプラスに切替)
*JDreamIII	科学技術・医学・薬学	H19		同時アクセス 10 H25 JDreamII から変更
*聞蔵Ⅱ ビジュアル(朝日新聞)	新聞記事	H12	1879～	同時アクセス 3
*ヨミダス歴史館	新聞記事	H21	1874～	同時アクセス 1
*毎索	新聞記事等	H21	1872～	H23「毎日 News パック」より名称変更 同時アクセス 2

- 平成 15 年度途中に導入した引用索引データベース Web of Science SCIE（自然科学系）は、平成 18 年度までは間接経費、平成 19～27 年度は教育研究基盤資料整備費で契約を維持した。
- タイトル先頭に*を付したものは、平成 18 年度より学生資料費として措置されている「e-study」資料費により契約している。
- 各データベースの利用は別添統計のとおりである。学術分野やデータベースの特性から、個々の利用度は大きく異なっている。

＜電子ブックの整備＞

学内で利用できる主な電子ブックは次のとおりである。（全てウェブアクセス）

	分野	購入年度	タイトル数
*Elsevier Handbooks in Economics	経済学	H20-(継続)	30
*Emerald Business, Management and Economics eBook Series Collection	経営学、経済学	H21-	450
LWW Doody's Core Collection	医学	H21	129
**NetLibrary: ネットライブラリー	多種	H22-(随時)	750
**Oxford Handbooks Online	経営学、哲学、政治学、宗教学、言語学	H22 ,H27	146
ScienceDirect レファレンスワークス	多分野	H23	21
*Springer eBooks	数学、経営学、社会科学	H17-	3100
*群書類従(正・続・続々)	国文学、国史	H27	

注) *部局予算による購入

**部局予算による購入分を含む

◆評価と課題

電子ジャーナルおよびデータベースは研究者（大学院生を含む）にとって、今や必要不可欠な学術情報基盤である。神戸大学では平成 17 年度および平成 20 年度に出された 2 つの附属図書館審議会答申に基づき電子資料に関わる基盤整備を行ってきており、平成 22 年度からは部局負担分を間接経費（全学共通分）に切り替え、電子ジャーナルを含む教育研究基盤資料は全学共通経費と間接経費を財源として提供されることとなった。

答申では同時に所要額の上限も設定されたが、平成 24 年まではピーク時に 1 ドル 70 円台に達する円高という外部環境により、この上限額を超えることなく教育研究基盤資料の維持・整備を行うことが可能であった。しかし平成 25 年から始まった急激な円安により、平成 26 年度は間接経費を増額してかろうじて従来水準を維持、平成 27 年度については部局負担を一時的に復活し、かつ全学負担分をすべて間接経費に切り替え従来水準を維持した。

為替変動のみならず、平成 27 年 10 月から開始された海外電子配信への消費課税の影響が大きく、それらを踏まえ、平成 28 年度以降、教育研究基盤資料のうち部局負担を伴うものについては教育研究基盤資料費での負担割合を 50%から 35%へ切り下げることが決定している。一部の資料は中止が決定した。

平成 28 年に入って円安傾向が一服したものの、購読誌数は平成 27 年度をピークに減少に転じる可能性が高い。電子ジャーナルのいわゆる包括契約については、負担額の増大に伴いその維持可能性が数年前から疑問視されてきてはいるが、包括契約に代わる新たな購読モデルは見いだせていないのが現状である。

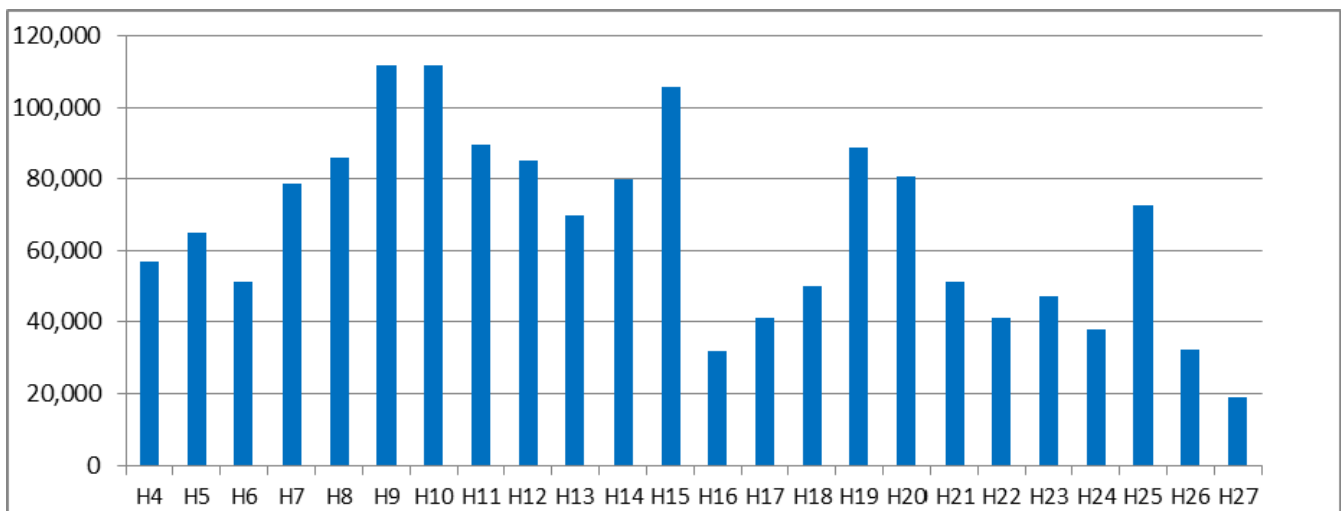
電子ブックについては、海外図書館と比べると、国内図書館において普及が全般的に遅れているのが現状であり、本学においては部局予算による購入がこれまで中心であった。しかし国内出版物の電子版は徐々に増えつつあり、学術書においても一部の出版社において前向きな動きがみられる。今後の電子ブック出版の動向には注意する必要がある。

（３）蔵書目録データベースの整備

<目録遡及入力事業>

- 目録遡及入力は学内予算措置を得て平成４年度から事業を開始し本年度で２４年目となった。この間、科学研究費補助金（社会科学文献・画像データベース作成事業）の獲得や国立情報学研究所との共同事業への参加など外部資金による入力にも努め、遡及入力総数は平成 27 年度実績を加えると 24 年間で約 158 万冊となった。本年度は第２次中期計画期間の遡及入力計画の最終年度に当たる。

<年度別入力冊数>



- 平成 27 年度計画と経費
外部委託による入力と、館員による研究室からの返納図書等の入力を合わせ、6,200 冊を目標とした。

電子図書館事業経費(2,000 千円)	4,800 冊
館員入力	1,400 冊

- 平成 27 年度入力実績 19,050 冊

電子図書館事業 (外部委託) (3,826 千円)	経済経営研究所図書館	和書	3,863 冊
		洋書	1,553 冊
	人間科学図書館	和書	4,120 冊
館員入力	各館室	研究室からの返却図書	9,514 冊

◆評価と課題

遡及計画の最終年度に当たるため入力対象を精査した結果、学内経費による外部委託は当初の目標を超える入力を行う必要があった。外部委託したのは経済経営研究所図書館におけるアメリカ文庫および旧分類資料、人間科学図書館の和資料である。この平成 27 年度をもって、全蔵書のうち館室配置図書については目録入力を完了した。館員入力は、研究室からの返却図書が例年よりも多かったことなどにより、目標を上回る入力を達成できた。

現在、蔵書数約 375 万冊のうち約 318 万冊の所蔵データが入力済みで、全蔵書の約 85%が OPAC で検索できるようになっている。残る未入力冊数約 57 万冊は全蔵書の約 15%にあたり、第 2 次中期計画の遡及入力計画対象外であった製本雑誌、研究室所蔵の未登録資料と和・洋古書、漢籍、マイクロ資料などの特殊資料が該当する。

未入力冊数の約 57 万冊のうち、約 55%が製本雑誌であり、約 27%を研究室所蔵の未登録資料が占める。残る約 18%の大半は特殊資料であり、入力に専門知識の習得が不可欠であるが、研究上重要な資料が多数あり、これからも入力を進める必要がある。今後も未登録データ入力により、一層の利用者サービスの向上、資産管理業務の効率化が期待される。

(4) 資料の保存

＜貴重資料の保存＞

- ・ 経済経営研究所が所蔵している「新聞記事文庫」マイクロフィルム戦前 II 期～戦後期分の修復・複製 102 リールと複製 72 リールを行った。
- ・ デジタル化事業の一環として、社会科学系図書館所蔵の「大阪商業新報」「大阪商業新聞」15 年分（1907-1921）を脱酸・修復した上で、デジタル化した。
- ・ 孫文記念館（神戸市垂水区）からの申し出と費用提供により、孫文の演説を掲載した稀観本『支那問題眞解』の複製を作成し、あわせて電子化を行った。
- ・ 3 月 25 日に東京大学より講師を招聘し、職員研修「資料保存のイロハ」（参加：35 名）を開催した。

＜一般資料の廃棄＞

- ・ 学内各館室で重複所蔵および蔵書点検後 3 年以上所在不明の図書・製本雑誌、計 29,847 冊の廃棄を行った。

◆評価と課題

貴重資料の電子化は保存対策としての意味も持っており、順調に進められている。また、内部研修を実施し、資料保存について職員の知識習得に努めている。

平成 24 年度第 7 回附属図書館運営委員会において「資料収容力確保策の見直し」が協議され、「平成 27 年度末時点において、約 5 年間の受入量にあたる収容力を確保するため、収容スペース狭隘化の逼迫度が高い館室について重点的に人員・費用を充てて集中的に整理作業を実施する」ことが了承された。

平成 25 年度からは、上記に基づいて具体的計画を策定し整理作業を進めており、廃棄冊数は平成 25 年度から累計 98,996 冊となった。

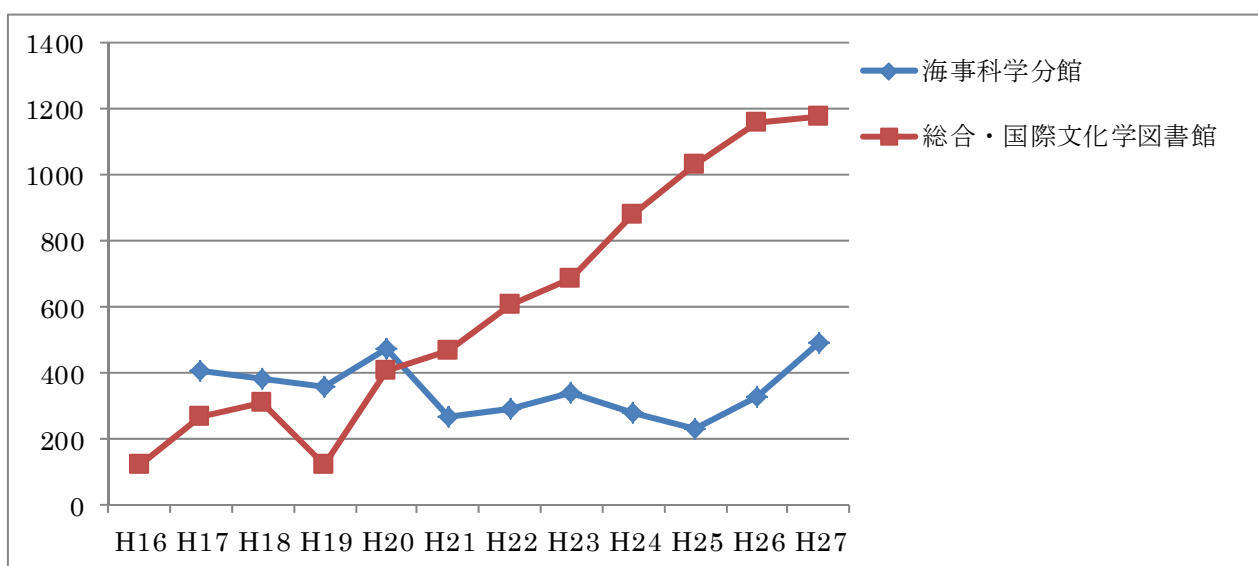
4. 社会連携・情報発信

(1) 一般市民への資料提供サービス・展示会の開催

<一般市民の図書館利用>

- 総合・国際文化学図書館と海事科学分館において一般市民への貸出サービスを実施している。平成27年度の利用登録者数は251名で、平成26年度より52%増の86名増加した。
貸出冊数は総合・国際文化学図書館で前年度とほぼ同数の1,175冊になった。海事科学分館では、前年度の50%増の493冊になった。

<貸出冊数の推移>



<公共図書館との協力>

- 前年度に引き続き、兵庫県大学図書館協議会で加盟館の図書館相互協力便覧や一般市民への公開状況を取りまとめ、同協議会ホームページ上で情報公開を行った。
- 平成20年度から、兵庫県立図書館で公開されている兵庫県内図書館横断検索に参加し、県内公共図書館等との横断的な所蔵検索が可能となっている。

<展示会の開催>

- 資料展「村上家文書の世界～近世×神戸×農村～」

会期 平成27年10月1日(木)～12月15日(火)

会場 社会科学系図書館 2階 展示ホール

時間 月～金曜日 8:45～21:30

土～日曜日 10:00～19:00(祝日を除く)

内容 当館が所蔵する郷土文献資料(古文書)の中でも最大のコレクションである「摂津国八部郡花熊村村上家文書(せつつのくにやたべぐんはなくまむらむらかみけもんじょ)」を取り上げた。これは本学人文学研究科地域連携センターの山本康司氏が、6年以上にわたり本文書を整理し書誌調査を行った成果を踏まえ



たもので、山本氏には展示史料と展示テーマの選定や史料の翻刻等協力いただいた。

以下の4つのサブテーマに分けて、古文書やパネルを展示した。

- 1) 花熊村の様相
- 2) 花熊村の農業と産業
- 3) 水の利用―溜池と水車
- 4) 再度山大龍寺

- ・ 学内各部局、及び近隣の地方自治体・公共図書館・公立学校等へチラシ、ポスターを送付して広報した。
- ・ 図書館ホームページで展示品目録等を公開している。
- ・ 会期は10月31日（土）開催の「神戸大学ホームカミングデイ」に合わせ、当日は職員による館内案内と展示案内を実施した。
- ・ 人文学研究科の「地域歴史遺産保全活用基礎論 B」授業と、国際文化学研究科の「博物館実習 I」授業での見学を受け入れ、職員が展示内容を説明した。
- ・ 会場は通路部分であるため、正確な来場者数をカウントすることはできないが、開催期間中に社会科学系図書館に来館した利用者の多くが資料展を観覧したものと思われる。
- ・ アンケート回収数は96件（うち学外者63名）で、多数の回答が寄せられた。ほとんどの回答が展示に対して好意的で、地域の歴史や地元の古文書への関心の高さが感じられた。
- ・ 一橋大学、大阪市立大学、本学の社会科学系学部の学生による合同ゼミ「三商ゼミ」の本学での開催にあわせ、初の試みとして、3大学の図書館で、各大学と三商ゼミの経緯・歴史を関連図書やパンフレット等の資料と解説パネルで紹介する合同企画「三商大図書館連携企画展示」を社会科学系図書館2階壁画前で実施した。（会期：平成27年11月27日（金）～平成28年1月24日（日））
- ・ 阪神・淡路大震災の発生した1月17日にあわせ、平成26年度の資料展「つたえる・つながる～阪神・淡路大震災20年～」のリバイバル展示を社会科学系図書館展示ホールで実施した。（会期：平成28年1月12日（火）～1月26日（火））
- ・ 海事博物館や人文学研究科と連携した展示企画「神戸大学サテライト巡回展」の一環として会場提供し、海事博物館主催の展示「大戦中の日本商船、船員の姿」を社会科学系図書館展示ホールで実施した。（会期：平成28年3月4日（金）～3月28日（月））

◆評価と課題

一般市民への資料の貸出サービスの開始以来、総合・国際文化学図書館では平成19年度に改修工事の影響で一時的に貸出数は落ち込んだものの増加を続け、開始当初の約4.4倍になった。一方、海事科学分館でも平成21年度に書庫立ち入り制限の実施により大きく減少し、その後はほぼ横這い状態であったが、回復傾向にあることが認められる。地域社会への貢献活動のひとつとして定着していると評価できる。

本年度の資料展は、人文学研究科地域連携センターの協力により、所蔵している地元の古文書の調査成果を展示することで、図書館では初の古文書の展示会となった。一般市民の関心も高い地元の歴史に関わる展示内容となり、地域・社会貢献を行うことができたと考えている。また震災関連リバイバル展示を実施し、「神戸大学サテライト巡回展」に会場提供することで展示ホールの稼働率を上げ、展示を通じた地域貢献の機会を増すことができた。次年度より始まる第3期中期目標・中期計画においても、社会及び地域への貢献の一環として資料展の開催が位置付けられており、引き続きその開催と充実が重要である。

(2) 震災文庫

<資料収集と一般公開>

- 引き続き、様々なチャンネルからの情報収集を行い、購入や寄贈依頼等の積極的な収集活動に努めた。1,296 件（平成 26 年度は 1,276 件）を収集し、資料所蔵総数は 5 万 4 千件を超えた。

	全件数 (タイトル数)	H27 新着		全件数 (タイトル数)	H27 新着
図書資料	7,885 (6,902)	181 (161)	地図資料	137 (131)	0 (0)
雑誌資料	13,731 (3,375)	195 (54)	動画資料	316 (261)	12 (6)
新聞・広報誌資料	18,818 (7,118)	723 (562)	音声資料	105 (85)	5 (5)
パンフレット資料	6,100 (5,936)	19 (19)	コンピュータ資料	93 (90)	0 (0)
一枚もの資料	6,854 (6,847)	160 (160)	www	10 (4)	0 (0)
写真資料	112 (94)	1 (1)	総合計	54,161 (30,843)	1,296 (968)

注) 雑誌等の各号を 1 冊ずつ数えた数が「件」、同一タイトルを 1 と数えたのが「タイトル」。

写真資料はコレクション単位（概ね撮影者単位）を 1 としているため件数が少ないが、写真 2 万枚強のコレクションも含まれている。

<震災デジタルアーカイブ>

- 資料全体のタイトル等だけでなく掲載されている記事情報等からも検索できるよう、詳細なデータを継続的に作成している。本年度は 3,891 件を入力し、その結果、データベースのレコード総数は 28 万 2 千を超えた。
- 著作権の許諾が得られた資料 39 点をデジタル化公開した。
- ビデオ(VHS)テープ 47 点についてメディア媒体変換作業を行った。
- 各機関から、防災資料作成等のための転載許可願いが写真を中心に 19 件（前年度 30 件）あり、著作権者へ許諾確認を行い回答した。
- 平成 21 年 1 月より開始した人と防災未来センターと震災文庫の「震災資料横断検索」は兵庫県立図書館を加えて 3 機関での横断検索を継続中であり、年 4 回データ更新を行った。
- 平成 24 年 10 月に連携を開始した「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）」に継続してデータを提供している。

<震災文庫の活動>

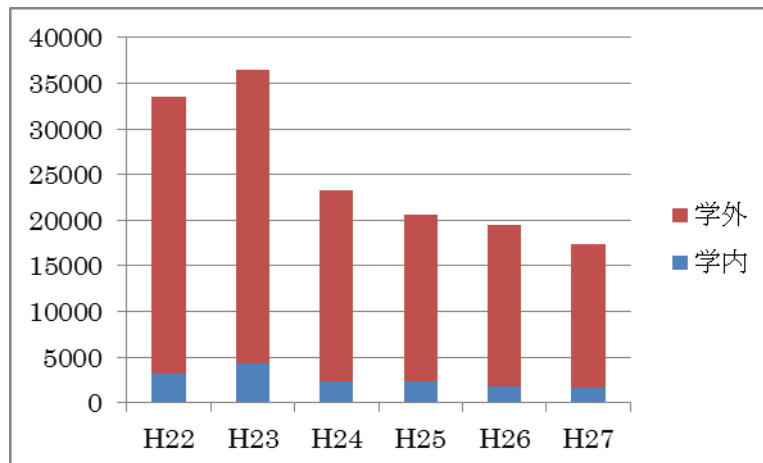
- 12 月 21 日に、附属中等教育学校 4 年生 17 名がグローバルアクションプログラムの一貫として、神戸から震災と復興を学ぶ授業のために来館した。地域連携推進室教員と電子図書館係で対応した。
- 上記の他、5 回（26 名）の見学依頼があり、電子図書館係で対応した。
- 1 月 22 日に、「第 5 回被災地の図書館と震災資料の収集・公開に係る情報交換会」を人文学研究科と協力して開催し、23 名が参加した。
- 国立国会図書館発行「カレントアウェアネス」No.325 に、震災文庫の利用状況に関する文章を「神戸大学附属図書館「震災文庫」利用の現状と課題」と題し、電子図書館係で寄稿した。

◆評価と課題

本年は、震災 20 年の節目であった前年から見学・取材等は減少したが、来館者数は例年並みで確実に利用されている様子が窺われる。また、震災文庫トップページへのアクセス数も減少しているが、これは横断検索サイトや震災資料サイトの増加に伴うアクセスの分散化によるものと考えられる。

課題として、引き続き収集資料の媒体の問題が挙げられる。デジタルデータの中にはハードウェアの生産終了やファイルフォーマットのサポート終了などの要因により再生環境が失われ、利用不可能となる恐れのあるデータが生じつつある。貴重な資料を今後も利用可能な状態で保存することが大切であり、早急に収録メディアおよびデータの変換作業（マイグレーション）を行う必要がある。優先順位を決め作業しているが、変換作業完了までには数年間かかる見込みである。

＜震災文庫トップページアクセス数経年推移＞



（３）電子図書館システムによる情報発信

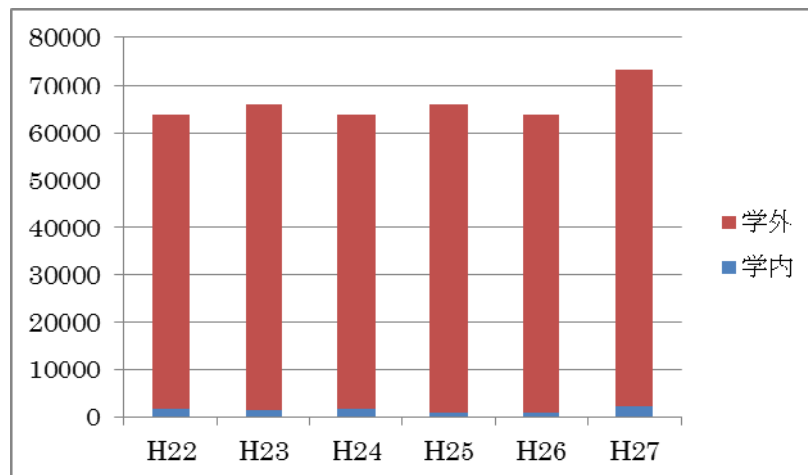
＜「神戸大学電子図書館システム」によるデジタルアーカイブ構築＞

- ・ 同システムは当初全国 5 大学に「先導的電子図書館プロジェクト」として予算措置されたもので、本学には平成 10 年度補正予算で措置され、平成 11 年から稼働している。法人化後は電子図書館事業費として学内経費化され、運営を続けている。
- ・ 「震災関係資料」、「経済関係資料」、「学内研究成果」を 3 本柱に事業を推進し、デジタル化した資料を Web 上で公開してきた。経費には上記の電子図書館事業費と、科学研究費補助金研究成果公開促進費（平成 11-15 年度 震災デジタルアーカイブに措置、平成 16-23,25,27 年度 戦前期新聞経済記事文庫に措置）を充ててきた。
- ・ コンテンツのうち震災関係資料については、前節で述べたとおりである。

＜経済関係資料デジタル化＞

- ・ 新聞記事文庫（戦前期記事切抜）デジタル化については、科学研究費補助金研究成果公開促進費（「戦前期新聞経済記事文庫データベース」）を獲得した（配分額 1,040 万円）。「法制」「教育」分野約 7,300 記事を全文テキスト化し、公開に向けて準備中である（累計約 30 万記事）。
- ・ 平成 24 年 5 月より当文庫データベースの「活用事例集」ページを HP 上で公開し、また活用事例を Twitter で照会するなど、より一層の普及と有効活用の支援を図っている。
- ・ 「大阪商工新報」「大阪商業新聞」15 年分（1907-1921）を電子化し、公開に向けて準備中である。
- ・ 平成 24 年 1 月より公開された「国立国会図書館サーチ（NDL Search）」とは、前身のデジタルアーカイブポータル（PORTA）に引き続いて連携を行っている。

＜新聞記事文庫トップページアクセス数経年推移＞



＜学内研究成果資料デジタル化＞

- ・ 機関リポジトリは開設 10 年目となり、平成 28 年 3 月末現在 23,445 件（前年度末 22,088 件）の学術成果を一般公開している。詳細は次項に述べる。
- ・ キク科の染色体数データベース（渡邊邦秋名誉教授作成）のデータ更新を続けている。更新頻度は月 1 回、本年度のレコード増加数は 13,686 件で、累計レコード数は 145,796 件である。
- ・ 溝口史郎名誉教授より寄贈を受けた「人体組織学カラスライド・データベース」「人体発生学カラスライド・データベース」を公開した。
- ・ 引き続き学内研究成果メタデータ（書誌情報）として、紀要類目次情報（561 件入力、累積 40,806 件）、博士学位論文情報（296 件入力、累積 9,938 件）の入力を進めた。
- ・ 学位規則改定後の平成 25 年 4 月以降に学位授与された博士学位論文は要旨・全文ともに原則としてリポジトリからインターネット公表することとなったため、非公表・公表延期を除く 167 件の全文を公開した。また、学位規則改定前の学位授与論文についても全文公開のため著作権調査を行い、可能なものについて電子化公開を行った。

◆評価と課題

新聞記事文庫はその規模の大きさと希少性（戦前の記事切抜きはほとんど残っていない）から高い評価を得ており、HP へのアクセス数は継続してデジタルアーカイブ中トップであり、主に外部からの利用が多数を占める（平成 27 年度トップページアクセス数約 7 万 3 千件のうち 96%以上が学外からのアクセスである）。引き続き計画的に電子化をすすめ、戦前期の完成を目指したい。

「学内研究成果」については、学術論文は機関リポジトリ（次項）へ、その他成果はデジタルアーカイブへ登録している。今後も継続してコンテンツ収集に努めたい。

（４）機関リポジトリによる情報発信

＜コンテンツ収集活動＞

- ・ 平成 18 年度に稼働を始めた神戸大学学術成果リポジトリ（Kernel）は、比較的順調に成長を続けている。平成 27 年度末現在のコンテンツ数は 23,445 件となり、1 年間で 1,357 件増加した。

＜機関リポジトリコンテンツ種別件数＞

一般雑誌記事	83	図書	63	会議発表論文	48
データセット	2	紀要論文	17,185	学術雑誌論文	2,694
教材	16	会議発表用資料	359	研究報告書	109
テクニカルレポート	619	博士学位論文	1,990	その他	267
プレプリント	10			合 計	23,445

- ・ 神戸大学研究者紹介システム「KUID」や「Web of Science」より抽出したデータを元に、学内研究者に論文登録照会作業を行い学術雑誌掲載論文の収集に努めた。

＜広報活動＞

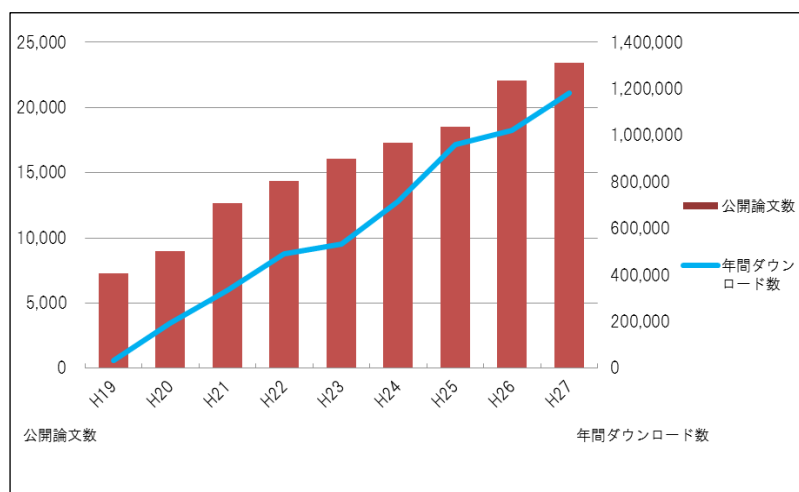
- ・ 学内教員への浸透を図るため、『Kernel 通信』の第 14 号および第 15 号を発行した。
- ・ 登録者へのサービスとして、毎月 1 回ダウンロード数お知らせメールの配信を継続して実施している。

◆評価と課題

リポジトリ開設から 9 年が経過し、公開論文数の増加とともにダウンロード数も順調に増加しているが、より一層学内での認知度を高めるための広報活動が重要である。学位論文を円滑にリポジトリ公表するため、関係諸機関と連携して作業を進める必要がある。紀要等の学内刊行物については引き続き重点的に収集を進める。

神戸大学研究者紹介システム「KUID」との連携は今なお手作業による論文へのリンク付与にとどまっており今後の連携方法が課題となっている。

＜Kernel 公開論文数およびダウンロード数推移＞



(5) 国際連携

＜海外派遣＞

科学研究費（奨励研究）および国立大学図書館協会海外派遣事業経費を取得し、9 月 8 日～10 日の期間、職員 2 名を北米の 3 大学図書館へ派遣した。調査対象はラーニングコモンズ（以下「LC」）を中心とした学修支援および研究データマネジメントサービスによる研究支援であった。訪問先は 9 月

8日がカリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）、9日が南カリフォルニア大学（USC）、10日がカリフォルニア大学サンディエゴ校（UCSD）であった。

LCに関しては、その最初期の例である USC の Information Commons をはじめ、3校いずれにおいても非常に充実した設備を備えている。これらの大学における日本の LC との大きな違いは、サブジェクト・ライブラリアンおよび学生アシスタントによる手厚いレファレンス支援の体制が整っていること、講義や図書館ガイダンスに使える教室や先端的機器を備えたラボを持つこと、可動式の机を備えておらず、グループ学習のためには多数のグループ学習室を持つことがあげられる。この調査の成果については本学リポジトリより公開されている。

(http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/81009402)

研究データマネジメントサービスについては、平成 26 年 12 月から平成 27 年 3 月にかけて内閣府がオープンサイエンスに関する検討会を開催するなど、図書館界のみならず政府においてもオープンアクセスやデータマネジメントに対する関心が高まっている状況にあり、データマネジメントサービスがわが国の大学図書館員の新しい業務として現れてくることも想定する必要がある。訪問校のうち特に UCLA および UCSD において、館内に多数の担当者を配置してのサービスが展開されており、日本国内の機関で同等のサービスを実施するには、人材育成やインフラ、補助ツールの整備など、課題が多くあることが改めて認識された。この調査の成果については平成 28 年 6 月に開催された国大図協総会において口頭発表が行われた。

＜EUIJ 国際シンポジウムの開催＞

10 月 13 日～14 日の 2 日間にわたり、EUIJ 関西主催、神戸大学附属図書館・京都大学附属図書館・大阪大学附属図書館・COAR（Confederation of Open Access Repositories）共催の国際シンポジウム「HORIZON2020 によるオープンアクセス政策とオープンサイエンスの国際的課題 ―学術研究における日欧の共通課題と大学図書館の役割―」を神戸大学百年記念館（神大会館）六甲ホールにて開催した。

ヨーロッパの多国間研究開発・イノベーション促進プログラム「HORIZON2020」は助成対象の研究成果と研究データのオープンアクセス（OA）化を義務化する方針をうたっている。このため、EU のメンバー国による OA ポリシー採択や、研究者の OA 及びオープンデータ準拠を支援するため、大学図書館のコンソーシアム組織が複数のプロジェクトを実施している。このシンポジウムは、このような EU によるオープンアクセス政策とその支援プロジェクトの現状と展望について、同じくオープンデータ等の政策が検討されつつあるわが国で、研究推進及び大学図書館の役割という視点から、関係者による情報共有を行うことを目的として開催したものである。全国 22 の大学と国立国会図書館、国立情報学研究所等研究機関、書店や企業も含め 150 名の申込があり、1 日目は 88 名、2 日目は 114 名が出席した。折しも 4 月に京都大学オープンアクセス方針が採択され、9 月 11 日内閣府による「オープンサイエンス推進に関するフォローアップ検討会（第 2 回）」においても本シンポジウムが参考資料として紹介されるなど、オープンアクセスに対する関心が高まった時期に開催することができ、非常に好評であった。



(講演風景)



(2日目パネルディスカッション風景)

【プログラム】

1日目：10月13日

テーマ：「ヨーロッパのオープンアクセス政策と大学図書館活動」

講演1「HORIZON2020におけるオープンアクセス政策」

Dr. Lee Woolgar 駐日欧州連合代表部

講演2「OpenAIRE2020によるオープンアクセス支援」

Dr. Donatella Castelli

OpenAIRE テクニカルコーディネーター, iMarine Project Director

CNR-ISTI (an institute of the Italian National Research Council)

講演3「FOSTERによるオープンデータプロジェクト支援」

Dr. Eloy Rodrigues

FOSTER, PASTEUR40A 及び OpenAIRE, パートナー大学図書館長

Director of the University of Minho Documentation Service, Portugal

パネルディスカッション

モデレーター：土屋俊氏 大学評価・学位授与機構教授

パネラー：講演講師、佐藤翔氏 同志社大学免許資格課程センター助教



2日目：10月14日

テーマ：「日本のオープンアクセスと大学図書館の国際的課題」

講演4「オープンサイエンスへの期待－日欧の共通課題」

土屋俊氏 大学評価・学位授与機構教授

講演5「オープンサイエンスの推進について」

林和宏氏 科学技術・学術政策研究所上席研究官

講演6「京都大学のオープンアクセス政策」

引原隆士氏 京都大学附属図書館長

講演7「オープンサイエンス時代の機関リポジトリプロジェクト」

杉田茂樹氏 千葉大学附属図書館利用支援課長

機関リポジトリ等最新事例報告

パネルディスカッション

モデレーター：小山憲司氏 日本大学文理学部教授

パネラー：各講師

＜韓国海洋大学校図書館との協力推進＞

前年度に続き韓国海洋大学校図書館との協定にもとづく職員交流を行った。本年度は韓国海洋大学校より Shin Hanwon 図書館長ならびに Jang Soyeon、Kwon Youngrok 両氏が来学し、12 月 21 日～22 日の両日研修を行った。先ず 12 月 21 日、社会科学系図書館において図書館長と懇談、本学の図書館の概要について説明を受け、情報交換を行った。さらに海事科学研究科長を訪問した。12 月 22 日は京都大学附属図書館を訪問し LC を中心に見学を行った。

韓国の大学図書館においては、予約のできる PC 席などの自習スペースは日本に比して非常に充実しているといえるが、コモンズスペースについては、近年その設置は盛んになりつつありながらも、実際には個人学習を中心とした使われ方がなされている印象を、前年度訪問の際にうけた。特に京都大学において、学生グループによる LC の利用のされ方、また図書館から提供されるパスファインダー類やイベントカレンダーの充実に感銘を受けておられたようである。

＜Barbara Tierney 氏招聘＞

前述の科研費の助成により、北米における LC 研究の第一人者である Barbara Tierney 氏（中央フロリダ大学 John C. Hitt 図書館研究情報サービス部長）を、本学での講演に招聘した。

2 月 2 日社会科学系図書館において、学内の LC および学修支援に関心のある教職員を対象にした「大学図書館における学習支援の日米比較に関するワークショップ」が開催され、図書館外の教職員を含む 25 名が参加した。北米大学図書館における LC の展開と現状について、そして中央フロリダ大学図書館に導入された新しいサブジェクト・ライブラリアン制度について、ティアニー氏がプレゼンテーションを行い、また参加者と意見交換を行った。また氏は本学での講演に先立ち、1 月 29 日には東京大学伊藤謝恩ホールにおいて開催された平成 27 年度国立大学図書館協会シンポジウム「ラーニング・コモンズ、日本とアメリカでどう違う？ーラーニング・コモンズの役割を再定義するー」においても北米における LC の発展に関する講演を行った。

いずれにおいても、情報リテラシー支援を基礎とした学修支援から発した北米の LC と、必ずしもその段階を経ずに、新たな授業スタイル（アクティブ・ラーニング）の提案と平行して設置されてきたわが国の LC の在り方の違いが浮き彫りになった。



（Barbara Tierney 氏学内ワークショップ）



（韓国海洋大学校図書館より、海事科学研究科訪問）

◆評価と課題

韓国海洋大学校とは平成 21 年度以来連続で相互に職員を派遣し合い、研修を行っている。本年度は韓国では日本とはやや違った展開をしているラーニングコモンズを中心に、利用支援サービスの動向を調査し、また両国の図書館事情に関する情報交換を行った。

別の海外派遣事業として、本年度は科学研究費（奨励研究）および国立大学図書館協会海外派遣事業経費による派遣を行った。欧米における図書館サービスの展開は、図書館員が専門職として確立していることもあり、日本においても今後の図書館活動を方向づける上で有益な情報を得られることが多い。また海外からの招聘も、EUIJ 国際シンポジウムおよび Barbara Tierney 氏招聘の 2 件行われた。前者においては EU の大規模なオープンアクセス政策枠組である HORIZON2020 と、その下での OA 支援プロジェクトが紹介され、またわが国における OA 政策の推進について、国内から多数の参加者を交えて議論が行われた。後者においては北米における LC の進展と、それを支えるサブジェクト・ライブラリアンの制度が紹介され、本学における図書館運営への示唆を得ることができた。

海外派遣や海外図書館員等の招聘には、単に先進の事例を学ぶというだけではなく、それぞれの専門分野において実績のある人々の知己を得、将来にわたる交流や情報交換を可能にする機会となるという効果がある。大学研究者間の国際的な学問的交流の伝統に比して、本学の図書館においてはこれまで韓国海洋大学校との協定以外にあまり行われてこなかった事業であり、今後も外部資金等の獲得などによって機会をつくりだして行くことが必要であろう。

（６）大学文書史料室

大学文書史料室では、公文書管理法に基づき、内閣総理大臣指定「国立公文書館等」の機関としての責務を全うし積極的な社会貢献を図るため、平成 27 年度においては次の事業を実施した。

＜法人文書移管協議＞

- 平成 27 年度法人文書移管協議は、神戸大学法人文書 5,638 件を対象に 1 月 19 日から 3 月 22 日までの約 2 ヶ月間実施され、移管 721 件、廃棄 4,917 件が決定された（移管率 12.8%）。この協議結果に基づき、移管の受入れを平成 28 年度に実施予定である。

平成 27 年度法人文書移管協議の結果

移管協議の対象	総件数	協議結果		移管率	移管年度
		移管決定	廃棄決定		
(1) 平成 27 年度末(2016 年 3 月 31 日)保存期間満了分	2,467 件	388 件	2,079 件	15.7%	H28
(2) 平成 15 年度末(2004 年 3 月 31 日)以前等保存期間満了分	3,171 件	333 件	2,838 件	10.5%	H28
合計	5,638 件	721 件	4,917 件	12.8%	H28

＜法人文書等の受入れ状況＞

- 平成 27 年度における法人文書等の受入れ状況は、学内移管文書等 2,374 件、個人・団体からの寄贈寄託文書等 203 件（以上、公文書管理法 2 条 7 項が規定する「特定歴史公文書等」に該当。）、他大学史等の参考図書 197 件、計 2,774 件である。

平成 27 年度における法人文書等の受入れ状況

受け入れた法人文書等			受入れ件数（注1）	
特定歴史公文書等	学内移管文書等	法人文書（移管協議に基づく移管）	767 件	2,577 件
		法人文書（上記以外の移管）（注2）	（注3）976 件	
		学内印刷刊行物	631 件	
	（小計）	2,374 件		
	個人・団体からの寄贈寄託文書等		203 件	
参考図書	寄贈図書のうち上記に該当しないもの（他大学史等）		197 件	
合計			2,774 件	

（注1）「受入れ件数」の数値は、分冊や関連文書等をまとめて1件とする場合があるため、実際の冊数や目録入力件数とは異なる。

（注2）「上記以外の移管」とは、神戸大学法人文書ファイル管理簿（神戸大学法人文書管理規則第 10 条）に未掲載の古い法人文書を対象とした、移管協議を経由しない移管を指す。

（注3）平成 26 年度末の附属中等教育学校明石校舎の閉校に伴い、移管協議を経由しない臨時的な移管が大量に（約 900 件）発生し、平成 27 年度に受入れた。また、旧文学部 50 周年記念誌編集委員会（すでに廃止）旧蔵文書約 50 件も同様に受入れた。

＜目録入力＞

- 平成 27 年度における目録入力の件数は 6,492 件であり、目録総件数は 48,663 件となった。
- インターネット上の目録「神戸大学特定歴史公文書等データベース」を毎月定期的に更新した。
- 懸案であった旧附属住吉小学校（平成 25 年度末に閉校）及び旧附属中等教育学校明石校舎（平成 26 年度末に閉校）旧蔵の大量の未整理文書については、本年度末までに、すべての目録化を終えた。

平成 27 年度における目録入力実績の内訳

対象			目録入力件数（注）	
特定歴史公文書等	学内移管文書等	法人文書	5,146 件	6,291 件
		学内印刷刊行物	746 件	
	（小計）		5,892 件	
	個人・団体からの寄贈寄託文書等		399 件	
参考図書	寄贈図書のうち上記に該当しないもの（他大学史等）		205 件	
[上記合計] 平成 27 年度目録入力件数（①）			6,496 件	
[参 考] 平成 22-26 年度目録入力件数（②）			42,167 件	
目録総件数（①＋②）			48,663 件	

（注）「目録」とは、「神戸大学特定歴史公文書等データベース」のことを指す。なお、「目録入力件数」の数値は、移管寄贈寄託受入れ時点の件数とは異なる場合がある。その理由は、移管寄贈寄託受入れ時点では、分冊や関連文書等をまとめて 1 件とする場合があるためである。

＜利用状況＞

- ・ 平成 27 年度の資料利用件数は 1,094 件（前年度の約 3 倍、105 名）であり、その内訳は下表のとおり。
- ・ 一般利用者の利用に供するため、展示会及びレファレンス等に積極的に対応した（次項以降参照）。

平成 27 年度における利用状況

		利用者数	利用件数		
			閲覧（①）	写しの交付（②）	合計（①+②）
本 学	教員	3 名	6 件	1 件（ 3 枚）	7 件
	教員以外の職員	42 名	329 件	21 件（821 枚）	350 件
	学生	15 名	84 件	6 件（ 23 枚）	90 件
	旧教員	3 名	22 件	14 件（220 枚）	36 件
	旧教員以外の職員	1 名	7 件	0 件（ 0 枚）	7 件
	卒業生	20 名	374 件	35 件（186 枚）	409 件
他大学	教員	6 名	83 件	35 件（482 枚）	118 件
	教員以外の職員	0 名	0 件	0 件（ 0 枚）	0 件
	学生	3 名	26 件	7 件（109 枚）	33 件
一 般	マスコミ	3 名	8 件	4 件（ 23 枚）	12 件
	その他	9 名	26 件	6 件（ 11 枚）	32 件
合計		105 名	965 件	129 件（1,878 枚）	1,094 件

＜展示会の開催＞

- ・ 収蔵物を広く学内外に紹介するため、常設展「神戸大学史展—110 年の歩みと展望—」を常時開催（特別展の開催期間は除く）し、百有余年にわたる神戸大学の歴史に関する文書や実物資料、写真など 206 点を展示公開した。来場者数は 3,515 名（前年度比 54.6% 増）であった。
- ・ 平成 27 年度特別展及び巡回展（東京 1 回・神戸 2 回）は、「戦時下の神戸大学—戦後 70 年記念—」をテーマに、戦時下における神戸大学前身校の諸相について、主に学生生活に焦点を当てて貴重な文書・写真・実物史料（一部は初公開）などで取り上げた。来場者数は計 11,592 名（前年度比 13.1% 増）であった。なお、本年度は、特に次の 4 件について注力した。

- ① 初めて開幕式及び展示案内（特別展3回、巡回展1回、計4回）を実施した。
- ② 巡回展の開催地を1ヵ所追加し、従来の2会場を3会場とした。
- ③ 初めて海事博物館で巡回展を開催した。
- ④ 兵庫県立大学姫路環境人間キャンパスが所蔵する旧制姫路高等学校記念室史料13種20点を特別展の展示品として借用し、他大学との連携を深めた。

平成27年度における展示活動の状況

種類	展示テーマ	開催期間	会場	来場者数
常設展	神戸大学史展 —110年の歩みと展望—	常時（特別展開催時を除く）	神戸大学百年記念館 1階 展示ホール	3,515 名
特別展	戦時下の神戸大学 —戦後70年記念—	H27.10.26(月)－ H27.11.06(金)	神戸大学百年記念館 1階 展示ホール	847 名
特別展 (神戸Ⅰ)	戦時下の神戸大学 —戦後70年記念— パネル展	H27.11.25(水)－ H27.12.16(水)	神戸大学海事博物館	357 名
巡回展 (東京)	戦時下の神戸大学 —戦後70年記念— パネル展	H28.01.12(火)－ H28.01.21(木)	神戸大学東京六甲クラブ	1,633 名
巡回展 (神戸Ⅱ)	戦時下の神戸大学 —戦後70年記念—	H28.02.01(月)－ H28.02.26(金)	神戸大学社会科学系図書 館2階 展示コーナー	8,755 名
合計				15,107 名



(常設展の案内チラシ)



(特別展の案内チラシ)



(特別展における来場者の様子)



(特別展)



(巡回展 (神戸Ⅱ))

<レファレンス>

- ・ 学内外から 922 件（前年度比 31.3%増、173 名）の照会があり情報提供を行った。

平成 27 年度におけるレファレンス活動

対 象		件数(人数)	対 象		件数(人数)
本 学	教員	57 件(10 名)	他大学	教員	107 件(14 名)
	教員以外の職員	284 件(52 名)		教員以外の職員	4 件(4 名)
	学生	102 件(16 名)		学生	34 件(7 名)
	旧教員	45 件(10 名)	一 般	マスコミ関係	33 件(10 名)
	旧教員以外の職員	10 件(2 名)		その他（周辺住民等）	53 件(17 名)
	卒業生	183 件(25 名)	合 計		922 件(173 名)
	関係諸団体(同窓会等)	10 件(6 名)			

<研修の実施>

- ・ 公文書管理法第 32 条に基づき、本学職員及び大学文書史料室員に対して、次の研修を実施した。

平成 27 年度における研修実施の内容

研修名	対象者	テーマ	開催日	受講者数	備考
新任教職員研修 (講師派遣)	神戸大学の新任教職員	神戸大学法人文書管理について	H27. 04. 03	83 名	総務部人事企画課主催の研修に講師派遣
文書管理者研修	神戸大学の文書管理者及び文書管理担当者等	神戸大学法人文書の適切な管理に向けて	H28. 02. 08	50 名	総務部総務課との共催
大学文書史料室研修	大学文書史料室員	①旧制姫路高等学校記念室の見学及び所蔵品調査 ②神戸大学海事博物館の見学 ③関西学院大学の学院史編纂室・大学博物館展示室の見学	①H27. 07. 02 ②H27. 07. 24 ③H27. 08. 04	① 4 名 ② 4 名 ③ 4 名	大学文書史料室利用等要項 30 条 1 項の規定に基づく室員研修

<デジタル・アーカイブの充実>

- ・ デジタル・アーカイブの充実を図るため、①『神戸高等商業学校 学友会報』第 44 号（明治 44 年 1 月刊）～第 153 号（大正 10 年 12 月刊）計 113 冊分（号外等を含む）のデジタル画像 2,848 点を作成、②『神戸経済大学新聞』第 1 号（昭和 21 年 7 月刊）～第 30 号（昭和 24 年 5 月刊）のうち、原紙が現存する計 21 冊分（特殊な見開き記事を含めると計 24 冊分）のデジタル画像 59 点及び記事見出し一覧 388 件を作成し、①②共、大学文書史料室ホームページ上で公開した。
http://lib.kobe-u.ac.jp/www/modules/bunsho_c/index.php?content_id=18

平成 27 年度における電子化事業の状況

対象	デジタル画像作成	記事の見出し入力
『神戸高等商業学校 学友会報』第 44 号～第 153 号 113 冊	2,848 点	0 件(入力済)
『神戸経済大学新聞』第 1 号～第 30 号(欠あり) 21 冊	59 点	388 件
合計	2,907 点	388 件

<その他>

・ 内閣総理大臣への状況報告

平成 27 年 7 月 17 日付け神大総第 90 号により、「平成 26 年度特定歴史公文書等の保存及び利用の状況」を学長名で内閣総理大臣に報告した。本件は、公文書管理法第 26 条第 1 項に規定する報告の義務に基づく。なお、本報告の概要は、平成 28 年 2 月に内閣府大臣官房公文書管理課から「平成 26 年度における公文書等の管理等の状況について」として公表された。

・ 他機関からの見学を受入れ

他機関からの見学(視察)が 8 機関 93 名あり、その内訳は下表のとおり。

平成 27 年度における見学の受入れ状況

年月日	大学文書史料室を見学した機関	見学者数
H27.08.20	兵庫医科大学(学務部図書・学術情報課職員、アーカイブズ準備室員)	6 名
H27.10.27	神戸大学文学部講義「文化財学」(教員 1 名、受講生 38 名) 展示見学	39 名
H27.11.11	トライやるウィーク(中学生 2 名)	2 名
H27.11.17	神戸大学文学部講義「文化財学」(教員 1 名、受講生 38 名) 室見学	39 名
H28.01.07	北海道大学 大学文書館(職員 1 名)	1 名
H28.02.17	外務省 外交史料館(職員 1 名)	1 名
H28.03.18	財務省(職員 2 名)、文部科学省(職員 3 名)	5 名
合計		8 機関 93 名

・ 神戸大学同窓会誌への寄稿

広報の充実を図るため、同窓会誌への寄稿を次のとおり実施した。

- ・ 「神戸高商における門戸開放の偉業——なぜ出光佐三は神戸高商に入学したのか——大学文書史料室から(14)——」 (『凌霜』第 405 号、神戸大学凌霜会、平成 27 年 4 月号、16-17 頁)
- ・ 「ロイ・スミス先生——明治・大正・昭和の外国人教師——大学文書史料室から(15)——」 (『凌霜』第 406 号、神戸大学凌霜会、平成 27 年 7 月号、17-18 頁)
- ・ 「映画「日本のいちばん長い日」にみる神戸大学の学舎——大学文書史料室から(16)——」 (『凌霜』第 407 号、神戸大学凌霜会、平成 27 年 10 月号、36-37 頁)
- ・ 「NHK 連続テレビ小説「あさが来た」にみる神大姫路分校——大学文書史料室から(17)——」 (『凌霜』第 408 号、神戸大学凌霜会、平成 28 年 1 月号、20-21 頁)

・ 神戸大学沿革図の作成

- ・ 本学学務部発行『学生生活案内 平成 27 年度』掲載の本学沿革図(西暦版)を作成した。
- ・ 本学総務部広報課発行『神戸大学概覧 2015』掲載の本学沿革図(元号版)を作成した。
- ・ 本学ホームページ掲載の本学「沿革略図」の更新を担当した。

・ 学内記念事業への協力

- ・ 平成 27 年 5 月 9 日開催の「神戸商業大学予科創立 75 周年記念祭」に協力して、配布資料の原稿作成、講演者への参考資料の提供、会場準備等を実施した。
- ・ 医学部医学科創立 75 周年・神戸病院創立 150 周年記念事業に協力して、平成 27 年 12 月 24 日開催の県立神戸医科大学卒業生のヒアリング調査に参加し、情報収集に寄与した。
- ・ 経済経営研究所創立 100 周年記念事業の一つである水島鍬也書翰等の電子化事業に協力した。

・ 大学史・アーカイブズ学関連授業への協力

本学の大学史及びアーカイブズ学関連授業への協力として、平成 27 年度は下記を実施した。

- ・ 教養原論「神戸大学史」講義への講師派遣（前期 3 回、後期 3 回）
- ・ 文学部専門科目「文化財学」講義への講師派遣（後期 2 回）

・ その他の協力等

- ・ 平成 27 年 4 月より、本学ホームページの「沿革・歴史」の編集を担当することとなった。
- ・ 『ビジュアル版 神戸大学物語 第二版』（神戸学術事業会、平成 27 年 4 月刊）の作成に全面協力した。
- ・ 平成 27 年 6 月 9 日開催の「平成 27 年度全国公文書館長会議」（国立公文書館主催）に出席し、「所蔵資料等のデジタル化」に取り組む基本的考え方を議決した。
- ・ 『マンガ水島鍬也』（大分県中津市教育委員会、平成 27 年 5 月刊）の作成に全面協力した。
- ・ 大学広報への協力として、①学生広報ボランティアの取材協力、②大学来訪者の学内案内、③映画撮影学内ロケ地での取材協力、④本学英文ホームページの沿革年表の作成などを実施した。
- ・ 本学サッカー部 100 周年記念誌作成のための史料調査に協力した。
- ・ 国立歴史民俗博物館の共同研究「1968 年」社会運動の資料と展示に関する総合的研究」に協力して、神戸大学紛争の史料調査を補助した。
- ・ 平成 28 年 2 月 15 日開催の本学 11～14 回生合同同窓会において、卒業生向けの講演を行った。

・ 書庫環境の改善

- ・ 書庫の狭隘化を緩和するため、①『神戸大学百年史』全 4 巻（平成 14 年～平成 22 年刊行）の在庫中各 100 冊を本学進学率上位の国公立高等学校 100 校に寄贈、②書架（複式 2 連）1 台を書庫内に増設するなど、書庫環境を整備した。

◆評価と課題

平成 27 年度は、「国立公文書館等」政令指定施設としての責務を果たすため、特に展示会に注力し、①開幕式と展示案内を初めて実施、②巡回展の開催地を追加、③博物館での初めての開催、④他大学との連携などにより、公文書管理法第 23 条が求める「利用の促進」に努めた結果、展示来場者数が前年度より 2,056 名増（15.8%増）となり、本学の社会貢献にも寄与することが可能となった。

また、資料利用件数が前年度の約 3 倍に増加し、利用促進の成果が実感できるとともに、さらに年間 900 件を超える学内外からの各種問合せ（前年度比 31.3%増）に対しても、積極的なレファレンス対応により利用者の利便性の向上に努めたが、今後の利用増加による対応の質の低下が危惧される。

また、平成 26 年度末に附属中等教育学校明石校舎が閉校したことに伴い、校内から未整理の歴史公文書等が大量に発見されたため、散逸を防ぐための臨時的措置として平成 27 年度当初に未整理のまま受入れ、通常業務と並行して整理作業に尽力し目録化を達成した。さらに、前年度からの課題であった旧附属住吉小学校（平成 25 年度末に閉校）旧蔵文書の目録化についても完成に漕ぎ着けた。

なお、上記附属学校 2 校の閉校に伴い、明治期以降の大量の文書を受入れたため、書庫収蔵スペースの狭隘化が極めて深刻な状況にあり、早急に方策を講じる必要がある。

5. 管理運営等

(1) 図書館組織と運営

<管理運営全般>

平成 27 年 3 月末、任期満了により釜谷武志館長（人文学研究科教授）が退任し、4 月より部局長経験者である野海正俊館長（理学研究科教授）が就任した。館長の交代に伴い、副館長 3 名が交替した。4 月 14 日に館長・副館長懇談会を開催し、図書館の現状・課題全般の確認と新たな役割分担を決めた。新任の副館長及び役割分担は以下のとおりである。

山本 弘副館長（法学研究科教授）	社会科学系図書館担当	国際交流担当
桔梗宏孝副館長（システム情報学研究科教授）	自然科学系図書館担当	情報基盤センター運営委員
大津留厚副館長（文学研究科教授）	広報担当、評価担当	大学文書史料室長

<館内諸会議>

＊開催日時、議事内容等は、巻末添付資料に掲載

① 附属図書館運営委員会

- ・ 平成 27 年度は 4 回開催した。

② 附属図書館長・副館長・分館長懇談会

- ・ 平成 27 年度は 4 回開催した。

③ 附属図書館評価委員会

- ・ 平成 27 年度はメール回議を含め 5 回開催した。

④ 附属図書館研究開発室会議

- ・ 平成 27 年度はメール回議にて 2 回開催した。
- ・ 教育研究支援部会は独自に懇談会を 2 回開催した。

⑤ 大学文書史料室運営会議

- ・ 平成 27 年度はメール回議を含め 6 回開催した。

⑥ 附属図書館係長会議

- ・ 平成 27 年度は係長研修とあわせて 1 回開催した。

<教育研究基盤資料の充実>

平成 27 年度は間接経費 3.23 億円に、本年度に限り 2 千万円の部局負担を加えた 3.43 億円により、約 26,000 誌の電子ジャーナルと 33 種のデータベースを全学に提供した。

<「大学文書史料室」の運営>

- ・ 大学文書史料室は平成 22 年 4 月 1 日に附属図書館に設置され、平成 23 年 3 月 30 日付けで、「国立公文書館等」（＝国立公文書館に類する機能を有する施設）として内閣総理大臣の指定を受けている（平成 23 年内閣府告示第 13 号）。活動と評価・課題の詳細は本年次報告 4（6）「大学文書史料室」に記載している。

◆評価と課題

本年度の附属図書館運営委員会においては、平成 28 年度以後の教育研究基盤資料整備事業の方針策定が最大の懸案事項であったが、各部局等の意見、学内外の諸事情を考慮しながら策定を進め、第 3 期中期計画前半(2016-2018)における冊子体補填率については 15%、特定主題分野 DB 等の補填率については 35%とすることが承認された。

また、本学の研究成果公開促進を目的とした「神戸大学オープンアクセス方針（試案）」を第 4 回運営委員会において提案した。今後は関連部署等と調整しながら大学としての方針を策定していくこととなる。

(2) 事務組織と人事管理

<図書館事務組織>

- 平成 27 年 5 月現在、附属図書館事務部は 2 課 18 係、定員 47 名、非常勤職員 38 名の 85 名となっている。また経済経営研究所図書係は、定員 3 名を配置しており、平成 22 年 4 月に設置した大学文書史料室は定員 1 名、非常勤職員 3 名を配置している。
- 平成 27 年 5 月現在、職員の配置状況は、以下のとおりである。

地区	館室	配置係数等	定員職員	非常勤職員	計
六甲地区	総合・国際文化学図書館	サービス課長 2 係	6	5	11
	社会科学系図書館	部長 管理課長・補佐 7 係	20	17	37
	自然科学系図書館	サービス課補佐 3 係	7	3	10
	人文科学図書館	1 係	3	3	6
	人間科学図書館	1 係	3	2	5
楠地区	医学分館	サービス課補佐 2 係	3	5	8
名谷地区	保健科学図書室	1 係	2	1	3
深江地区	海事科学分館	サービス課補佐 1 係	3	2	5
		計	47	38	85

六甲地区	経済経営研究所図書館	1 係	3	0	3
	大学文書史料室		1	3	4

- 現在のところ、社会科学系図書館が事実上の中央館として機能しており、企画係・管理係が全館の総務機能を、図書受入係・雑誌情報係・目録情報係は、当該業務に係る全館調整機能と社会科学系図書館及び総合・国際文化学図書館の整理業務を担当している。
- 情報管理課の電子図書館係（社会科学系図書館配置）、同情報システム係（自然科学系図書館配置）及び情報サービス課の情報リテラシー係（総合・国際文化学図書館配置）は、当該業務の全館調整機能を果たしている。
- 情報管理係は、自然科学系図書館及び医学分館に配置し、各館の総務機能と整理部門を担当し、各館室に配置する情報サービス係は、主に各館室のサービス業務を担当している。

<職員の採用と育成>

- 近畿地区国立大学法人等職員採用試験図書系専門試験受験者の中から、平成 27 年 4 月に職員 2 名、11 月に 1 名、平成 28 年 2 月に 1 名を新規採用した。
- 4 月の新規採用者は「神戸大学新任職員研修」及び「兵庫県下教育機関事務系職員（新規採用者）」

研修」を受講した。

- ・ 図書館では、事務系職員の「職員調書」とは別に図書系職員の「意向調書」を実施している。平成27年度も職員のキャリア形成に係わる目標や希望に加えて、業務内容やスキルの分析、業務目標の達成度評価等を盛り込み、よりの確な聴取に努め、その結果研修計画等に反映した。
- ・ 国立情報学研究所の主催する各種研修、大学図書館職員長期研修、主題専門知識の研修等に職員を派遣し、スキルアップに努めた。本年度参加の主な研修は次のとおりである。

区分	研修名	主催	日程	参加者
若手職員向けの基礎研修	図書館等職員著作権実務講習会	文化庁	9/9-11	係員 2
	大学図書館職員短期研修	国立情報学研究所	10/6-9	係員 1
中堅職員向けの研修	大学図書館近畿イニシアティブ中級研修	大阪大学	5/27	係長 1 係員 3
	大学図書館職員長期研修	筑波大学	7/6-17	係長 1
管理職向けの研修	メンタルヘルス検定試験Ⅱ種受験を含む研修	神戸大学	8/31-11/6(通信) 12/7,14	補佐 1 係長 2
個別業務の専門的知識のための研修	神戸大学事務職員国際業務研修	神戸大学	6/2-7/28,9/1-8	係長 2 係員 9
	学術情報基盤オープンフォーラム	国立情報学研究所	6/11-12	係長 1 係員 1
	機関リポジトリ新任担当者研修	国立情報学研究所	6/18	係員 1
	学術情報システム総合ワークショップ	国立情報学研究所	6/25-26,8/6-7,11/27	係員 1
	第22回医学図書館員基礎研修会	日本医学図書館協会	8/5-7	係員 1
	セキュリティ研修(ネットワーク)	神戸大学	8/20	係長 1 係員 1
	アーカイブズ研修Ⅰ	国立公文書館	8/31-9/4	係員 1
	機関リポジトリ中堅担当者研修	国立情報学研究所	10/13-14	係長 1
	近畿地区国立大学法人等会計事務研修	神戸大学(当番校)	10/19-21	係員 2
	学術情報リテラシー教育担当者研修	国立情報学研究所	11/18-20	係員 1
	レファレンスサービス研修	国立国会図書館	12/3-4	係長 1
	学内会計事務研修	神戸大学	11/26-27	係長 1 係員 1
	女性情報アーキビスト養成研修	国立女性教育会館	12/9-11	係員 1

	目録システム書誌作成研修	国立情報学研究所	12/17-18	係員 1
1 日以内の講演会・研修会等	・第 11 回レファレンス協同 DB 事業担当研修会 ・セミナー「就職支援に役立つデータベース活用法」 ・第 1 種衛生管理者試験受験準備講習会 ・アプリケーションソフトウェア研修 (Access 実践) ・人事評価制度に係る研修会 ・大学コンソーシアムひょうご神戸研修交流委員会 SD プログラム ・国立大学図書館協会近畿地区助成事業「Where am I? 図書館という場を問い直す」 ・個人情報の保護及び情報セキュリティに関する研修 ・第 1 回 SPARC Japan セミナー「人社系の研究評価について」 ・SINET 及び学認・UPKI 証明書説明会 ・カリフォルニア大学サンディエゴ校国際担当講演会 ・神戸大学若手職員研修 ・ラーニング・サポート担当者研修 ・兵庫県大学図書館協議会研究会 ・兵庫県大学図書館協議会施設見学会 ・神戸大学事務職員 (主任中堅職員以上) 国際業務研修 ・神戸大学スキルアップ研修「面接員トレーニング研修」 ・神戸大学広報業務研修 ・信州大学附属図書館セミナー「大学図書館におけるアクティブ・ラーニング支援」 ・新潟大学全学 FD「学生・教員・図書館職員の協働による学習支援」 ・講演会「岡山大学におけるライティング教育を考える」 ・研究者のためのスライドデザイン講座 ・第 4 回 SPARC Japan セミナー「研究振興の文脈における大学図書館の機能」 ・神戸グローバルチャレンジプログラム「海外学修プログラムのための FD・SD セミナー」 ・LMS BEEF 講習会 ・URA 第 2 回人社系研究評価に関する研究会	国立国会図書館関西館、国立大学図書館協会、兵庫県大学図書館協議会、兵庫教育大学、神戸大学ほか (主に近畿地区で開催されるもの)	各半日～1 日	管理職を含め 延べ 84

	「欧州の大学における人社系の研究戦略と評価について」			
--	----------------------------	--	--	--

- ・ 上記に加え、附属図書館職員の知識習得を目的として内部研修を次のとおり開催した。

研修名と内容	日 程	参加者数	備 考
図書館職員研修(内容:古文書関連、地域連携センターより講師招聘)	5/15	56	
H27 新規採用者館内研修	5/21-29	2	5/21 部長講話のみ 4 名受講
英語文献講読研修(ラーニングコモンズ関連の洋書講読)	7/14, 7/23	7	
係長研修(内容:会計、図書支払、総務関連、係長会議に併催)	9/1	26	
図書館での学修支援に関する研修会	9/18	27	
海外出張報告会(国大図協海外派遣事業と科研費奨励研究による出張者各 1 名の報告)	12/2	35	
大学図書館における学習支援の日米比較に関するワークショップ(米国より図書館員を講師招聘)	2/2	25	
職員研修「資料保存のイロハ」(東京大学より講師招聘)	3/25	35	

- ・ 大学文書史料室では、室員が講師となって、学内職員に対する文書管理の研修を次のとおり実施した。
 - ・「神戸大学新任教職員研修」の「法人文書管理について」のコマを担当(受講者数:83名)
 - ・「神戸大学文書管理者研修」(受講者数:50名)
 - ・大学文書史料室職員に対する研修:3回

＜業務の改善と効率化・合理化＞

① 業務の標準化・合理化

- ・係横断的なワーキンググループ(以下 WG)を組織し、業務の合理化及び質的向上を図った。平成 27 年度は、総合図書館資料選定委員会・情報リテラシー教育支援 WG・業務改善 WG・展示 WG・次期図書館システム検討 WG・サービス企画 WG が活動した。

② アウトソーシング

- ・定員削減等に対応した業務の軽減方策として、雑誌製本業務、図書装備付納品、目録遡及入力業務、社会科学系図書館・医学分館・保健科学図書室の時間外開館業務、電子化コンテンツの作成業務、廃棄図書搬出業務のアウトソーシングを実施した。また資産点検業務は、総合・国際文化学図書館、社会科学系図書館、経済経営研究所図書館において計約 32 万冊のアウトソーシングを実施した。

③ 業務改善の検討

- ・全学の業務改善は、平成 26 年 10 月を起点として新たな枠組みで推進されている。附属図書館でも改めて業務改善ワーキンググループを組織し取り組んでおり、半期ごとに各業務の現状の課題と対策を確認しつつ改善事項を報告している。平成 27 年度においては、テレビ会議の導入、自然科学系図書館の土・日曜開館の外注化、後金雑誌支払業務の改善、図書納品検品関係書類の精

査改善を実績として報告した。

◆評価と課題

学外の各種図書館関連研修、情報関連研修、専門主題に関わる研修に職員を派遣した。また、学内の学修・教育支援に関する講演会や安全衛生・メンタル関連の研修を職員に受講させた。その研修成果は、報告書の提出により他の職員の能力開発に役立てている。

ワーキンググループについては、本年度は具体的な業務目的を負ったものに絞って設置し、いずれも活発に活動し成果をあげている。遡及入力及び資産点検におけるアウトソーシングによる効率化は、本年度が最終年度となる第2期中期計画期間中での目標達成に大いに寄与した。全学の業務改善については、ある程度の改善を達成したが、次年度以降も引き続きその推進が必要である。

(3) 予算及び財務会計業務

<平成27年度附属図書館予算・決算>

① 経常運営費

- ・平成27年度当初予算 173,607 千円 決算額 173,503 千円であった。
- ・平成26年度の当初予算 170,085 千円、決算 170,371 千円と比較して、当初予算と決算額は増額しているが、当初予算の増額は主に光熱水料の値上げに対応したためであり、決算額は備品類と雑役務等諸経費の支出増が主たる要因である（当初予算額 H26 予算比 3,522 千円 2%増、決算額 H26 決算比 3,131 千円 1.8%増）。

② 経常事業費

- ・平成27年度当初予算 144,684 千円 決算額 151,456 千円であった。
- ・平成26年度の当初予算 148,100 千円、決算 154,133 千円と比較して、当初予算と決算額いずれも減額となった。当初予算の減額は、業務改善経費を減額しつつ実際の配分事項に振り替えたのが主たる要因である。（当初予算額 H26 予算比 3,416 千円 2.3%減、決算額 H26 決算比 2,677 千円 1.7%減）
- ・平成27年度の学生用資料費は運営費交付金の前年度比 1.3%減にあわせて前年度から 1.3%減の 58,450 千円に、大学文書史料室管理運営経費も要求額から 1.3%減額の 7,306 千円となった。

③ 臨時的経費

- ・教育研究基盤資料整備費として確保した 3.23 億円に、本年度に限り合計 2 千万円の部局負担を加えた 3.43 億円により、外国雑誌を含む電子ジャーナル・データベースの維持及び整備を実施した。
- ・第2期中期計画事業経費（他部局への配分も含め計 62,789 千円）により、総合・国際文化学図書館を含む鶴甲1地区のラーニングコモンズの設置・整備を実施した。
- ・障害学生教育基盤強化支援経費（844 千円）により、海事科学分館入口のスロープを改修した。
- ・プロジェクト予算（31,163 千円）により、自然科学系図書館、保健科学図書室、海事科学分館のトイレを改修した。
- ・ビジョン推進経費（1,349 千円）により自然科学系図書館の外壁調査を、施設部営繕事業費（3,388 千円、他部局への按分含む）により同外壁改修工事を実施した。
- ・研究大学強化促進費補助金(100 千円)により、学術英語スキルアップセミナーを開催した。

④ その他の経費

- ・電子図書館事業である新聞記事文庫デジタル化について、「科学研究費補助金（研究成果公開促進費）」（10,400 千円）を獲得した。
- ・日米ラーニングコモンズにおける大学図書館サービスの教育への関与に関する調査のため、「科学研究費補助金（奨励研究）」（600 千円）を獲得した。

※平成 27 年度附属図書館予算及び決算を巻末に添付する。

＜図書資産の管理＞

① 図書資産点検

- ・平成 27 年度の資産点検は、総合・国際文化学図書館、社会科学系図書館、経済経営研究所図書館の 3 館で実施し、点検総冊数は 319,124 冊である。

② 不明資料の追跡調査

- ・平成 24～26 年度資産点検時から不明となっている資料について、追跡調査を実施した。
（資産点検時不明資料 13,446 点、追跡調査による発見資料 12,324 点、追跡調査後不明資料 1,122 点）

③ 不用決定

- ・不明後 3 年以上経過している資料（平成 23 年度資産点検時からの不明資料）を不用決定した。
（1,470 点、資産価格 4,438,558 円）
- ・重複資料やオンラインで利用可能となった資料等を不用決定した。（26,658 点、資産価格 103,067,948 円）

◆評価と課題

平成 27 年度経常運営費及び経常事業費の当初予算総額は、前年度より 10 千円の減額でほぼ前年度並みで、経常運営費はやや増額、経常事業費はやや減額となった。

平成 28 年度は機能強化促進計数 1.6%（従来は 1.3%）や人事院勧告等の影響により、部局当初予算は要求額より 9%、29,304 千円の大幅減額と、非常に厳しいものになっている。従来に増して学習環境の整備や安全衛生環境の改善を効率的に実施する必要がある。

図書資産点検は、資産の効率的運用を図るために中期計画期間と同じ 6 年周期で一巡する計画のもと実施している。平成 27 年度は第 2 期中期計画期間（平成 22・27 年度）の最終年度であり、総合・国際文化学図書館、社会科学系図書館、経済経営研究所図書館の 3 館において、約 32 万冊の図書資産点検をアウトソーシングで実施し、本期間の目標を達成できた。平成 24～26 年度資産点検時から不明となっている資料についても追跡調査を実施するとともに、「不明後 3 年以上経過している資料（平成 23 年度資産点検時からの不明資料）」について追跡調査及び不用決定を実施し、図書資産の管理を継続した。平成 28 年度も資料収容スペースの確保のため、集中的に資料整理作業を実施する必要がある。また、平成 28 年度から始まる第 3 期中期計画期間の資産点検計画を策定する必要がある。

（４）施設整備・システム整備

＜各館室の施設整備・設備更新＞

- ・平成 27 年度における主な事項は、以下のとおりである。

全体	テレビ会議システムの導入
総合・国際文化学図書館	鶴甲1地区ラーニングコモンズの設置に伴う館内整備、書庫除湿機更新、簡易ベッド1台と車椅子1台購入
社会科学系図書館	自動貸出装置1台更新、フロンティア館防犯カメラ機器更新、書庫除湿機更新、冷凍庫購入(虫損資料の殺虫用)
自然科学系図書館	外壁改修、トイレ改修、防犯カメラ機器更新、自動扉開閉装置取替、24時間出口電子錠取替、1階南側書庫と5階書庫に暗幕カーテン取付
人文科学図書館	書架棚受セットと棚板購入
人間科学図書館	貴重書保管庫3台購入、書庫(新書庫)不用換気扇2基撤去
経済経営研究所図書館	—
医学分館	グループ学習室空調機新設、空調機修理、館内サイン更新、新着図書コーナー新設、展示用書架2台購入、木製書架購入
保健科学図書室	トイレ改修、館内サイン更新
海事科学分館	玄関前スロープ改修、2階トイレ改修、1号館積層書庫屋上防水シート改修工事、1階女子トイレ警報機工事、中庭樹木撤去

<安全点検>

- ・ 附属図書館安全衛生会議を、前年度からは構成単位である社会科学系図書館と自然科学系図書館と大学文書史料室の3館室のみならず、附属図書館全体の安全衛生事項の周知・報告の場として運用しており、平成27年度はメール回議にて4回開催した。
- ・ 安全衛生活動計画を策定し、週1回の衛生管理者による巡視を実施した。
- ・ また安全衛生活動計画において、年1回図書館独自の自衛消防・防災訓練の実施を計画し、前期入学試験実施日のため全館休館となる2月25日(木)に、全館室でそれぞれ実施した。
- ・ 火元責任者による防火防災の自主点検を実施した。

<情報機器の更新>

- ・ 鶴甲第一キャンパスのラーニングコモンズ設置にあわせ、環境復元機能を備えた貸出用ノートPCを導入した。
- ・ 利用者用PC等の設置台数は次のとおりである。

	総・国	社会	自然	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合 計
PC 台数	45	41	37	24	19	1	19	14	14	214
教育用端末(*1)	(37)	(28)	(32)	(16)	(13)	(0)	(14)	(10)	(11)	(161)
蔵書検索用端末等(*2)	(8)	(13)	(5)	(6)	(6)	(1)	(5)	(4)	(2)	(50)
スタンドアロン	(0)	(0)	(0)	(2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(3)
貸出用PC	12	4	1	0	0	0	3	0	1	21
タブレット(ipad)	(2)	(2)	(1)	(0)	(0)	(0)	(3)	(0)	(1)	(9)
ノート	(10)	(2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(12)
情報コンセント	80	19	9	18	9	0	30	2	12	180
無線LANAP(*3)	3	6	3	2	2	0	3	2	2	23

注) (*1) 情報基盤センター教育研究用計算機システムの教育用端末

(*2) 「図書館向けデジタル化資料送信サービス」「歴史的音源(れきおん)配信サービス」に対応する端末を含む

(*3) 附属図書館内に情報基盤センターが設置

＜システム整備＞

- 平成 28 年 9 月に予定されている図書館システムのリプレースに向け、調達手続を進め、導入作業を開始した。今回のリプレースでは、新規にディスカバリーサービスを導入する予定である。

＜自動貸出装置等＞

- 自動貸出装置等の設置台数は次のとおりである。

自動貸出装置	全館室(研究所を除く)
入退館管理システム	全館室(研究所を除く)
BDS(無断持出防止装置)	全館室(研究所を除く)
24 時間入退館管理システム	自然科学系図書館、医学分館
セルフ式コピー機(コイン式等)	全館室

◆評価と課題

懸案事項だった、総合・国際文化学図書館を含む鶴甲 1 地区にラーニングコモンズの設置を達成することができた。引き続き更なる学習支援機能の強化のため、自然科学系図書館でのラーニングコモンズ設置計画を推進する必要がある。

安全上早期の改善が必要だった、自然科学系図書館外壁タイルについて、改修工事を実施できた。また老朽化の目立った自然科学系図書館、保健科学図書室、海事科学分館のトイレを改修することができた。

平成 28 年度以降の主な課題としては以下のものがある。

1. 自然科学系図書館外壁タイルについて、未施工箇所の改修が必要である。
2. 海事科学分館 1 階トイレが未改修で残っているが、老朽化も進んでおり改修が必要である。
3. 医学分館と海事科学分館の空調設備は、故障が発生しており、利用者サービスや業務に支障をきたしているため更新が必要である。
4. 各館室で発生する雨漏りについては、引き続き調査・補修及び防水工事等の対応が必要である。
5. 海事科学分館のエレベーターが車椅子対応でなく老朽化も進んでおり改修が必要である。
6. 保健科学図書室 1 階への車椅子でのアプローチ経路が必要である。

システムについては、安定した稼働を維持するとともに、リプレースに向けた準備を予定通り進めた。平成 28 年度は、新システムへの移行を円滑に実施することが最大の課題である。

（５）図書館界での諸活動

＜国立大学図書館協会＞

- 西ブロック選出の監事館を務めた。
- 近畿地区協会総会の当番館として、近畿地区協会総会会場の運営に当たった。（4 月 17 日開催）
- 「教育学習支援検討特別委員会」の委員を務めた（事務部長）。
- 「実践事例普遍化小委員会」の委員を務めた（事務部長）。
- 係員 1 名が平成 27 年度国立大学図書館協会海外派遣事業（短期）に採択され、北米 UCLA 校、USC 校、UCSD 校を視察した。
（調査研究テーマ：北米大学図書館におけるデータキュレーションサービスの現状についての調査）
- 平成 27 年度国立大学図書館協会シンポジウムへの講師として、バーバラ・ティアニー氏（中央フロリダ大学）を招聘した。

＜兵庫県大学図書館協議会＞

- 平成 26 年度に引き続き、会長館、事務局として協議会の運営にあたった。
研修事業においては、研修担当館による事業の企画・運営を事務局として補助した。
 - 研究会「図書館の明日を考える」（関西学院大学図書館）
 - 施設見学会（立命館大学いばらきキャンパス OIC ライブラリー）
- 総会において、平成 27 年度以降の研修事業の見直しを提案し、全会一致にて承認された。
- 平成 26 年度の活動成果として、学修支援関連の活動状況について、電子書籍の導入状況について、図書館職員の採用・異動・養成・研修の状況について、事例報告と質疑応答を行った。活発に情報交換がなされ、今後の大学図書館の展開を模索する上でも貴重な情報共有ができた。
- 県内の大学図書館にとどまらず、公共図書館や大学図書館近畿イニシアティブ加盟館とも連携強化を図っている。

＜研修等への講師・発表者の派遣＞

- 国立情報学研究所等が開催する研修や講習会に、平成 27 年度は次のとおり職員を講師・発表者として派遣した。

研修名	主催	会場	日程	講師
学術情報基盤オープンフォーラム 2015	国立情報学研究所	学術総合センター	6/11-12	事務部長 (パネリスト)
学術情報ウェブサービス担当者研修	国立情報学研究所	国立情報学研究所	9/2-4	自然科学情報サービス 係員) (ファシリテーター)
第 101 回全国図書館大会 (東京大会)	日本図書館協会	国立オリンピック記念青 少年総合センター	10/15 -16	事務部長(講演)
Open Access Korea 2015	韓国国立図書館	韓国国立図書館	10/27	事務部長(プレゼンター)
平成 27 年度国立大学図書館協 会シンポジウム	国立大学図書館協会	東京大学	1/29	事務部長(司会)

＜その他＞

- 近畿地区国立大学等職員採用図書系専門試験実施委員会の委員を務めた。
- 近畿イニシアティブ運営委員会の委員を務めた。
- 近畿イニシアティブ能力開発専門委員会の委員を務めた（情報サービス課長補佐）。

◆評価と課題

国立大学図書館協会や兵庫県大学図書館協議会の活動において、会員間で緊密な連携と協力を図ることによって、それぞれの図書館機能の向上を支援するとともに、学術情報資源の共同整備と相互利用を促進している。

平成 26 年 6 月より国立大学図書館協会の監事館として、総会準備等に携わり円滑な運営に努めた。（平成 27 年 6 月まで）

研修事業について、講師を積極的に派遣することは、図書館諸団体の活動・運営に寄与するのみならず、講師として参加する職員の資質向上につながるものであり、大いに評価できる。今後も推進が期待される。

1. 達成度評価

(1) 達成度評価特記事項

項 目	「業務運営の改善及び効率化」
特記事項	該当なし
項 目	「財務内容の改善」
特記事項	該当なし
項 目	「自己点検・評価及び情報提供」
特記事項	該当なし
項 目	「その他の業務運営」
特記事項	該当なし
項 目	「教育研究等の質の向上」
特記事項	《ラーニングコモンズ等の自習施設の整備とそれを利用した取組》 【取組内容】 ・鶴甲第1キャンパスA棟の基幹ラーニングコモンズの設置工事を実施し、11月に供用を開始した。そのオープニングイベントの一環で、ライティングセミナー(別内容で3回、11/24,12/10,12/15、参加者合計48名)を開催。 ・既設ラーニングコモンズ等を利用した取組として、「学生のための生活講座」(国際文化学部食堂 学生ホール、6/8,6/22開催、参加者合計15名))を開催。 ・ラーニングコモンズ運用準備委員会に参加し、ロゴマークの作成、全学ラーニングコモンズウェブサイトの制作を実施。またラーニングコモンズ専門委員会連絡会に参加し、基幹ラーニングコモンズ運用規定(ガイドライン)の素案作成を開始。 【成果・効果】 ・懸案だった鶴甲第1キャンパスA棟の基幹ラーニングコモンズの設置が達成でき、さらなる学修支援活動が展開可能となった。
	《教育研究基盤資料の維持・提供》 【取組内容】 ・平成27年度は間接経費(3.2億)に加え部局負担(0.2億)により、電子ジャーナルパッケージ等24種及びデータベース等11種の提供維持と、20%の外国雑誌購読補填を実施した。 ・平成28年度以降の教育研究基盤資料整備事業については、値上げ及び為替変動による価格高騰と、海外の電子資料配信に対する消費課税化に対応するため、特定主題に係る電子ジャーナル及びデータベースの全学予算での補填率と外国雑誌購読補填率をいずれも引き下げた上で予算案を作成した。購読調査により各部局等の意向を汲んだ範囲で、可能な限り提供タイトル数を維持した。 【成果・効果】 ・価格高騰と海外の電子資料配信に対する消費課税化に対応し、教育研究基盤資料の提供を可能な限り維持することができた。
	《機関リポジトリの運営に係る最新情報の提供》 【取組内容】 ・オープンアクセス政策とオープンサイエンスに関する国際シンポジウム(EUIJ関西主催、企画・実施担当は附属図書館)を10月13,14日に開催した。 【成果・効果】 ・機関リポジトリと不可分なオープンアクセス政策とオープンサイエンスに関する国内外の最新情報を提供することにより、図書館機能向上に寄与することができた。
	《図書館所蔵資料による資料展》 【取組内容】 ・人文学研究科地域連携センターの協力により整理を行った所蔵古文書をテーマとした資料展「村上家文書の世界～近世×神戸×農村～」を開催した。(会場:社会科学系図書館、10月1日～12月15日) 【成果・効果】 ・学内他組織との連携協力により所蔵古文書の調査成果を展示することで、地域貢献を行うことができた。
	《大学文書史料室の活動》 【取組内容】 ・戦後70年に際し、神戸大学史特別展「戦時下の神戸大学」とその巡回展を計4回開催した。展示内容の調査において、旧制神戸商業大学と旧制姫路高校における学徒出陣の実態を初めて明らかにし、展示パネルにして公開した。 【成果・効果】 ・本学の歴史における重要な事項を明らかにすることができた。

(2)達成度評価表

全学中期計画 (年度計画附属図書館担当部分のみ抜粋)	年度計画	自己評価	実績
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 1. 教育に関する目標 (2)教育の実施体制等に関する目標 ○国際的教育研究拠点としてふさわしい、充実した教育を実施するための教育実施体制を強化する。 ・明確な責任体制の下、大学として必要な教育基盤環境を充実させる。	・教育基盤環境の充実を図るため、ラーニングコモンズ等の自習施設の整備を進め、それらを利用した新たな取組を展開する。	IV	○ラーニングコモンズ等の自習施設や教育基盤環境の整備について ・鶴甲第1キャンパスA棟の基幹ラーニングコモンズの設置工事を実施し、11月に供用を開始した。 ・学習用資料を活用した学習の充実を図るため、学生用資料費として当初配分で約60,000千円弱を確保し、各館室の学生用資料、シラバス掲載図書及びE-Study資料(8点)の整備を実施した。 ・ラーニングコモンズをはじめ、学習スペースの確保拡充のため、重複雑誌等の廃棄による収容スペース確保の作業、およびその前提となる図書目録遡及入力作業を、今中期計画中(平成27年度まで)の完了を目指して計画に基づいて実施し、一部の古典籍・漢籍・多言語資料を除き完了した。 ・六甲台Ⅰ地区総合研究棟(社会科学系)高度専門国際人材育成拠点概算要求のⅡ期計画として100万冊を収容できる自動化書庫の導入し、資料を集中保存することにより、学修・教育・研究用スペースの拡大を計画している。 ・自然科学系図書館、保健科学図書室、海事科学分館でトイレ改修を実施した。 ・障害学生教育支援経費により海事科学分館の玄関前スロープを改修した。 ・自然科学図書館で日曜開館(試行)を開始した。 ・人文科学図書館で夜間開館時間を21:00まで延長(試行)した。 ・医学分館・経済経営研究所図書館を除く全館で前期試験期間に伴う時間外開館期間を拡大(試行)した。 ・前期試験期間中の21日間、早朝開館を総合・国際文化学図書館と社会科学系図書館で試行した。 ○ラーニングコモンズ等の自習施設を利用した取組について ・鶴甲第1キャンパスA棟の基幹ラーニングコモンズのオープニングイベントとして、図書テーマ展示や館内クイズラリー(期間:12/7～22、参加者数:153名)を実施、またライティングセミナーを別内容で3回(11/24,12/10,12/15開催、参加者合計48名)開催した。 ・既設ラーニングコモンズ等を利用した取組として、悪質商法の紹介と企業の対消費者活動の紹介をテーマに「学生のための生活講座」(国際文化学部食堂 学生ホール、6/8,6/22開催、参加者合計15名)を開催した。 ・ラーニングコモンズ運用準備委員会に参加し、ロゴマークの作成、全学ラーニングコモンズウェブサイトの制作を実施した。またラーニングコモンズ専門委員会連絡会に参加し、基幹ラーニングコモンズ運用規定(ガイドライン)の素案作成を開始。 ・図書館活動に協力意見してもらう学生サポーターを募集し、9名が学生チーム「ULiCS」として活動開始した。 ・科研費(奨励研究)を獲得し、職員1名を米国に派遣して、学習環境の改善のため先端事例の調査研究を行った。またFD・SD研修のため米国よりラーニングコモンズの専門家1名を招聘して館内でワークショップを開催し、教職員の見識を深めた(参加者25名)。
1. 教育に関する目標 (3)学生への支援に関する目標 ○学生に対する修学支援、生活支援、キャリア形成支援等を充実させる。 ・修学支援を充実させるため、学習相談をはじめとした支援体制を点検・評価し、改善する。	・情報リテラシー教育を充実させるため、全学共通授業科目「情報基礎」の中で附属図書館が担当する「情報の活用」の講義・実習において、図書館が有する情報を一層活用する等、前年度の点検・評価の結果を踏まえ教育支援活動の更なる拡大を図る。	III	・全学共通授業科目「情報基礎」(1年次必修)において、1コマ(90分)を、附属図書館各館室の職員で構成する「情報リテラシー教育支援ワーキンググループ」のメンバー10名が担当して、前年度のアンケート結果を踏まえて内容改訂しつつ授業を実施した。 ・新入生を対象とした図書館ツアー・ガイダンス、留学生オリエンテーション、雑誌論文の探し方ガイダンス、専門講師によるデータベース操作説明会、教員等からの要望にもとづくオーダーメイドガイダンス等を実施した。 ・全学共通科目「教養原論」担当教員と連携したパスファインダー(授業資料ガイドKULiP)を作成(平成27年度 累計36ガイド)。 ・研究大学強化促進事業の一環として、前年の参加者からも好評で継続実施希望の声の多い、若手研究者・大学院生を対象とした学術英語スキルアップセミナーを、大学教育推進機構、国際コミュニケーションセンター、学術研究推進本部、男女共同参画推進室との共催により、開催した(2/3開催、会場:瀧川記念学術交流会館、参加者数:106名)。
2. 研究に関する目標 (2)研究実施体制等に関する目標 ○国際的教育研究拠点として、卓越した研究成果を創出するための研究実施体制等を充実させる。 ・研究者の自律性を尊重し、それぞれの学術領域における研究が発展し得るよう、大学として必要な研究基盤環境を整備する。	・外国雑誌を含む電子ジャーナル及びデータベース等の教育研究基盤資料の維持・提供に努めるとともに、平成28年度以降の教育研究基盤資料の維持方策の検討を進める。また、外国雑誌センター館として資料収集と提供に努めるとともに、「神戸大学学術成果リポジトリ」のコンテンツを充実させることにより、附属図書館の研究支援機能を向上させる。	IV	○教育研究基盤資料の維持・提供について ・平成27年度は間接経費(3.2億)に加え部局負担(0.2億)により、電子ジャーナルパッケージ等24種及びデータベース等11種の提供維持、20%の外国雑誌購読補填を実施した。 ・各出版社と契約方法の代替案や新規提案について調査・交渉を実施した。 ・平成28年度以降の教育研究基盤資料整備事業については、値上げ及び為替変動による価格高騰と、海外の電子資料配信に対する消費課税化に対応し予算案を作成した。 ・特定主題に係る電子ジャーナル及びデータベースの全学予算での補填率と外国雑誌購読補填率をいずれも引き下げた上、各部局等へ購読調査を実施し、購入誌を調整し決定した。 ○外国雑誌センター館について ・外国雑誌センター館として国内の他機関で未収集の外国雑誌676誌を収集・整理し、全国に文献複写等の情報サービスを提供した。 ・学内外の利用者への迅速な雑誌所蔵情報提供のために、国立情報学研究所全国総合目録データベースへのデータ更新を実施した。 ○「神戸大学学術成果リポジトリ」のコンテンツ充実について ・「神戸大学学術成果リポジトリ」として、コンテンツの充実を図った。 ・機関リポジトリを利用した学位論文(博士)の公表について、関連部局と連携し、論文の収集を実施、公開した。(今年度公開件数240件、H27.3学位授与論文数221件のうち公開件数83件) ・出版社版のPDFが登録可能なPLOS ONEやBioMed Central等、OAジャーナル掲載論文145件を登録。(平成27年度) ・ニュースレター「Kernel通信」を年2回発行し、広報を実施している。 ・オープンアクセス政策とオープンサイエンスに関する国際シンポジウム(EUIJ関西主催、企画・実施担当は附属図書館)を10月13,14日に開催した(参加者延べ202名)。 ・オープンアクセスポリシーの採択に向けた検討と素案作成を開始。
3. その他の目標 (2)社会との連携や社会貢献に関する目標 ○国立大学の公的な役割を踏まえ、教育研究成果の社会還元を通じて、積極的な社会貢献を行う。 ・大学の施設・設備の開放、知的資産及び授業の公開等を推進し、地域社会の発展に寄与する。	・教育研究成果の社会還元を図るため、震災関係資料・新聞記事文庫及び古文書等の図書館所蔵資料や学内研究成果等の電子化を更に推進し、デジタルアーカイブにおいて公開する。また、図書館所蔵資料による資料展を開催し、一般市民への生涯学習支援と地域社会への貢献を図る。	III	○図書館所蔵資料や学内研究成果等の電子化・公開 ・阪神・淡路大震災関連の資料収集を引き続き進めるとともに、震災文庫電子化を継続している。 ・「阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター」、「兵庫県立図書館」と「震災文庫」所蔵図書資料の横断検索システムのデータ更新を継続している。 ・国立国会図書館と連携し、東日本大震災アーカイブ(ひなぎく)において震災文庫の阪神・淡路大震災関連データを提供している。 ・経済関係資料では、新聞記事文庫の記事全文テキスト化を実施している。 ・新聞記事文庫を活用した研究成果を公開し利用を促進するため、ホームページを作成し「活用事例集」として公開している。 ・人文学研究科地域連携センターとの協力により、所蔵する古文書類についての整理・保存・電子化作業を継続している。 ○図書館所蔵資料による資料展 ・人文学研究科地域連携センターの協力により整理を行った所蔵古文書をテーマとした資料展「村上家文書の世界～近世×神戸×農村～」を開催した。(会場:社会科学系図書館、10月1日～12月15日) ・阪神・淡路大震災発生日にあわせ、平成26年度資料展「つたえる・つなげる～阪神・淡路大震災20年～」のリバイバル展示を実施。(会場:社会科学系図書館、1月12日～1月26日) ・海事博物館や人文学研究科等と連携した展示企画「神戸大学サテライト巡回展」の一環として会場提供した。 ○生涯学習支援と地域社会への貢献 ・一般市民への図書館開放(全館室)、学外者への館外貸出サービス(2館)、本学卒業生・修了者及び放送大学学生等への館外貸出サービス(全館室)を継続実施している。 ・附属学校再編計画に伴い、附属中等教育学校生徒(高校生)への図書の貸出を実施中である。(平成24～28年度)

全学中期計画 (年度計画附属図書館担当部分のみ抜粋)	年度計画	自己評価	実績
3. その他の目標 (2) 社会との連携や社会貢献に関する目標 ○国立大学の公的な役割を踏まえ、教育研究成果の社会還元を通じて、積極的な社会貢献を行う。 ・大学の施設・設備の開放、知的資産及び授業の公開等を推進し、地域社会の発展に寄与する。	・公文書等の管理に関する法律の規定に基づき、国立公文書館等としての責務を果たすため、特定歴史公文書ほか本学の歴史に係る資料の受入れ、整理、保存及び一般公開並びにそれらに関する調査を実施する。また、学内職員に対する研修会等を通じて、歴史資料として重要な法人文書の収集に努めるとともに、本学の歴史に係る展示会の開催、目録データベースの整備及び学内外のレファレンス対応等によって利用の促進を図る。	Ⅲ	○歴史公文書等資料の受入れ、整理、保存、一般公開及び調査 ・学内の歴史公文書等の移管文書の受入れ及び整理を実施している。 ・全学各部局との法人文書移管協議を実施した。 ・所蔵史料の目録作成を実施している。 ・神戸大学の歴史に関する資料「神戸高等商業学校 校友会報」「神戸経済大学新聞」のデジタル画像の作成・公開を実施した。 ・他機関からの大学文書史料室見学等を受入れた。 ・室員(特命職員)が、大学史及びアーカイブズ学に関する調査研究を実施した。 ○活動報告及び研修会 ・附属図書館運営委員会及び大学文書史料室運営会議での活動報告を実施した。 ・内閣総理大臣に平成26年度状況報告を提出した。 ・学内職員に対する文書管理の研修を実施した(新任教職員研修講師派遣4月3日、室員研修7月2日、7月24日、8月4日、文書管理者研修講師派遣2月8日)。 ○神戸大学の歴史に係る資料展(大学文書史料室) ・神戸大学史常設展「神戸大学史展―110年の歩みと展望―」(会場:百年記念館)を開催した。 ・神戸大学史特別展「戦時下の神戸大学―戦後70年記念―」(会場:百年記念館、10月26日-11月6日開催)。 ・神戸大学史サテライト巡回展(会場:海事博物館、11月25日-12月16日開催)。 ・神戸大学史巡回展(東京)(会場:東京六甲クラブ、1月12日-1月21日開催)。 ・神戸大学史巡回展(神戸)(会場:社会科学系図書館、2月1日-2月26日開催)。 ○目録データベースの整備及びレファレンス対応 ・所蔵資料の目録データベースを毎月更新しホームページ上で公開した。 ・学内外からのレファレンスに積極的に随時対応した。
	・「震災文庫」(社会科学系図書館内)における阪神・淡路大震災関係資料の収集・保存・公開の実施を継続するとともに、震災関係資料を収集する他機関との連携を図る。	Ⅲ	○「震災文庫」における阪神・淡路大震災関係資料の収集・保存・公開 ・阪神・淡路大震災関連の資料収集を進めるとともに、震災文庫電子化を継続している。 ○震災関係資料を収集する他機関との連携 ・「阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター」、「兵庫県立図書館」と「震災文庫」所蔵図書資料の横断検索システムのデータ更新を継続している。 ・国立国会図書館と連携し、東日本大震災アーカイブ(ひなぎく)において震災文庫の阪神・淡路大震災関連データを提供している。 ・「被災地図書館との震災資料の収集・公開に係る情報交換会」を開催した(1月22日)。

附属図書館蔵書・受入等の現況(平成27年度)

			総合・国際	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
蔵書	蔵書数 (冊)		495,114	1,370,520	491,390	308,258	340,360	282,303	151,501	59,839	258,896	3,758,181
	和洋区分	和漢書	353,371	653,924	260,005	194,485	263,903	124,576	68,922	51,138	200,320	2,170,644
		洋書	141,743	716,596	231,385	113,773	76,457	157,727	82,579	8,701	58,576	1,587,537
	遊及状況	入力済	443,526	1,235,395	347,148	264,189	282,565	204,846	92,863	59,353	258,896	3,188,781
		未入力	51,588	135,125	144,242	44,069	57,795	77,457	58,638	486	0	569,400
	所蔵雑誌数 (タイトル数)		1,953	16,552	5,529	4,142	3,743	6,414	3,081	1,020	3,463	45,897
	和洋区分	国内雑誌	1,081	6,556	2,525	3,204	2,546	2,780	1,623	820	2,303	23,438
		外国雑誌	872	9,996	3,004	938	1,197	3,634	1,458	200	1,160	22,459
図書受入	受入図書数 (冊)		4,083	3,843	15,197	4,761	4,485	3,845	1,115	2,219	1,470	44,197
	和洋区分	和漢書	3,781	2,675	9,173	3,622	3,350	3,306	773	1,950	1,380	32,076
		洋書	302	1,168	6,024	1,139	1,135	539	342	269	90	12,121
	取得手段	購入(一般財源)	3,930	2,383	6,102	2,451	1,919	2,327	451	1,050	957	22,963
		補助金による購入	105	1,293	4,414	1,215	1,822	998	327	578	192	11,266
		一般寄贈	0	113	1,927	579	324	33	189	165	211	4,790
		再受入	0	0	79	0	0	0	0	0	0	79
		製本編入	48	54	2,654	516	420	487	148	426	110	5,078
		所属換	0	0	21	0	0	0	0	0	0	21
		取得目的										
	取得目的	学生用図書	3,697	418	3,265	1,886	814	1,385	121	993	1,053	14,976
		図書館備付	144	1,082	6,024	53	1,713	669	585	591	110	12,197
		研究室備付	242	2,343	5,908	2,822	1,958	1,791	409	635	307	17,024
	除却・移譲等による減 (冊)		15,974		1,281	8,594	1,439	1,645	0	432	319	29,847
	和洋区分	和漢書	15,375		584	3,746	1,357	1,269	0	329	279	23,004
		洋書	599		697	4,848	82	376	0	103	40	6,843
	所属換による減 (冊)		0		0	0	0	0	0	0	21	21
	和洋区分	和漢書	0		0	0	0	0	0	0	21	21
		洋書	0		0	0	0	0	0	0	0	0
	年間増加数 (冊)		-8,048	13,916	-3,833	3,046	2,200	1,115	1,787	1,151	2,995	14,329
	和洋区分	和漢書	-8,919	8,589	-124	1,993	2,037	773	1,621	1,101	1,980	9,051
		洋書	871	5,327	-3,709	1,053	163	342	166	50	1,015	5,278
雑誌受入	受入雑誌数 (タイトル数)		116	219	2,545	720	1,949	653	675	608	163	8,031
	和洋区分	国内雑誌	108	181	803	446	1,678	580	396	415	133	5,047
		外国雑誌	8	38	1,742	274	271	73	279	193	30	2,984
	取得手段	購入(一般財源)	116	77	2,282	504	330	325	314	210	103	4,413
		補助金による購入	0	0	11	7	0	0	0	59	0	79
		一般寄贈	0	142	252	209	1,619	328	361	339	60	3,539
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	取得目的	学生用雑誌	102	11	30	133	22	333	0	178	96	1,030
		図書館備付	5	175	2,348	171	1,927	189	663	339	60	6,110
		研究室備付	9	33	167	416	0	131	12	91	7	891
その他資料受入	受入新聞数 (タイトル数)		7	0	26	13	6	8	9	5	3	90
	和洋区分	国内新聞	6	0	20	11	4	8	5	4	3	74
		外国新聞	1	0	6	2	2	0	4	1	0	16
	取得手段	購入	6	0	26	13	6	8	9	5	3	87
		寄贈	1	0	0	0	0	0	0	0	2	3
	データベース(年間契約点数)		17	0	8	1	0	0	0	5	2	33
	電子ジャーナル(利用可能数)		26,539									26,539
資料購入費	一般財源資料費		362,303,540	15,104,103	162,016,793	45,234,640	20,676,954	15,592,658	22,843,775	42,116,255	10,403,122	707,428,660
	図書館セグメント	学生用資料費	15,761,846	2,693,910	9,176,000	12,092,978	2,809,848	3,577,882	966,326	4,953,783	3,248,637	58,616,658
		その他資料費	343,806,850	0	34,184,065	0	0	0	0	0	0	377,990,915
	部局セグメント	館室備付	1,104,054	5,374,255	106,068,552	3,769,489	12,009,559	5,549,163	21,449,134	35,345,951	6,519,570	203,889,700
		研究室備付	1,630,790	7,035,938	12,588,176	29,372,173	5,857,547	6,465,613	428,315	1,816,521	634,915	66,931,387
	その他の財源 補助金等		5,151,691	7,593,630	45,226,378	17,774,617	14,045,549	7,453,670	2,684,480	8,339,650	843,707	110,997,853
	図書購入費		11,362,693	19,682,617	88,704,215	23,636,131	22,083,250	13,410,508	8,986,555	11,748,392	5,400,296	212,423,529
	和洋区分	和漢書	9,824,704	10,478,060	31,990,656	12,486,620	13,108,836	9,582,999	2,520,156	9,223,911	4,304,521	108,213,200
		洋書	1,537,989	9,204,557	56,713,559	11,149,511	8,974,414	3,827,509	6,466,399	2,524,481	1,095,775	104,210,329
	雑誌購入費		24,491,831	1,552,562	105,618,177	28,839,466	7,155,493	5,659,484	15,563,556	24,542,291	4,949,263	222,859,907
	和洋区分	国内雑誌	1,266,092	384,614	10,865,932	5,516,126	1,231,619	2,223,298	3,634,116	4,329,467	1,722,953	32,532,744
		外国雑誌	23,225,739	1,167,948	94,752,245	23,323,340	5,923,874	3,436,186	11,929,440	20,212,824	3,226,310	190,327,163
	新聞購入費		303,180	0	2,659,596	667,507	254,736	222,840	492,806	254,736	152,184	5,515,497
	電子資料費		330,864,591	0	5,859,657	2,172,759	0	0	0	10,228,849	428,333	349,671,499
	その他の資料購入費		432,936	1,462,554	4,401,526	7,693,394	5,229,024	3,753,496	485,338	3,681,637	316,753	27,956,081
	資料購入費 計		367,455,231	22,697,733	207,243,171	63,009,257	34,722,503	23,046,328	25,528,255	50,455,905	11,246,829	818,426,513
	電子コンテンツ作成費		10,263,436									10,263,436
	製本費		229,132	5,961,944	1,159,142	959,687	1,093,996	332,466	956,966	247,104	522,935	11,463,372

* 所蔵雑誌数は雑誌包括所蔵数から誌名変遷数を引いた数値とする(平成23年度変更)

附属図書館サービス業務の現況(平成27年度)

			総合・ 国際	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
施設	施設面積合計(㎡)		3,558	10,313	3,287	1,288	1,474	1,084	1,612	808	2,170	25,594
	現行用途別 (㎡)	サービススペース	1,954	2,125	1,577	664	538	141	838	603	719	9,159
		書庫スペース	1,208	5,771	449	535	714	887	431	71	1,051	11,117
		事務スペース	130	627	351	48	89	27	163	35	159	1,629
		その他	266	1,790	910	41	133	29	180	99	241	3,689
	閲覧座席数	閲覧座席数	374	411	266	121	153	24	220	88	170	1,827
		上のうち、教員用	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
	書架収容力	棚板延長(m)	11,613	48,605	10,616	8,016	7,857	6,833	6,268	1,792	7,258	108,858
		収容可能冊数	322,600	1,350,100	294,900	222,700	218,300	189,800	174,100	49,800	201,600	3,023,900
利用者端末台数			45	41	37	24	19	1	19	14	14	214
利用者	利用対象者総数		5,109	4,589	5,687	801	1,393	64	2,738	959	1,277	22,617
	利用者別	学部学生	4,261	2,165	2,411	360	817	0	578	515	769	11,876
		大学院生	223	1,339	1,797	216	314	0	544	271	193	4,897
		教職員	398	527	1,312	156	200	62	1,535	126	175	4,491
		その他	5	57	18	13	7	2	49	4	28	183
		学外登録者総数	222	501	149	56	55	0	32	43	112	1,170
	内訳:卒業生810、放送大学等109、一般市民 251											
開館 入館	開館日数	年間	278	330	309	281	274	236	288	280	281	2,557
		土曜(内数)	35	48	36	36	35	0	50	36	36	312
		休日(内数)	9	46	37	9	9	0	0	8	9	127
	時間外等 開館時間数	平日時間外開館	793.5	1,054.5	796.5	692.0	684.5	0.0	948.5	688.5	550.5	6,208.5
		土曜開館	280	384	288	288	280	0	400	288	288	2,496
		休日開館	72	368	296	72	72	0	0	64	72	1,016
	入館者数	年間入館者総数	276,730	206,007	105,941	85,439	68,258	4,811	112,034	54,012	27,662	940,894
		(内訳)時間内(含:土日)	243,419	177,598	89,166	72,361	60,938	4,811	70,122	47,730	25,185	791,330
		平日時間外	33,311	28,409	16,679	13,078	7,320	0	20,668	6,282	2,477	128,224
		閉館時(無人)	-	-	96	-	-	-	21,244	-	-	21,340
		土曜(内数)	4,986	16,879	4,901	3,532	1,385	0	5,000	2,247	990	39,920
		休日(内数)	1,566	12,067	4,198	906	353	0	0	444	439	19,973
		学外者(内数)	6,352	14,476	2,936	1,683	1,935	56	1,739	1,203	1,404	31,784
		(内訳)卒業生	1,748	7,392	993	691	855	14	791	390	431	13,305
		他大学生・研究者等	885	2,065	867	522	84	24	319	183	79	5,028
	一般市民	3,719	5,019	1,076	470	996	18	629	630	894	13,451	
貸出	貸出総冊数		78,096	72,474	42,782	24,474	27,202	1,873	10,193	16,076	22,925	296,095
	利用者別	学生	46,856	23,278	26,129	7,643	12,622	253	6,375	10,812	14,587	148,555
		院生	20,210	34,982	13,095	13,339	11,975	556	829	3,239	5,019	103,244
		教員	4,800	5,678	1,657	2,296	1,373	954	548	927	1,402	19,635
		職員	3,584	3,731	1,175	832	871	77	2,119	661	954	14,004
		その他	266	3	26	0	10	0	92	2	96	495
		学外者総数	2,380	4,802	700	364	351	33	230	435	867	10,162
		卒業生(内数)	875	2,752	542	339	292	32	202	432	359	5,825
一般市民(内数)	1,175	-	-	-	-	-	-	-	493	1,668		
参考 調査	参考調査件数		2,746	3,871	2,650	2,519	2,564	355	1,728	1,680	1,725	19,838
	利用者別	学生	2,596	2,284	1,987	1,978	2,234	183	766	1,148	1,043	14,218
		教職員	50	232	464	250	315	130	596	128	80	2,245
		学外者	100	1,355	199	291	15	42	366	404	602	3,374
複写 相互 利用	来館複写件数		2,676	3,335	15,386	7,651	1,317	1,873	6,560	2,219	432	41,449
	利用者別	学内者	2,247	2,547	9,319	7,008	1,137	1,810	2,995	1,407	311	28,781
		学外者	429	788	6,067	643	180	63	3,565	812	121	12,668
	学内 相互利用	ILL文献複写 受付	30	159	155	170	100	50	134	122	86	1,006
		ILL文献複写 依頼	277	210	66	72	225	17	70	123	50	1,110
	図書配送	発送申込冊数	8,700	7,966	2,318	2,526	4,854	516	571	1,643	3,255	32,349
		受取申込冊数	6,464	5,869	3,898	8,971	3,646	579	787	989	1,146	
		申込者数	1,135	911	827	669	481	26	123	158	193	4,523
	学外 相互利用	ILL文献複写 受付	272	3,058	668	536	495	253	1,595	799	203	7,879
		ILL文献複写 依頼	614	1,669	507	1,000	1,377	13	657	710	82	6,629
		ILL現物貸借 受付	449	1,513	124	572	206	15	9	4	110	3,002
		ILL現物貸借 依頼	242	289	112	639	165	19	10	13	9	1,498
	海外ILL	文献複写 受付	0	26	0	1	0	0	0	0	7	34
		文献複写 依頼	0	0	2	6	0	0	0	0	0	8
		現物貸借 受付	0	3	0	0	0	0	0	0	1	4
		現物貸借 依頼	2	0	1	10	0	0	0	0	0	13

電子的情報サービスの現状 (H27)

電子ジャーナルタイトル数 (H27.10)

26,542(増:25,019+和:1,523)

電子ジャーナルアクセス状況 (2015.1～12) ※基盤整備費にかかるもの

フルテキストへのアクセス数

	2015.1	2015.2	2015.3	2015.4	2015.5	2015.6	2015.7	2015.8	2015.9	2015.10	2015.11	2015.12	合計
Elsevier ScienceDirect	45,677	37,860	30,779	45,527	44,327	48,808	42,372	33,307	39,105	52,996	51,853	44,236	516,847
SpringerLINK	7,810	7,185	5,319	7,233	7,267	8,137	6,657	5,827	5,787	7,649	7,235	6,096	82,202
Wiley-Blackwell	12,857	10,327	9,049	12,514	12,804	13,366	10,638	8,901	9,216	12,659	12,180	9,760	134,271
JSTOR	4,040	2,877	2,543	3,761	3,869	4,279	3,152	2,418	2,843	4,042	4,322	4,013	42,159
Nature	8,669	7,543	7,304	8,749	9,753	9,341	9,004	7,361	7,391	9,810	8,768	7,342	101,035
Science Online	1,452	1,023	928	1,480	1,510	1,746	1,226	958	1,181	1,453	1,311	1,203	15,471
IEEE CSDL	561	499	447	525	649	217	313	701	216	170	623	565	5,486
ACM Portal	217	176	96	135	247	295	305	80	151	245	457	190	2,594
APS	1,582	1,483	856	1,499	1,567	1,623	1,700	1,247	1,098	1,533	1,439	1,305	16,932
LWW via Ovid	1,148	1,254	1,083	1,183	1,037	1,129	1,135	1,108	999	1,157	1,079	984	13,296
ACS	6,623	6,831	4,423	5,687	7,633	7,467	6,654	5,347	5,958	7,939	8,077	5,130	77,769
Oxford UP	3,665	3,112	2,923	3,457	3,273	4,166	3,707	2,918	2,973	3,784	3,396	3,316	40,690
Cambridge UP	519	524	389	598	568	601	451	420	380	580	815	486	6,331
HeinOnline	405	446	487	1,140	1,128	421	699	4,136	500	627	583	563	11,135

導入データベース数 (H27.3) ※図書館HP「データベース一覧」より(一般公開分を除く)

全学利用	53 WWW7ケース(外部サーバ49)(内部サーバ4:IMF統計関係)
キャンパス限定(医学)	4 医学4(医中誌Web、EBMR、MEDLINE、Up to date)

データベースアクセス状況 (2015.1～12) ※基盤整備費およびe-study資料費にかかるもの

各項上段がセッション数、下段(カッコ)が検索数

	2015.1	2015.2	2015.3	2015.4	2015.5	2015.6	2015.7	2015.8	2015.9	2015.10	2015.11	2015.12	合計
Web of Science Core Collection	1,199 (4,660)	1,003 (4,340)	961 (3,863)	1,571 (6,892)	1,579 (7,723)	1,888 (7,854)	1,409 (5,199)	1,005 (3,662)	933 (3,542)	1,412 (5,819)	1,269 (4,544)	1,239 (4,215)	15,468 (62,313)
JCR	143 (142)	121 (146)	152 (131)	87 (115)	75 (104)	149 (278)	133 (174)	94 (115)	70 (79)	93 (100)	101 (111)	74 (79)	1,292 (1,574)
医学中央雑誌	2,907 (7,504)	3,152 (8,859)	3,355 (9,489)	4,055 (10,572)	3,993 (10,146)	3,862 (9,943)	4,075 (10,997)	3,124 (8,138)	3,201 (8,710)	3,842 (8,669)	4,254 (12,606)	2,618 (5,969)	42,438 (111,602)
MathSciNet	3,699 (3,699)	2,671 (2,671)	3,784 (3,784)	3,401 (3,401)	3,266 (3,266)	5,440 (5,440)	4,170 (4,170)	3,395 (3,395)	2,833 (2,833)	4,107 (4,107)	3,460 (3,460)	2,749 (2,749)	42,975 (42,975)
SciFinder	634 (3,813)	599 (3,287)	465 (2,397)	699 (3,835)	777 (4,530)	765 (3,848)	632 (3,177)	419 (1,984)	609 (3,259)	727 (3,937)	662 (3,405)	455 (2,405)	7,443 (39,877)
Readers Guide to Periodical Literature(EBSCOhost)	17 (77)	19 (124)	12 (58)	18 (54)	19 (51)	22 (61)	35 (111)	25 (93)	19 (82)	12 (23)	1 (0)	28 (146)	227 (880)
EconLit	49 (231)	70 (363)	69 (362)	87 (399)	83 (294)	112 (469)	88 (311)	81 (534)	98 (5,620)	77 (386)	87 (487)	106 (480)	1,007 (9,936)
Index to Legal Periodicals & Books(EBSCOhost)	13 (79)	16 (114)	11 (53)	26 (69)	10 (27)	14 (36)	28 (101)	25 (105)	15 (57)	10 (28)	18 (88)	33 (156)	219 (913)
Business Source Premier	538 (832)	419 (794)	469 (836)	503 (782)	46 (206)	682 (1,414)	421 (777)	360 (760)	54 (298)	517 (980)	494 (815)	587 (851)	5,090 (9,325)
CINAHL	28 (164)	32 (180)	28 (123)	59 (321)	40 (206)	41 (156)	58 (224)	49 (372)	51 (296)	32 (211)	36 (212)	35 (193)	489 (2,658)
ProQuest Dissertations & Theses Complete [A&I]	56 (240)	45 (167)	21 (101)	45 (161)	49 (127)	22 (317)	35 (92)	25 (91)	13 (29)	15 (41)	6 (12)	15 (55)	347 (1,433)
PhycINFO	112 (728)	57 (252)	69 (224)	159 (827)	84 (591)	100 (637)	163 (1,033)	67 (268)	59 (296)	113 (678)	99 (471)	93 (637)	1,175 (6,642)
PhycARTICLES	192 (638)	133 (290)	127 (300)	276 (841)	178 (683)	103 (637)	235 (1,130)	132 (336)	127 (296)	202 (700)	150 (523)	145 (699)	2,000 (7,073)
OECD iLibrary	43 (23,358)	41 (5,062)	14 (5,498)	11 (5,168)	67 (5,181)	33 (5,753)	69 (6,156)	91 (4,832)	70 (5,303)	74 (6,195)	118 (6,250)	28 (4,180)	659 (64,872)
メディカルオンライン Lexis/Nexis.com	261 (261)	82 (82)	45 (45)	72 (72)	26 (26)	188 (188)	50 (50)	68 (68)	300 (300)	53 (53)	1077 (1077)	122 (122)	2,344 (2,344)
Westlaw International	78 (626)	86 (417)	94 (466)	95 (374)	95 (1,258)	136 (885)	129 (892)	121 (553)	181 (1,255)	141 (936)	259 (1,967)	187 (1,078)	1,602 (10,707)
ジャパンナレッジLib	733 (5,098)	405 (2,870)	389 (6,056)	767 (10,074)	1,081 (14,427)	1,281 (12,238)	961 (10,669)	581 (4,012)	461 (4,185)	1,028 (9,871)	1,105 (8,953)	934 (7,105)	9,726 (95,558)
CiNii	7,057 (23,358)	4,292 (14,637)	3,160 (10,496)	6,924 (22,762)	7,138 (22,494)	8,389 (27,365)	7,566 (24,650)	4,323 (13,286)	4,242 (13,606)	7,892 (25,970)	7,989 (24,479)	7,043 (22,279)	76,015 (245,382)
日経テレコン	241,571	124,737	109,757	161,447	289,309	337,836	224,601	75,509	87,861	278,534	246,091	227,503	2,404,756
開蔵IIビジュアル	707 (8,644)	494 (5,440)	458 (5,890)	698 (11,734)	780 (10,996)	695 (12,368)	735 (9,622)	611 (7,207)	482 (5,755)	686 (14,952)	818 (10,780)	680 (8,239)	7,844 (111,627)
ヨミダス歴史館	809	595	490	405	499	1,332	1,031	424	495	579	652	745	8,058
毎素	398 (24,037)	347 (8,049)	281 (10,623)	320 (15,338)	486 (18,980)	498 (23,661)	521 (18,418)	360 (12,043)	284 (16,169)	346 (16,120)	438 (15,554)	395 (17,334)	4,674 (196,326)
KOD(研究社オンライン・デクシオナリー)	52	42	46	48	60	63	59	25	45	79	42	32	593
MAGAZINEPLUS	130 (230)	127 (201)	74 (108)	74 (113)	216 (302)	308 (462)	241 (353)	83 (159)	77 (158)	197 (269)	243 (350)	159 (209)	1,929 (2,914)
Marquis Biographies Online (Marquis Who's Who)	(2)	(1)	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(3)
JDreamIII	112 (218)	116 (287)	105 (263)	212 (387)	268 (688)	207 (415)	210 (381)	85 (176)	120 (315)	508 (827)	173 (429)	99 (307)	2,215 (4,693)
ナクソス・ミュージック・ライブラリー	302	323	181	334	293	310	269	177	199	471	617	609	4,085

※官報は統計データ未公開

図書館ホームページ、OPAC等アクセス統計 (H27.4～H28.3)

	H27.4	H27.5	H27.6	H27.7	H27.8	H27.9	H27.10	H27.11	H27.12	H28.1	H28.2	H28.3	合計
図書館トップページ	57,991	64,321	68,448	67,831	46,038	40,899	63,528	60,390	56,426	59,071	47,431	41,779	674,153
うち学内	33,428	37,415	41,638	36,073	22,791	20,908	35,889	32,874	30,375	30,385	24,617	21,786	368,179
うち学外	24,563	26,906	26,810	31,758	23,247	19,991	27,639	27,516	26,051	28,686	22,814	19,993	305,974
震災文庫トップページ	1,076	1,327	1,383	1,896	1,280	1,242	1,628	1,749	1,743	1,824	1,077	1,164	17,389
うち学内	95	139	149	98	73	66	148	228	320	172	89	96	1,675
うち学外	981	1,188	1,234	1,798	1,207	1,174	1,480	1,521	1,423	1,652	988	1,068	15,714
新聞記事文庫トップページ	5,717	6,396	6,440	8,395	5,646	5,711	6,650	6,018	5,943	6,182	4,991	5,155	73,244
うち学内	122	143	261	193	103	143	426	313	223	188	130	119	2,364
うち学外	5,595	6,253	6,179	8,202	5,543	5,568	6,224	5,705	5,720	5,994	4,861	5,036	70,880
OPAC延べ検索回数	147,495	164,229	178,345	164,241	106,202	125,257	153,609	148,877	150,183	160,162	132,745	101,464	1,732,809
うち学内	78,084	90,546	103,560	91,359	49,651	45,480	82,359	73,779	60,282	81,588	64,659	44,748	866,095
うち学外	69,411	73,683	74,785	72,882	56,551	79,777	71,250	75,098	89,901	78,574	68,086	56,716	866,714

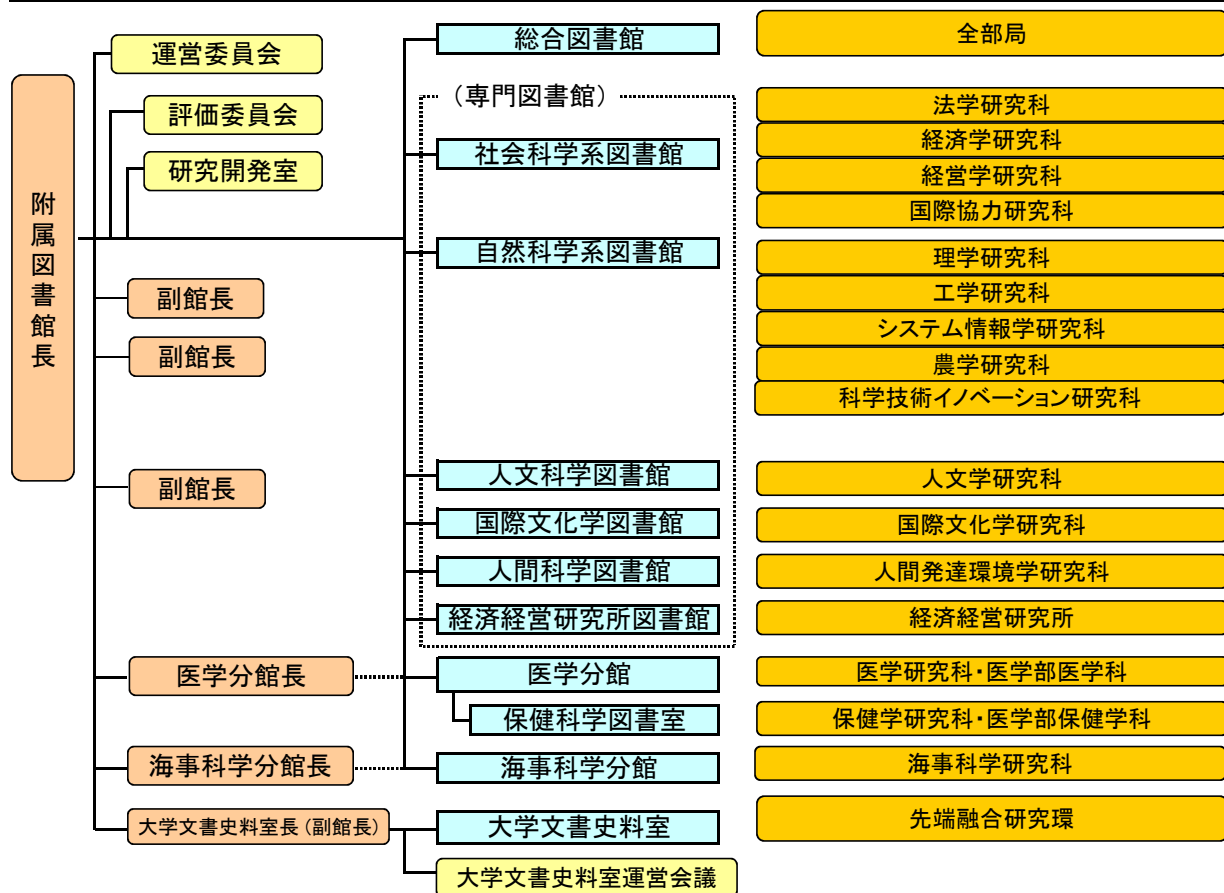
リンクゾルバ(SFX)利用統計 (H27.4～H28.3)

	H27.4	H27.5	H27.6	H27.7	H27.8	H27.9	H27.10	H27.11	H27.12	H28.1	H28.2	H28.3	合計
電子リソースアクセス数	19,424	20,531	19,797	18,633	12,752	113,755	19,855	17,582	13,945	15,751	13,156	10,689	295,870
電子リソースリスト	4,814	5,434	5,092	4,510	3,008	103,258	4,515	3,627	3,124	3,966	3,271	3,198	147,817
DBからのアクセス数	14,610	15,097	14,705	14,123	9,744	10,497	15,340	13,955	10,821	11,785	9,885	7,491	148,053
→フルテキスト	10,100	10,377	10,385	9,273	6,754	7,040	9,352	8,589	6,855	8,638	7,290	6,245	100,898
→所蔵検索数	1,321	1,140	1,159	666	666	688	1,191	1,052	810	779	606	497	10,968
→文献複写依頼	373	261	353	317	299	206	383	271	248	168	168	173	3,220

※ アクセス数:電子リソースリストやDBからのSFXリンクアイコン総アクセス数、所蔵検索数:OPAC、Webcatのアクセス回数

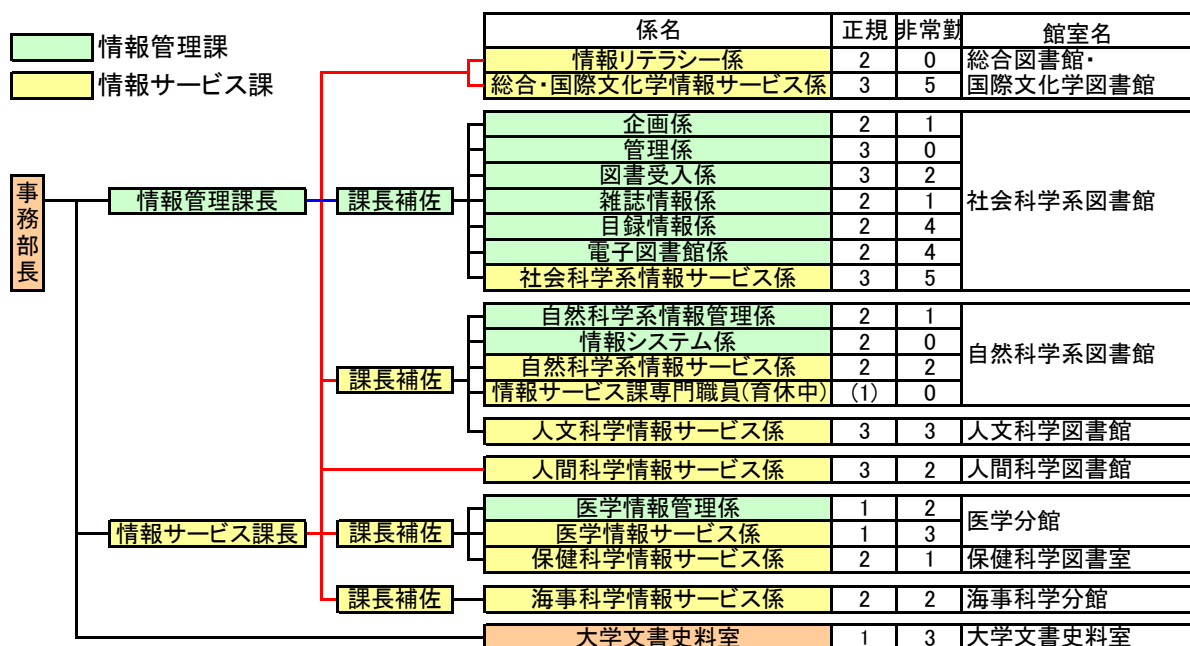
各DB(CiNii、WOS、JDreamIII、PubMed、医中誌など)へのSFXのリンク設定

(平成28年7月現在)



各専門図書館、分館及び保健科学図書室に、各館(室)の図書委員会を置く。

(平成28年7月現在)



附属図書館 正規職員47名 非常勤職員38名
 大学文書史料室 特命職員 1名 非常勤職員 3名
 * 非常勤職員数は、夜間開館要員等、特定事業に関わるものを除く

經濟經營研究所事務長	研究所図書係	3	0	經濟經營研究所図書館
------------	--------	---	---	------------

平成27年度附属図書館諸会議一覧

<附属図書館運営委員会>

第1回： 6月3日（水）15：10～ （於：社会科学系図書館6階会議室）

協議事項

- (1) 平成26年度決算について
- (2) 平成27年度電子図書館事業について
- (3) 平成28年度の教育研究基盤整備事業について
- (4) 2016年外国雑誌購読調査について
- (5) 平成27年度総合図書館学生用資料整備計画について
- (6) 大学文書史料室関係規則の改正について
- (7) デジタルコンテンツ削除依頼について
- (8) 資料の不用決定について
- (9) その他

報告事項

- (1) 各図書館・室報告について
- (2) 大学文書史料室報告について
- (3) 第3期中期目標・中期計画について
- (4) 平成26事業年度に係る業務の実績について
- (5) 平成27年度前期図書館ガイダンスについて
- (6) その他

第2回： 10月29日（木）8：50～ （於：社会科学系図書館6階会議室）

協議事項

- (1) 教育研究基盤資料の整備について
- (2) 各部局等における部局年次計画の重点事項について
- (3) 資料の不用決定について
- (4) その他

報告事項

- (1) 外国雑誌センターでの購入誌について
- (2) 各図書館・室報告について
- (3) 大学文書史料室報告について
- (4) 平成27年度附属図書館資料展について
- (5) 平成27年度後期図書館ガイダンスについて
- (6) 鶴甲第1キャンパスラーニングコモンズ紹介・関連イベントについて
- (7) 学生選書ツアー、BOOKISH FESについて
- (8) EUIJ 国際シンポジウム「HORIZON2020によるオープンアクセス政策とオープンサイエンスの国際的課題」について
- (9) その他

第3回： 2月4日（木）10：40～ （於：社会科学系図書館6階会議室）

協議事項

- (1) 平成28年度附属図書館予算要求について
- (2) 平成28年度における附属図書館サービスの変更について

- (3) 資料の不用決定について
- (4) その他

報告事項

- (1) 各図書館・室報告について
- (2) 大学文書史料室報告について
- (3) 第3期中期目標・中期計画整理表（平成28年度年度計画等）について
- (4) オープンアクセス方針の採択について
- (5) 平成27年度附属図書館協同学修シリーズ実施報告
- (6) その他

第4回： 3月29日（火）8：50～ （於：社会科学系図書館6階会議室）

協議事項

- (1) 平成28年度附属図書館当初予算配分について
- (2) 平成28年度附属図書館学生用資料費について
- (3) 平成28年度電子図書館事業について
- (4) 教育研究基盤資料の整備について
- (5) 神戸大学オープンアクセス方針（試案）について
- (6) 大学文書史料室利用等要項の改正について
- (7) 資料の不用決定について
- (8) その他

報告事項

- (1) 平成26年度選定学生用図書の分析・評価結果について
- (2) 各図書館・室報告について
- (3) 大学文書史料室報告について
- (4) 附属中等教育学校の図書に関する要望書について
- (5) 平成28年度ライティングセミナーについて
- (6) 平成28年度版附属図書館利用案内について
- (7) その他

<附属図書館長・副館長懇談会>

4月14日（火）10：40～ （於：社会科学系図書館6階会議室）

報告

- (1) 附属図書館の概要について
- (2) 附属図書館の関係会議について
- (3) 附属図書館の中期計画・年度計画・年次報告について
- (4) 附属図書館の予算について
- (5) 附属図書館の重点事項について
- (6) 附属図書館の懸案事項について
- (7) 大学文書史料室の概要・課題について

<附属図書館長・副館長・分館長懇談会>

第1回： 6月2日（火） 10:40～ （於：社会科学系図書館6階会議室）

協議事項

- (1) 平成26年度決算について
- (2) 平成27年度電子図書館事業について
- (3) 平成28年度の教育研究基盤整備事業について
- (4) 2016年外国雑誌購読調査について
- (5) 平成27年度総合図書館学生用資料整備計画について
- (6) 大学文書史料室関係規則の改正について
- (7) その他

第2回： 10月27日（火） 10:40～ （於：社会科学系図書館6階会議室）

協議事項

- (1) 教育研究基盤資料の整備について
- (2) 各部局等における部局年次計画の重点事項について
- (3) その他

報告事項

- (1) 外国雑誌センターでの購入誌について
- (2) その他

その他

- (1) 附属図書館評価委員会の開催

第3回： 2月1日（月） 10:40～ （於：社会科学系図書館6階会議室）

協議事項

- (1) 平成28年度附属図書館予算要求について
- (2) 平成28年度における附属図書館サービスの変更について
- (3) その他

第4回： 3月23日（水） 10:40～ （於：社会科学系図書館6階会議室）

協議事項

- (1) 平成28年度附属図書館当初予算配分について
- (2) 平成28年度附属図書館学生用資料費について
- (3) 平成28年度電子図書館事業について
- (4) 教育研究基盤資料の整備について
- (5) 神戸大学オープンアクセス方針（試案）について
- (6) 大学文書史料室利用等要項の改正について
- (7) その他

<附属図書館評価委員会>

第1回： 7月21日（火） （メール回議）

議題

- (1) 附属図書館年次報告について

第2回： 9月25日（金） （メール回議）

議題

- （1） 部局年次計画重点事項の進捗状況の報告等について

第3回： 10月27日（火） （館長・副館長・分館長懇談会終了後）

議題

- （1） 年度計画及び第2期中期計画進捗状況について

第4回： 3月10日（木） （メール回議）

議題

- （1） 部局年次計画重点事項の実績報告等について

第5回： 3月18日（金） （メール回議）

議題

- （1） 平成27事業年度及び第2期中期目標期間に係る業務の実績について

<附属図書館研究開発室会議>

第1回： 5月15日（金） （メール回議）

報告事項

- （1） 平成26年度電子図書館事業報告
- （2） 平成26年度学術成果リポジトリ事業報告
- （3） 平成26年度教育研究支援部会活動報告

協議事項

- （1） 平成27年度電子図書館事業計画（案）

第2回： 3月14日（月） （メール回議）

協議事項

- （1） 平成28年度電子図書館事業計画（案）

教育研究支援部会懇談会 第1回： 8月 4日（火）（於：総合・国際文化学図書館）

議題

- （1） 高等教育における活用体系表を利用した学習支援の整理
- （2） 図書館における今後の学修支援の可能性について
- （3） その他

教育研究支援部会懇談会 第2回： 2月16日（火）（於：総合・国際文化学図書館）

議題

- （1） 平成27年度ライティングセミナー報告と来年度以降計画
- （2） 平成28年度教育支援部会委員について
- （3） 来年度のTA配置等について
- （4） 学内ワークスタディ予算の配分
- （5） 附属図書館の学修支援に関するブレインストーミング

<附属図書館大学文書史料室運営会議>

第1回： 5月14日（木）15:00～ （於：自然科学系図書館4階会議室）

協議事項

- （1） 平成26年度決算について
- （2） 平成27年度予算について
- （3） 平成27年度特別展の企画について
- （4） 大学文書史料室利用細則の一部改正について
- （5） 海事博物館との連携による学内サテライト巡回展について
- （6） その他

報告事項

- （1） 第3期中期目標・中期計画の策定状況について
- （2） 大学文書史料室報告（平成27年3月～4月）
- （3） その他

第2回： 5月26日（水） （メール回議）

協議事項

- （1） 大学文書史料室利用細則の一部改正について

第3回： 8月19日（水） （メール回議）

協議事項

- （1） 人事企画課の未登録法人文書ファイルの移管について

第4回： 1月7日（木） （メール回議）

協議事項

- （1） 利用等要項の一部改正について

第5回： 3月8日（火）10:30～ （於：自然科学系図書館4階会議室）

協議事項

- （1） 平成27年度法人文書の移管協議について
- （2） 平成28年度事業計画について
- （3） その他

第6回： 3月18日（金） （メール回議）

協議事項

- （1） 平成27年度法人文書の移管協議について（医学部研究支援課分）

<附属図書館運営委員会委員名簿>

	職 名	氏 名	任 期 等
附属図書館長	理・教授	野海 正俊	H27. 4. 1～H29. 3. 31
副館長 (社会科学系・図書委員長)	法・教授	山本 弘	H27. 4. 1～H29. 3. 31
副館長 (自然科学系・図書委員長)	システム・教授	桔梗 宏孝	H27. 4. 1～H29. 3. 31
副館長 (附属図書館評価委員長)	文・教授	大津留 厚	H27. 4. 1～H29. 3. 31
医学分館長	医・教授	寺島 俊雄	H27. 6. 1～H29. 3. 31
海事科学分館長	海・教授	今井 昭夫	H27. 4. 1～H29. 3. 31
大学教育推進機構	教 授	山内 乾史	H27. 4. 1～H29. 3. 31
人文学研究科	教 授	岸本 秀樹	H27. 4. 1～H29. 3. 31
国際文化学研究科	教 授	塚原 東吾	H27. 4. 1～H28. 3. 31
人間発達環境学研究科	教 授	國土 将平	H26. 4. 1～H28. 3. 31
法学研究科	教 授	大内 伸哉	H27. 4. 1～H29. 3. 31
経済学研究科	教 授	石黒 馨	H27. 4. 1～H28. 3. 31
経営学研究科	教 授	鈴木 一水	H26. 4. 1～H28. 3. 31
理学研究科	教 授	角野 康郎	H26. 4. 1～H28. 3. 31
保健学研究科	教 授	松尾 博哉	H26. 4. 1～H28. 3. 31
工学研究科	教 授	森井 昌克	H27. 4. 1～H29. 3. 31
システム情報学研究科	教 授	BRENDLE JORG	H26. 4. 1～H28. 3. 31
農学研究科	教 授	田中 勉	H26. 4. 1～H28. 3. 31
国際協力研究科	教 授	山崎 幸治	H27. 4. 1～H28. 3. 31
自然科学先端融合研究環	工・教授	飯塚 敦	H27. 4. 1～H29. 3. 31
経済経営研究所	教 授	瀧 俊毅	H27. 4. 1～H29. 3. 31
情報基盤センター	教 授	鳩野 逸生	H26. 4. 1～H28. 3. 31
附属図書館	事務部長	内島 秀樹	-----

<附属図書館評価委員会委員名簿>

職 名 (委員は全て官職指定)	氏 名	備 考
附属図書館長	野海 正俊	
副館長	山本 弘	
副館長	桔梗 宏孝	
副館長	大津留 厚	委員長
医学分館長	寺島 俊雄	
海事科学分館長	今井 昭夫	
事務部長	内島 秀樹	
情報管理課長	湖内 夏夫	
情報サービス課長	前川 敦子	

<附属図書館研究開発室室員名簿>

職 名		氏 名	任期・関連する事業
総括	附属図書館長	野海 正俊	室長
電子化部会	文・教授	奥村 弘	H26. 4. 1～H28. 3. 31 (震災関連資料電子化)
	文・教授	福長 進	H26. 4. 1～H28. 3. 31 (国文学研究資料館古典籍データベース)
	研究所・准教授	高槻 泰郎	H26. 4. 1～H28. 3. 31 (新聞記事文庫電子化)
	図・電子図書館係長	井庭 朗子	H26. 7. 1～H28. 3. 31
教育研究支援部会	大教・教授	山内 乾史	H27. 4. 1～H29. 3. 31 (アクティブ・ラーニング支援)
	大教・教授	近田 政博	H26. 4. 1～H28. 3. 31 (グローバル教育支援)
	基盤セ・准教授	江木 啓訓	H27. 4. 1～H27. 9. 30 (アクティブ・ラーニング支援)
	図・情報サービス課長補佐	中山 貴弘	H26. 4. 1～H28. 3. 31
	図・情報リテラシー係長	三谷 拓也	H26. 4. 1～H28. 3. 31
(部会に属さず)	基盤セ・教授	鳩野 逸生	H26. 4. 1～H28. 3. 31 (情報システム)
	国文・准教授	清光 英成	H26. 4. 1～H28. 3. 31 (情報システム)

<附属図書館大学文書史料室運営会議委員名簿>

	所 属 等	職名	氏 名	任 期 等
議長 1号委員	館長・理学研究科	教授	野海 正俊	H27. 4. 1～H29. 3. 31
室長 2号委員	副館長・人文学研究科	教授	大津留 厚	H27. 4. 1～H29. 3. 31
室員 3号委員	大学文書史料室	室長補佐兼 専門調査員	野邑理栄子	H27. 4. 1～H29. 3. 31
4号委員	附属図書館	事務部長	内島 秀樹	H27. 4. 1～H29. 3. 31
5号委員	人間発達環境学研究科	教授	船寄 俊雄	H27. 4. 1～H29. 3. 31
5号委員	農学研究科	教授	金子 治平	H27. 4. 1～H29. 3. 31
5号委員	人文学研究科	准教授	河島 真	H27. 4. 1～H29. 3. 31
5号委員	総務部総務課	専門職員	中満 航一	H27. 4. 1～H29. 3. 31

平成27年度 附属図書館決算

単位:円

事 項	平成27年度 当初予算額	平成27年度 予算(増減)	平成27年度 最終予算額	平成27年度 支 出 額	差引	摘 要 (単位:千円)
経常運営費						
備品・消耗品費	7,900,000		7,900,000	12,918,786	△ 5,018,786	備品類、事務用品、図書館用品、用紙類、電算用品、蛍光灯類、雑用品
事務用図書費	590,000		590,000	481,425	108,575	事務用図書、事務用雑誌
印刷製本費	490,000		490,000	448,200	41,800	利用案内
光熱水料	34,000,000	106,000	34,106,000	29,066,284	5,039,716	電気代、ガス代、上下水道代
通信運搬費	8,400,000		8,400,000	7,796,320	603,680	切手代、郵便料、メール便代金、電話料、学内資料搬送
借料及び損料	2,500,000		2,500,000	1,378,940	1,121,060	複写機、タクシー代
雑役務等諸経費	33,263,000		33,263,000	36,849,482	△ 3,586,482	清掃請負、各種営繕、EV保守、警備請負、一般廃棄物処理、臨時廃棄物処理(海・自)、特高設備保守、空調機保守、備品修理、消防点検、電話交換保守業務、諸会費、安全衛生関係[水質検査]、医学部設備保守、蔵書点検、その他
非常勤職員給与等	85,000,000		85,000,000	83,059,427	1,940,573	
電子計算機維持経費	84,000		84,000	85,000	△ 1,000	情報基盤センター利用負担金、メーリングリストサービス
職員旅費	1,380,000		1,380,000	1,419,000	△ 39,000	会議・研修会・講習会旅費、バス地下鉄私鉄カード
小 計	173,607,000	106,000	173,713,000	173,502,864	210,136	
経常事業費						
時間外開館経費	19,200,000		19,200,000	19,560,395	△ 360,395	外部委託費、学生補佐員
電子図書館事業費	15,000,000		15,000,000	14,450,611	549,389	LibGuides、SFX、X-server、人件費、媒体変換、遡及、新聞記事文庫データ作成、新聞記事文庫校正、消耗品、古文書整理、その他
展示会経費	500,000		500,000	406,998	93,002	地図撮影・展示品作成、印刷、消耗品
資料修復経費	380,000		380,000	0	380,000	
学生用資料費	58,450,000		58,450,000	58,616,658	△ 166,658	
震災文庫資料費	500,000		500,000	499,972	28	
外国雑誌センター館経費	32,000,000		32,000,000	33,684,093	△ 1,684,093	
電子的情報基盤資料整備経費	4,000,000		4,000,000	706,850	3,293,150	残額は外国雑誌センター館経費の赤字補填
製本費	11,000,000		11,000,000	11,467,344	△ 467,344	
附属図書館長裁量経費	3,654,000	5,849,382	9,503,382	12,063,325	△ 2,559,943	海事屋上防水、鶴一LC補填、テレビ会議システム、保管庫(人間)、資料移動、医学分館空調取設、社会系渡廊下支柱補修、EUIJシンポ・LCシンポ等イベント関連、韓国海洋大交流(通訳)等、廃棄バイトほか
小 計	144,684,000	5,849,382	150,533,382	151,456,246	△ 922,864	
運営費＋事業費	318,291,000	5,955,382	324,246,382	324,959,110	△ 712,728	
電算機借料						
図書館システム	64,223,000		64,223,000	64,222,200	800	情報化推進経費【繰越対象外】※
小 計	64,223,000	0	64,223,000	64,222,200	800	
大学文書史料室						
管理運営経費	7,306,000		7,306,000	7,304,705	1,295	職員人件費、展示会経費ほか
小 計	7,306,000	0	7,306,000	7,304,705	1,295	
経常経費 計	389,820,000	5,955,382	395,775,382	396,486,015	△ 710,633	

事 項	平成27年度 当初予算額	平成27年度 予算(増減)	平成27年度 最終予算額	平成27年度 支 出 額	差引	摘 要
臨時的経費						
教育研究基盤資料整備費	332,800,000	△ 10,973,232	321,826,768	321,826,768	0	外国雑誌を含む電子ジャーナル及びデータベースの維持及び整備のための経費
電子ジャーナル等部局負担金		20,000,000	20,000,000	20,000,000	0	(H27限り)
研究大学強化促進費補助金	0	1,273,232	1,273,232	1,273,232	0	Wiley Online Book 有料Trial
研究大学強化促進費補助金	0	100,000	100,000	100,000	0	英語論文セミナー開催経費
SciFinder 利用者負担金	0	4,217,400	4,217,400	4,217,400	0	SciFinder受益者負担
第2期中期計画事業経費	62,789,000	△ 30,951,466	31,837,534	31,837,534	0	神戸大学ラーニングコモンズ整備(鶴甲第1キャンパス)※減額分は関係他部局の負担分
教育基盤強化支援経費 障害学生	0	844,000	844,000	844,000	0	海事スロープ改修
プロジェクト予算、業務達成基準	0	31,163,207	31,163,207	31,163,207	0	トイレ改修(自然系、海事、保健)
ビジョン推進経費	0	1,439,691	1,439,691	1,439,691	0	自然系外壁調査
営繕関係費(施設部営繕事業)	0	3,388,184	3,388,184	3,388,184	0	自然系外壁改修工事、海事食堂改修(按分)
施設費交付事業費	0	3,940,486	3,940,486	3,940,486	0	文学部屋上防水工事(按分)、自然系受変電設備改修
防災管理点検	0	66,960	66,960	66,960	0	防災管理点検業務
派遣費用	0	246,078	246,078	236,254	9,824	育児休暇職員代替(1ヶ月分)【繰越対象外】※
前年度繰越分	0	838,908	838,908	0	838,908	H26決算は763,760で報告
小 計	395,589,000	25,593,448	421,182,448	420,333,716	848,732	
その他の臨時的経費						
収入確保インセンティブ経費	0	6,508,000	6,508,000	2,685,219	3,822,781	ILL費用計上2,685,219
同上館長裁量経費へ振替		△ 3,822,781	△ 3,822,781	0	△ 3,822,781	
教員等館内複写料金	0	2,026,601	2,026,601	0	2,026,601	
同上館長裁量経費へ振替		△ 2,026,601	△ 2,026,601	0	△ 2,026,601	
小 計	0	2,685,219	2,685,219	2,685,219	0	
外部資金						
科学研究費補助金(研究成果公開促進費)		10,400,000	10,400,000	10,400,000	0	戦前期新聞経済記事文庫データベース
科学研究費補助金(奨励研究)		600,000	600,000	600,000	0	日米ラーニングコモンズにおける大学図書館サービスの教育への関与に関する調査
山口誓子奨学寄付金		3,016	3,016	3,016	0	山口文庫資料購入
小 計	0	11,003,016	11,003,016	11,003,016	0	
臨時的経費 計	395,589,000	39,281,683	434,870,683	434,021,951	848,732	

図書館セグメント 計	785,409,000	45,237,065	830,646,065	830,507,966	138,099	
				繰越対象額	127,475	※繰越対象外を除く
				繰越額	127,000	※繰越対象外を除き千円単位

平成27年度 図書資料費実績

(附属図書館セグメント)

単位:千円

館 室 名	学生用資料				震災文庫資料費	外国雑誌センター	電子の情報基盤資料整備経費	教育研究基盤資料整備費	計 ***
	予算額 *	決算額 *	比較増減	図書購入冊数				** 電子ジャーナル等	
総合図書館	15,762	15,761	0	3,697			706	343,100	359,568
社会科学系図書館	9,176	9,176	0	3,265	499	33,684			43,360
自然科学系図書館	12,093	12,092	0	1,886					12,092
人文科学図書館	2,675	2,809	△ 134	814					2,809
国際文化学図書館	2,694	2,693	0	418					2,693
人間科学図書館	3,578	3,577	0	1,385					3,577
経済経営研究所図書館	974	966	7	121					966
医学分館	4,954	4,953	0	993					4,953
保健科学図書室	3,239	3,248	△ 9	1,053					3,248
海事科学分館	3,305	3,335	△ 30	1,344					3,335
小 計	58,450	58,616	△ 166	14,976	499	33,684	706	343,100	436,607

注* 図書その他 雑誌・新聞・電子資料などを含む

注** 電子ジャーナル経費・外国雑誌購読料補填経費

注*** これ以外に、電子コンテンツ作成費 10,263,436円がある

(部局セグメント)

単位:千円

館 室 名	一般財源 図書資料費		
	館室備付 共同利用	研究室等 備付	計
総合図書館	1,104	1,630	2,734
社会科学系図書館	106,068	12,588	118,656
自然科学系図書館	3,769	29,372	33,141
人文科学図書館	12,009	5,857	17,867
国際文化学図書館	5,374	7,035	12,410
人間科学図書館	5,549	6,465	12,014
経済経営研究所図書館	21,449	428	21,877
医学分館	35,345	1,816	37,162
保健科学図書室	6,519	634	7,154
海事科学分館	6,699	1,101	7,801
計	203,889	66,931	270,821

(部局セグメント)

単位:千円

館 室 名	補助金等による購入				
	科研費	委任経理	受託研究	その他	計
総合図書館	883	0	0	4,267	5,151
社会科学系図書館	26,820	2,262	212	15,930	45,226
自然科学系図書館	9,549	3,859	2,472	1,893	17,774
人文科学図書館	10,668	406	287	2,684	14,045
国際文化学図書館	7,088	244	67	192	7,593
人間科学図書館	6,802	282	95	272	7,453
経済経営研究所図書館	1,146	280	0	1,257	2,684
医学分館	1,528	3,385	2,891	534	8,339
保健科学図書室	734	0	0	109	843
海事科学分館	1,051	0	43	788	1,884
計	66,274	10,721	6,071	27,930	110,997

単位:千円

合計
367,455
207,243
63,009
34,722
22,697
23,046
25,528
50,455
11,246
13,021
818,426

* 千円未満切捨のため、合計等は一致しません

平成27年度附属図書館活動日誌

< 4 月 >

- | | |
|------------------|---|
| 1 (水) | 新規採用職員合同研修 (医学部) < 於: 医学部シスメックホール > |
| 2 (木) | オーダーガイダンス (保健科学部) < 於: 保健科学図書室 > |
| 3 (金) | 神戸大学新任教職員研修
< 於: 瀧川大会議室 講師: サービス課長・室員 受講: 2 名 >
2 年次進学ガイダンス (医学部) < 於: 医学部 >
文学部留学生向け図書館ツアー < 於: 人文科学図書館 > |
| 6 (月) | 留学生オリエンテーション < 於: 六甲ホール >
国際文化学研究科院生オリエンテーション
兵庫県下教育機関事務系職員 (新規採用者) 研修
< 於: 瀧川大会議室 受講: 2 名 > |
| 6 (月) ~ 7 (火) | 新入生オリエンテーション (海事科学部) < 於: 海事科学部 > |
| 7 (火) ~ 9 (木) | 同上 < 於: 国立淡路青少年交流の家 受講: 2 名 > |
| 7 (火) | 入学式 < 於: ワールド記念ホール 出席: 館長 >
医学研究科院生 (修士) オリエンテーション < 於: 医学部 >
医学研究科院生 (博士) オリエンテーション < 於: 医学部 > |
| 7 (火) ~ 17 (金) | 図書館ツアーガイダンス < 於: 人間科学図書館 > |
| 9 (木) ~ 17 (金) | 図書館ツアーガイダンス < 於: 総合・国際文化学図書館 > |
| 9 (木) ~ 17 (金) | 図書館ツアーガイダンス < 於: 人文科学図書館 > |
| 10 (金) ~ 17 (金) | 図書館ツアーガイダンス < 於: 海事科学分館 > |
| 10 (金) ~ 5 月 1 日 | 図書館ツアーガイダンス (対象: 国文基礎ゼミ・経済基礎演習)
< 於: 総合・国際文化学図書館 > |
| 10 (金) | 兵庫県大学図書館協議会 役員会・企画委員会合同会議
< 於: 社会科学系図書館 出席: 部長・両課長 他 > |
| 13 (月) ~ 17 (金) | 図書館ツアーガイダンス < 於: 社会科学系図書館 >
図書館ツアーガイダンス < 於: 医学分館 > |
| 14 (火) | 館長副館長懇談会 < 於: 社会科学系図書館 >
オーダーガイダンス (理学部化学科) < 於: 情報基盤センター分館 > |
| 17 (金) | 近畿地区国立大学法人等職員採用図書系専門試験実施委員会
< 於: 社会科学系図書館 出席: 部長、管理課長 >
国立大学図書館協会近畿地区加盟館図書系人事担当課長・事務部長懇談会
< 於: 社会科学系図書館 出席: 管理課長 >
国立大学図書館協会近畿地区協会 総会
< 於: 社会科学系図書館 出席: 館長・部課長 > |
| 20 (月) ~ 24 (金) | 図書館ツアーガイダンス < 於: 自然科学系図書館 > |
| 22 (水) | オーダーガイダンス (医学部保健学科) < 於: 保健図情報処理教室 >
オーダーガイダンス (工学部機械学科) < 於: 情報基盤センター分館 > |
| 23 (木) | オーダーガイダンス (医学部保健学科) < 於: 保健図情報処理教室 > |
| 27 (月) | オーダーガイダンス (経済学研究科) < 於: 六甲台第五学舎 > |
| 28 (火) | オーダーガイダンス (理学部生物学科) < 於: 情報基盤センター分館 > |

< 5 月 >

- 1 (金) 図書館ツアーガイドンス (対象：国文基礎ゼミ・経済基礎演習)
 < 於：総合・国際文化学図書館 >
- 7 (木) 共通教育「情報基礎」授業開始
- 7 (木) ～ 6 月 5 日 総合・国際文化学図書館クイズラリー
- 8 (金) 第 1 回人間科学図書館 図書委員会
 大学図書館近畿イニシアティブ第 1 回能力開発専門委員会
 < 於：大阪大学 出席：サービス課長補佐 2 名 (自然・海事) >
- 13 (水) 「雑誌論文の探し方」ガイドンス (海事科学編)
 < 於：海事科学研究科情報処理演習室 >
- 14 (木) 第 1 回大学文書史料室運営会議
 < 於：自然科学系図書館 >
- 15 (金) 図書館職員研修「古文書解題とその取扱」講演会
 < 於：フロンティア館プレゼンテーションホール >
 医学図書館協会第 108 回近畿地区会例会
 < 於：北野病院 出席：サービス課長補佐 (医学) >
- 17 (日) 近畿地区国立大学法人等職員統一採用試験合同説明会
 < 於：キャンパスプラザ京都 出席：1 名 >
- 18 (月) 第 1 回海事科学分館 図書委員会
 第 1 回自然科学系図書館 図書委員会
 国立大学図書館協会平成 26 年度会計監査
 < 於：東京大学附属図書館 出席：管理課長 >
 国立大学図書館協会春季理事会
 < 於：東京大学史料編纂所 出席：館長・部長・管理課長 >
- 19 (火) ～ 20 (水) 「雑誌論文の探し方」ガイドンス (自然科学 国内編・海外編)
 < 於：自然科学系図書館 >
 外国雑誌センター館会議
 < 於：東京大学弥生講堂 出席：部長・管理課長・雑誌係長 >
- 20 (水) 人事関係事項聴取 < 於：本部事務局 出席：部長、両課長 >
- 20 (水) ～ 26 (火) 第 1 回社会科学系図書館 図書委員会 (メール回議)
 第 1 回医学分館 図書委員会 (メール回議)
- 21 (木) ～ 29 (金) 新規採用者館内研修 < 担当：雑誌係・目録係・電子図書館係 >
 Mendeley (メンデレー) 説明会 < 於：自然科学系図書館 >
- 22 (金) 附属中等教育学校第 4 学年図書館見学 < 於：総合・国際文化学図書館 >
 兵庫県大学図書館協議会 企画委員会
 < 於：武庫川女子大学中央図書館 出席：部長・両課長 他 >
- 25 (月) 第 1 回人文科学図書館 図書委員会
- 26 (火) オーダーガイドンス (国際協力研究科) < 於：六甲台第五学舎 >
 大学図書館近畿イニシアティブ第 2 回能力開発専門委員会
 < 於：大阪大学 出席：サービス課長補佐 (海事) >
- 26 (火) ～ 29 (金) 第 2 回大学文書史料室運営会議 (メール回議)
- 27 (水) Web of Science Core Collection 説明会 < 於：海事科学分館 >
 神戸フィルムオフィスによる取材 < 於：社会科学系図書館 >
 大学図書館近畿イニシアティブ「中級研修」
 < 於：大阪大学 受講：4 名 >

- 実施要員：サービス課長補佐（海事）＞
- 28（木） 第1回総合・国際文化学図書館 図書委員会
オーダーガイダンス（国際協力研究科）＜於：六甲台第五学舎＞
- 28（木）～29（金） 日本医学図書館協会第86回通常総会・分科会
＜於：日本科学未来館 出席：サービス課長補佐（医学）＞
- 29（木） 附属中等教育学校第4学年図書館見学 ＜於：総合・国際文化学図書館＞
兵庫県立有馬高等学校1年生図書館見学 ＜於：社会科学系図書館＞

<6月>

- 1（月） オーダーガイダンス（経済学部）＜於：六甲台第三学舎＞
- 2（火） 第1回館長・副館長・分館長懇談会 ＜於：社会科学系図書館＞
- 2（火）～3（水） 「雑誌論文の探し方」ガイダンス（社会科学編）
＜於：社会科学系図書館＞
- 3（水） 第1回附属図書館 運営委員会 ＜於：社会科学系図書館＞
- 4（木） EBSCOhost 説明会 ＜於：社会科学系図書館＞
- 5（金） オーダーガイダンス（経済学研究科）＜於：六甲台第三学舎＞
附属中等教育学校第4学年図書館見学 ＜於：総合・国際文化学図書館＞
- 6（土） 県立姫路西高等学校PTA会図書館見学 ＜於：社会科学系図書館＞
- 8（月） 協同学修シリーズ第4回「大学生のための生活講座①ダメされないチカラ」
＜於：国際文化学部食堂学生ホール 担当：サービス企画WG＞
- 8（月）～9（火） 全国公文書館長会議等
＜於：ペルサール飯田橋駅前 出席：大学文書史料室長、室長補佐＞
- 10（水） 第1回保健科学図書室 図書委員会
オーダーガイダンス（SciFinder 授業）＜於：情報基盤センター分館＞
第11回レファレンス協同データベース事業担当者研修会
＜於：国立国会図書館関西館 受講：1名＞
- 11（木） SciFinder 説明会 ＜於：自然科学系図書館＞
- 11（木）～12（金） 学術情報基盤オープンフォーラム2015
＜於：学術総合センター 参加：2名 パネリスト（12日）：部長＞
- 11（木）～16（火） 第2回海事科学分館 図書委員会（メール回議）
- 13（土） 育友会文学部懇談会 ＜於：人文科学研究科 対応：人文サービス係長＞
- 16（火） 日経テレコン説明会 ＜於：社会科学系図書館＞
- 17（水） eol 説明会 ＜於：社会科学系図書館＞
- 18（木） オーダーガイダンス（保健科学部）＜於：保健科学図書室＞
機関リポジトリ新任担当者研修 ＜於：国立情報学研究所 受講：1名＞
国立大学図書館協会総会
＜於：ホテルニューオータニ熊本 出席：館長・部長・サービス課長＞
- 19（金） 国立大学図書館協会マネジメントセミナー
＜於：ホテルニューオータニ熊本 出席：館長・部長・サービス課長＞
- 22（月） 協同学修シリーズ第4回「大学生のための生活講座②企業を知る」
＜於：国際文化学部食堂学生ホール 担当：サービス企画WG＞
- 24（水） 第2回医学分館 図書委員会
「雑誌論文の探し方」ガイダンス（人文科学編）＜於：人文科学図書館＞
経済学部模擬授業による淳心学院高等学校図書館見学
＜於：社会科学系図書館＞

- 25 (木) ジャパンナレッジ Lib 説明会 <於：人文科学図書館>
 オーダーガイダンス (保健科学部) <於：保健科学図書室>
 セミナー「就職支援に役立つデータベース活用法」
 <於：大阪証券取引所ビル 受講：1名>
- 25 (木) ~ 26 (金) 第1回 NII 学術情報システム総合ワークショップ
 <於：国立情報学研究所 受講：1名>
- 26 (金) オーダーガイダンス (国際文化学研究科院生) <於：国際文化学図書館>
 27 (土) オーダーガイダンス (経済学研究科社会人) <於：六甲台第三学舎>
 30 (火) オーダーガイダンス (国際文化学部) <於：国際文化学部>

< 7月 >

- 1 (火) 国立高雄海洋科技大学 (台湾) 図書館見学 <於：社会科学系図書館>
 「雑誌論文の探し方」ガイダンス (発達科学編)
 <於：人間科学図書館>
 大学図書館近畿イニシアティブ第1回運営委員会
 <於：大阪府立大学 出席：2名>
- 2 (火) 吉林大学 (中国) 図書館見学 <於：社会科学系図書館>
 EBSCOhost 操作説明会 <於：人間科学図書館>
 第1回大学文書史料室員研修
 <於：兵庫県立大学姫路環境人間キャンパス 参加：4名>
- 3 (金) 大学図書館近畿イニシアティブ第3回能力開発専門委員会
 <於：同志社大学 出席：サービス課長補佐 (海事) >
- 3 (金) ~ 7 (火) 第1回附属図書館安全衛生会議 (メール回議)
- 6 (月) ~ 17 (金) 大学図書館職員長期研修 <於：筑波大学 受講：1名>
 8 (水) 就職ガイダンス <於：六甲ホール>
- 14 (火) 図書館職員研修 (英語文献講読)
 <於：社会科学系図書館部長室 参加：7名>
 オーダーガイダンス (発達科学部) <於：発達科学部情報教育設備室>
- 15 (水) 第2回人文科学図書館 図書委員会
 オーダーガイダンス (保健 (看護) 2回生向) <於：保健科学図書室>
- 21 (火) テレビ会議システム設置 (社会系図⇔海事科学分館)
- 23 (木) 図書館職員研修 (英語文献講読)
 <於：社会科学系図書館部長室 参加：7名>
- 24 (金) 秘書さん・職員さんのための図書館利用入門
 <於：医学部研究棟第一講堂>
 兵庫県大学図書館協議会総会 <於：武庫川女子大学
 出席：館長・部長・両課長・管理課長補佐 (社会)・企画係長>
 第2回大学文書史料室員研修
 <於：海事博物館 参加：4名>
- 29 (水) NII 学術情報ウェブサービス担当者研修
 ファシリテーターガイダンス <於：国立情報学研究所 参加：1名>

< 8月 >

- 4 (火) 附属図書館研究開発室 (教育研究支援部門) 懇談会
 <於：総合・国際文化学図書館>

	第3回大学文書史料室員研修 ＜於：関西学院大学 参加：4名＞
5（水）～7（金）	第1種衛生管理者試験準備講習会 ＜於：プレゼンテーションホール 受講：3名＞
	第22回医学図書館員基礎研修会 ＜於：明海大学 受講：1名＞
6（木）	第2回NII学術情報システム総合ワークショップ ＜於：国立情報学研究所 受講：1名＞
13（木）～17（月）	夏季一斉休業
18（火）	資金管理に関する内部監査 ＜於：人間科学図書館＞
18（火）～19（水）、 21（金）、24（月）	アプリケーション研修（Access 実践） ＜於：鶴甲第1キャンパス国際コミュニケーションセンター 受講：2名＞
19（水）～28（金）	第3回大学文書史料室運営会議（メール回議）
20（木）	兵庫医科大学より見学 ＜於：大学文書史料室 6名＞
23（日）	近畿地区国立大学法人等職員採用 第一次試験 ＜於：国際文化学部＞
24（月）	高校生見学ツアー ＜於：社会科学系図書館 20名＞
24（月）～9月4日	筑波大学3年生1名インターンシップ受入（図書館実習） ＜於：社会科学系図書館 総合・国際文化学図書館＞
28（金）	高校生見学ツアー ＜於：社会科学系図書館 50名＞
31（月）～9月4日	平成27年度アーカイブズ研修Ⅰ ＜於：朝日生命大手町ビル 受講：1名＞
< 9月 >	
1（月）	学内会計監査 ＜於：経済経営研究所＞ 係長研修（管理系）＜於：社会科学系図書館＞ 平成27年度第1回係長会議 ＜於：社会科学系図書館＞
2（水）～4（金）	NII学術情報ウェブサービス担当者研修 ＜於：国立情報学研究所 ファシリテーター：1名＞
3（木）	大学コンソーシアムひょうご神戸研修交流委員会第1回SDプログラム ＜於：瀧川記念学術交流館 出席：1名＞ 国立大学図書館協会近畿地区協会助成事業 「Where am I? 図書館という場を問い直す」 ＜於：兵庫教育大学 参加：5名＞ 関西学生新聞記者による取材（テーマ「戦後70年 大学と戦争」） ＜於：大学文書史料室＞
7（月）	神戸大学ニュースネット委員会による鶴甲第1ラーニングコモンズの取材 ＜於：総合・国際文化学図書館 対応：1名＞
7（月）～12（土）	米国視察 ＜2名＞
9（水）	第3回人文科学図書館 図書委員会
9（水）～11（金）	図書館等職員著作権実務講習会 ＜於：京都大学 受講：2名＞
10（木）～11（金）	JUSTICE 版元提案説明会 ＜於：一橋大学 参加：1名＞
12（土）	神戸大学文学部第39回生同窓会による図書館見学 ＜於：人文科学図書館 対応：1名＞
14（月）	大分県知事壁画見学 ＜於：社会科学系図書館 対応：2名＞
15（火）	個人情報保護及び情報セキュリティに関する研修

- 16 (水) <於：百年記念館六甲ホール 受講：9名>
初年次セミナー・アクティブラーニングに関するFD
- 17 (木) <於：法学研究科 陪席：3名>
資金管理に関する内部監査 <於：医学分館>
- 18 (金) 図書館での学修支援に関する研修会
<於：総合・国際文化学図書館 受講：28名>
- 27 (日) 近畿地区国立大学法人等職員採用図書系専門試験
<於：京都大学 対応：3名>
- 28 (月) 近畿地区国立大学法人等職員採用試験 機関訪問
<於：社会科学系図書館 説明者：2名>
次期システム説明会 <於：自然科学系図書館 出席：3名>
- 29 (火) 平成27年度第1回サーブ係長会議
大阪府立天王寺高校保護者による見学
<於：社会科学系図書館 36名>
- 30 (水) 第1回 SPARC Japan セミナー2015
<於：国立情報学研究所 参加：1名>

<10月>

- 1 (木) ~ 30 (金) BOOKISH FES 書評・キャッチコピーコンテスト 作品募集
- 1 (木) ~ 12月15日 平成27年度附属図書館資料展
「村上家文書の世界～近世×神戸×農村～」
<於：社会科学系図書館展示ホール 主催：附属図書館>
千葉大学附属図書館見学 <於：千葉大学 参加：1名>
- 2 (金), 5 (月) 近畿地区国立大学法人等職員採用二次面接試験
<於：社会科学系図書館>
国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター拠点連携委員会
<於：主婦会館 参加：1名>
- 3 (土) 神戸大学OB会による見学
<於：社会科学系図書館 25名>
- 7 (水) 滋賀県立米原高等学校PTAによる図書館見学
<於：社会科学系図書館 108名>
- 8 (木) 就職活動スタートセミナー (主催：キャリアセンター)
<於：六甲ホール 出講：情報リテラシー係>
- 9 (金) 学内会計監査
<於：社会科学系図書館>
初年次セミナー・アクティブラーニングに関するFD
<於：工学研究科 陪席：3名>
<於：システム情報学研究科 陪席：3名>
地理学実習クラスによる附属図書館資料展見学
<於：社会科学系図書館 10名>
- 13 (火) ~ 14 (水) 国際シンポジウム
「HORIZON2020によるオープンアクセス政策と
オープンサイエンスの国際的課題」
<於：百年記念館六甲ホール
主催：EUIJ 関西、共催：附属図書館ほか>

- 出席：1日目 88名 2日目 114名>
平成27年度機関リポジトリ中堅担当者研修
＜於：神戸松蔭女子学院大学 受講：1名＞
(※10/14は国際シンポジウムに合流)
- 15 (木) オーダーガイダンス ＜於：海事科学研究科＞
総合・国際文化学図書館 第2回図書委員会
近畿大学附属高校生徒による図書館見学
＜於：社会科学系図書館 40名＞
鳥取県立鳥取東高校生徒による図書館見学
＜於：社会科学系図書館 20名＞
- 16 (金) 日本・ベトナム学生交流会による図書館見学
＜於：社会科学系図書館 80名＞
初年次セミナー・アクティブラーニングに関するFD
＜於：理学研究科 陪席：2名＞
＜於：人間発達環境学研究科 陪席：2名＞
富山テレビによる農学部生撮影取材
＜於：人文科学図書館 対応：1名＞
就職活動スタートセミナー（主催：キャリアセンター）
＜於：六甲台講堂 出講：情報リテラシー係＞
- 19 (月)～21 (水) 近畿地区国立大学法人会計事務研修
＜於：瀧川記念学術交流会館 受講：2名＞
- 20 (火) 個人情報保護及び情報セキュリティに関する研修
＜於：医学部会館シスメックスホール 受講：5名＞
- 20 (火)～21 (水) 「雑誌論文の探し方」ガイダンス
＜於：社会科学系図書館 説明：情報リテラシー係＞
- 21 (水) 開明高校生徒による図書館見学
＜於：社会科学系図書館 50名＞
初年次セミナー・アクティブラーニングに関するFD
＜於：経営学研究科 陪席：1名＞
＜於：経済学研究科 陪席：1名＞
＜於：医学研究科 陪席：2名＞
- 22 (木) 三商ゼミに伴う三商大図書館連携企画の打合せ
＜於：社会科学系図書館 対応：2名＞
- 23 (金) 平成27年度学生選書ツアー
＜於：ジュンク堂書店三宮店＞
平成27年度兵庫県大学図書館協議会研究会
＜於：関西学院大学図書館 参加：6名＞
- 26 (月)～11月6日 神戸大学史特別展「戦時下の神戸大学 - 戦後70年記念 -」
＜於：百年記念館1階展示ホール 主催：大学文書史料室＞
- 26 (月)～28 (水) 韓国出張 ＜1名＞
- 27 (火) 平成27年度第2回附属図書館館長・副館長・分館長懇談会
＜於：社会科学系図書館＞
平成27年度第3回附属図書館評価委員会 ＜於：社会科学系図書館＞
人文学研究科ゼミによる文書史料室特別展見学
「雑誌論文の探し方」ガイダンス ＜於：自然科学系図書館＞
- 27 (火)～28 (水)

- 28 (水) SPEEDA 説明会 <於：第3学舎情報処理教室
主催：経済経営研究所附属企業資料総合センター>
医中誌 Web 管理者向け講習会 <於：京都大学 受講：1名>
- 29 (木) 平成27年度第2回附属図書館運営委員会
<於：社会科学系図書館>
「参考文献の書き方・見方・探し方」ガイダンス
<於：自然科学系図書館>
- 30 (金) 人文学研究科授業「地域歴史遺産保全活用基礎論B」受講生による
附属図書館資料展見学 <於：社会科学系図書館 参加：50名>
- 31 (土) 第10回神戸大学ホームカミングデイ
<於：六甲台 社会科学系図書館・資料展・震災文庫 見学受入>
- <11月>
- 5 (木) 職場体験学習「KU トライやる」(神戸大学附属中等教育学校 2名)
<於：自然科学系図書館>
2015年度 SINET 及び学認・UPKI 証明書説明会
<於：キャンパスプラザ京都 参加：2名>
- 6 (金) カリフォルニア大学サンディエゴ校国際担当者講演会
<於：百年記念館 参加：6名>
明石西高校生徒による図書館見学
<於：社会科学系図書館 10名>
<於：総合・国際文化学図書館 14名>
- 9 (月)～13 (金) トライやるウィーク
神戸市立上野中学校(2名) <於：社会科学系科学図書館>
神戸市立横尾中学校(2名) <於：人文科学図書館>
- 9 (月)～12 (木) 鶴甲第1キャンパスラーニングコモンズオープニングイベント
<於：国際文化学部A棟>
- 9 (月) 開智高校(和歌山県)生徒による図書館見学
<於：社会科学系図書館 44名>
- 10 (火)～11 (水) 第17回図書館総合展 <於：パシフィコ横浜 出張：3名>
- 10 (火) 播磨高校(兵庫県)生徒による図書館見学
<於：社会科学系図書館 8名>
就職活動スタートセミナー(主催：キャリアセンター)
<於：六甲ホール 出講：情報リテラシー係>
- 11 (水) 第25回 BELCA 賞第2次選考現地審査
<於：社会科学系図書館 立会い：管理課長>
平成27年度兵庫県大学図書館協議会施設見学会
<於：立命館大学 OIC ライブラリー 参加：3名>
- 11 (水)～12月25日 海事博物館サテライト巡回展「大戦中の日本商船、船員の姿」
<於：百年記念館>
- 12 (木) 綾部高校(京都府)生徒による図書館見学
<於：社会科学系図書館 41名>
- 13 (金) 大学図書館近畿イニシアティブ第4回能力開発専門委員会
<於：京都大学 出席：サービス課長補佐(海事)>
- 16 (月) 兵庫高校生徒による図書館見学

- ＜於：社会科学系図書館 64名＞
- 17 (火) EndNote basic 説明会
 ＜於：社会科学系図書館 外部講師、情報リテラシー係＞
 人文学研究科菊地先生ゼミによる海事博物館巡回展の見学と史料室解説
 ＜於：大学文書史料室＞
 全国遺跡報告総覧実務者連絡・調整会議
 ＜於：大阪大学総合図書館 出席：1名＞
- 18 (水) 「参考文献の書き方・見方・探し方」ガイダンス
 ＜於：社会科学系図書館＞
 部局年次計画等に関するヒアリング ＜於：本部＞
- 18 (水)～20 (金) 平成27年度NII 学術情報リテラシー教育担当者研修
 ＜於：国立情報学研究所 参加：1名＞
 第22回医学図書館研究会・継続教育コース1・2
 ＜於：医学部神緑会館・第1講堂 当番館：神戸大学附属図書館＞
- 19 (木) 石見智翠館高校生徒による図書館見学
 ＜於：社会科学系図書館 23名＞
- 20 (金) 国際文化学部「博物館実習」授業による資料展見学
 ＜於：社会科学系図書館 11名＞
- 24 (火) ライティングセミナー「論理的な文章の書き方入門」
 ＜於：鶴甲第1キャンパスラーニングコモンズ
 講師：大学教育推進機構 近田先生 担当：サービス企画WG＞
- 24 (火)～12月8日 BOOKISH FES 書評・キャッチコピーコンテスト 一般投票期間
- 25 (水)～12月16日 平成27年度神戸大学史巡回展「戦時下の神戸大学」
 ＜於：海事博物館＞
- 25 (水)～26 (木) 平成27年度国立大学協会近畿地区支部「係長研修」
 ＜於：瀧川記念学術交流会館 当番校：神戸大学 受講：1名＞
- 26 (木)～27 (金) 平成27年度学内会計事務研修
 ＜於：理学研究科 Z201-202 号室 部分受講：2名＞
 留学フェア ＜於：人文科学図書館ラーニングコモンズ＞
- 27 (金) 第3回NII 学術情報システム総合ワークショップ
 ＜於：国立情報学研究所 参加：1名＞
- 28 (土)～29 (日) 第65回三商ゼミ発表会企画展示（今年度初めて三大学の図書館で展示）
 ＜於：社会科学系図書館2階壁面前＞
- 30 (月) 英語論文書き方セミナー
 ＜於：農学部講義室 主催：学術研究推進本部、
 共催：附属図書館、男女共同参画推進室＞

＜12月＞

- 1 (火)～3月31日 NII 学術認証運営委員会委員 ＜委嘱：係長1名＞
- 2 (水) 附属図書館海外出張報告会
 ＜於：社会科学系図書館6階会議室 報告者：2名 参加：35名＞
- 3 (木) 平成27年度京都大学図書館機構講演会
 ＜於：京都大学 出席：2名＞
- 3 (木)～4 (金) 平成27年度国立国会図書館レファレンスサービス研修
 ＜於：国立国会図書館関西館 受講：1名＞

7 (月)	平成27年度メンタルヘルス・マネジメントII種検定試験対策セミナー ＜於：瀧川学術交流会館 受講：補佐1名、係長2名＞
7 (月)～22 (水)	学生チームULiCS企画 脱出ゲーム「うりこ、ぼたん鍋の危機」 ＜於：総合・国際文化学図書館＞
8 (火)	京阪神エルマガジン社（奥さま手帳）による撮影・取材 ＜於：社会科学系図書館 対応：管理課長＞ 相生高校生徒と神大留学生による交流会での図書館見学 ＜於：社会科学系図書館 31名＞
9 (水)～11 (金)	平成27年度女性情報アーキビスト養成研修（基礎・実技） ＜於：国立女性教育会館 受講：1名＞
9 (水)	大学図書館近畿イニシアティブ10周年「感謝の集い」 ＜於：大阪大学 出席：部長、サービス課長、課長補佐（海事）＞
10 (木)	（九州）みんなでまもる文化財/ミュージアム事業団による見学 ＜於：社会科学系図書館震災文庫 18名 同行：地域連携推進室 奥村先生、佐々木先生＞ ライティングセミナー「レポート・卒論の書き方」 ＜於：国際文化学部ラーニングコモンズ 講師：経済学研究科 滝川先生＞
11 (金)	平成27年度神戸大学事務職員国際業務研修海外研修報告会 ＜於：本部中会議室 出席：1名＞ 国立大学図書館協会近畿地区加盟館図書系人事担当課長・事務長懇談会 ＜於：和歌山大学 出席：管理課長＞ 国立大学図書館協会近畿地区協会事務連絡会 ＜於：和歌山大学 出席：部長・両課長＞ BOOKISH FES 書評・キャッチコピーコンテスト 受賞作発表
14 (月)	平成27年度メンタルヘルス・マネジメントII種検定試験 ＜於：瀧川記念学術交流会館 受験：補佐1名、係長2名＞ 平成27年度神戸大学若手職員研修 ＜於：百年記念館会議室 受講：4名＞
15 (火)	平成27年度神戸大学若手職員研修 ＜於：百年記念館会議室 受講：2名＞ 個人情報の保護及び情報セキュリティに関する研修 ＜於：百年記念館六甲ホール 受講：4名＞ ライティングセミナー 「職員・TAのためのアカデミック・ライティング指導法」 ＜於：国際文化学部ラーニングコモンズ 講師：大阪大学 堀先生 担当：サービス企画WG＞
16 (水)	BOOKISH FES 書評・キャッチコピーコンテスト 授賞式 ＜於：総合・国際文化学図書館 担当：選書WG＞
17 (木)	日本医学図書館協会第109回近畿地区例会 ＜於：神戸常盤大学 出席：補佐1名＞
17 (木)～18 (金)	NII 目録システム書誌作成研修（試行） ＜於：国立情報学研究所 受講：1名＞
18 (金)	ORCID説明会（講師：Nature Japan） ＜於：社会科学系図書館館長室

	出席：部長、課長 1 名、係長 3 名、係員 1 名＞
	第 3 回総合・国際文化学図書館 図書委員会
	POP ワークショップ ＜於：総合・国際文化学図書館 担当：選書 WG＞
	大学図書館近畿イニシアティブ第 5 回能力開発専門委員会
	＜於：立命館大学 出席：サービス課長補佐（海事）＞
1 9（土）	オーダーガイダンス（経済学研究科）＜於：六甲台第三学舎＞
2 1（月）	神戸大学附属中学校「グローバルアクションプログラム ～神戸から震災と復興を学ぶ～」による訪問
	＜於：震災文庫 18 名 対応：電子図書館係＞
2 1（月）～2 3（水）	韓国海洋大学からの訪問
	＜於：社会科学系図書館、海事科学研究科、京都大学ほか 3 名＞
	蔵書点検 ＜於：社会科学系図書館＞
2 2（火）	オーダーガイダンス（経済学研究科）＜於：六甲台第三学舎＞
	第 3 回医学分館図書委員会
< 1 月 >	
5（火）	ナレッジサロン見学会
	＜於：グランフロント大阪
	参加：サービス課長、補佐 1 名、係長 1 名、係員 5 名＞
6（水）	パリディジタル大学 Augeri 氏との意見交換会
	＜於：情報基盤センター 出席：鳩野先生、館長ほか＞
7（木）	北海道大学大学文書館による訪問
	＜於：大学文書史料室 対応：室長補佐＞
8（金）	オーダーガイダンス（経済学研究科）＜於：六甲台第三学舎＞
1 2（火）～2 1（木）	神戸大学史巡回展（東京）「戦時下の神戸大学―戦後 70 年記念―」
	＜於：東京六甲クラブ 主催：大学文書史料室＞
1 2（火）～2 6（火）	阪神・淡路大震災関連展示
	＜於：社会科学系図書館＞
1 2（火）	2/2 ワークショップ事前勉強会 ＜社会科学系図書館会議室＞
	＜出席：部長、課長 1 名、補佐 1 名、係長 1 名、係員 8 名＞
1 4（木）	英語スキルアップセミナー ＜於：理学部 Z201-202 教室＞
	＜主催：男女共同参画推進室、共催：学術研究推進本部、附属図書館＞
1 5（金）	ラーニング・サポート担当者研修
	＜於：金沢大学中央図書館 受講：係長 1 名＞
	センター試験に伴い 13 時で臨時閉館（保健科学図書室）
	センター試験に伴い 17 時で臨時閉館（研究所、医学、保健を除く）
1 6（土）	センター試験に伴い臨時休館（医学分館を除く）
1 7（日）	センター試験に伴い臨時休館（医学分館、研究所を除く）
	（医学分館、研究所は通常休館）
1 9（火）～2 2（金）	会計検査院実地検査
1 9（火）	2/2 ワークショップ事前勉強会 ＜社会科学系図書館会議室＞
	＜出席：部長、課長 1 名、補佐 1 名、係長 1 名、係員 9 名＞
2 2（金）	第 5 回被災地図書館との震災資料の収集・公開に係る情報交換会
	＜於：プレゼンテーションホール 参加：館長、部長、課長 1 名、 係長 1 名、係員 1 名、補佐員 1 名＞

	センター再試験に伴い 17 時で臨時閉館（総合・国際文化学図書館）
23（土）	センター再試験に伴い臨時休館（総合・国際文化学部図書館）
26（火）	大学図書館近畿イニシアティブ第6回能力開発専門委員会 ＜於：大阪樟蔭女子大学 出席：サービス課長補佐（海事）＞
27（水）	資金管理に関する内部監査 ＜於：総合・国際文化学図書館＞
29（金）	第1回図書館システム技術審査委員会 ＜於：自然科学系図書館＞ 平成27年度国立大学図書館協会シンポジウム ＜於：東京大学 講師：Barbara Tierney 氏（Univ. of Central Florida Library 神戸大学附属図書館にて招聘）、 参加：部長、サービス課長補佐（自然）、係員1名＞

＜2月＞

1（月）～26（金）	平成27年度神戸大学史・巡回展（神戸）「戦時下の神戸大学 ー戦後70年記念」ミニ展示 ＜於：社会科学系図書館展示コーナー 主催：大学文書史料室＞
1（月）	第3回附属図書館 館長・副館長・分館長懇談会 ＜於：社会科学系図書館＞
2（火）	クラーク記念国際高等学校生徒による図書館見学 ＜於：社会科学系図書館 参加：引率含め40名＞ 大学図書館における学習支援の日米比較に関するワークショップ ＜於：社会科学系図書館会議室 講師：Barbara Tierney 氏（Univ. of Central Florida Library 神戸大学附属図書館にて招聘）、 参加：24名＞ 産業医職場巡視 ＜於：大学文書史料室 対応：管理課長補佐、史料室室長補佐＞
3（水）	平成27年度神戸大学事務職員（主任中堅以上）国際業務研修 ＜於：連携推進本部 受講：係員3名＞ 学術英語スキルアップセミナー「Take a New Step！」 ＜於：瀧川記念学術交流会館大会議室、主催：附属図書館、 共催：学術研究推進本部、男女共同参画推進室、受講：114名＞
4（木）	第3回附属図書館 運営委員会 ＜於：社会科学系図書館＞
5（金）	監査法人による第2回期中監査 ＜於：社会科学系図書館＞
8（月）	平成27年度神戸大学スキルアップ研修「面接員トレーニング研修」 ＜於：瀧川記念学術交流会館大会議室、 受講：課長補佐4名、係長2名＞ 文書管理者・文書管理担当者研修 ＜於：理学研究科 講師：室長補佐 受講：補佐員1名＞
10（水）	平成28年度事業計画に関するヒアリング ＜於：自然科学総合研究棟＞
12（金）	六甲台第一地区6部局合同・自衛消防訓練 ＜於：第五学舎＞
15（月）	神戸大学第11回総合同窓会 ＜於：第三学舎経営中会議室＞ 講演「卒業後50年間の神戸大学の変遷と今後の展望」 ＜講師：大学文書史料室長補佐＞ 神戸大学史・巡回展見学 ＜於：社会科学系図書館展示ホール 見学：卒業生26名＞
17（水）	資金管理に関する内部監査 ＜於：社会科学系図書館＞ 外務省外交史料館外務事務官による訪問 ＜於：大学文書史料室＞

- 18 (木) 広報業務研修 <於：瀧川記念学術交流会館 受講：2名(部分受講)>
廃棄物管理責任者研修会
<於：神戸文化ホール 受講：主任1名>
- 19 (金) 第36回新潟大学全学FD「学生・教員・図書館職員の協働による
学修支援を考える」 <於：新潟大学附属図書館 出席：係長1名>
信州大学附属図書館セミナー「大学図書館におけるアクティブ・
ラーニング支援に向けて」 <於：信州大学中央図書館 受講：係員1名>
- 21 (日) 九州国際大学図書館による視察
<於：社会科学系図書館 来館：館長1名>
- 22 (月) 京都大学財務課による視察
<於：社会科学系図書館
来館：課長以下数名、対応：管理課長、課長補佐>
国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター拠点連携委員会
<於：主婦会館 出席：係長1名>
講演会&研究会「岡山大学におけるライティング教育を考える」
<於：岡山大学中央図書館 出席：サービス課長補佐(自然系)>
- 23 (火) 神戸大学史・巡回展览展示案内
<於：社会科学系図書館 解説：大学文書史料室室長補佐>
- 24 (水) 前期入学試験に伴い13時で閉館(保健科学図書室)
前期入学試験に伴い17時で閉館(医学分館を除く)
- 25 (木) 前期入学試験に伴い休館(医学分館を除く)
附属図書館自衛消防・防災訓練(各館実施)
- 26 (金)～27 (土) 前期入学試験に伴い休館(人間科学図書館)
- <3月>
- 4 (金)～28 (月) 海事博物館サテライト巡回展「大戦中の日本商船、船員の姿」
<於：社会科学系図書館展示ホール>
- 4 (金) 第7回RDA総会 <於：一橋講堂 出席：部長>
研究者のためのスライドデザイン講座
<於：農学研究科講義室 受講：サービス課長補佐(自然系)>
<主催：学術研究推進本部 共催：男女共同参画推進室、附属図書館>
- 8 (火) 第5回大学文書史料室 運営会議
第6回人文科学図書館 図書委員会
- 9 (水) 第4回SPARC Japan セミナー2015
<於：国立情報学研究所 参加：1名>
海外学修プログラムのためのFD・SDセミナー
<於：国際文化学部会議室 出席：1名>
- 11 (金) 群馬大学からの視察 <於：社会科学系図書館 来館：2名>
第4回国際文化学図書館 図書委員会
近畿イニシアティブ会計監査
近畿イニシアティブ第2回運営委員会 <於：社会科学系図書館>
後期入学試験に伴い13時で閉館(保健科学図書室)
後期入学試験に伴い17時で閉館(医学分館を除く)
- 12 (土) 後期入学試験に伴い休館(社会科学系図書館)
- 16 (水) 附属中等教育学校の図書に関する打合せ

- 17 (木) <於：総合・国際文化学図書館 出席：課長、係長2名>
兵庫県建築士会による取材
- 18 (金) <於：社会科学系図書館 足立名誉教授、同行：広報課長>
財務省・文科省からの視察
- 23 (水) <於：大学文書史料室、社会科学系図書館 来館：7名
対応：史料室長補佐、管理課長、管理係長>
第4回附属図書館館長・副館長・分館長懇談会
- 24 (木) <於：社会科学系図書館>
神戸大学博士学位記授与式 <於：六甲台講堂>
国立国会図書館平成28年度海外日本研究司書研修に関する打合せ
- 25 (金) <於：社会科学系図書館 NDL 関西館、管理課長、管理課長補佐>
次期システムキックオフミーティング
<於：社会科学系図書館>
神戸大学学位授与式 <於：ワールド記念ホール 出席：館長>
附属図書館職員研修「図書館資料保存のいろは」
<於：社会科学系図書館>
講師：東京大学経済学部資料室室長代理 小島先生
生協学生委員会による新入生ツアー
- 28 (月) <於：社会科学系図書館 来館：新入生11名、引率学生5名>
連携創造本部(URA)第2回人社系研究評価に関する研究会
「欧州の大学における人社系の研究戦略と評価について」
<於：連携創造本部大会議室 出席：係員1名>
LMS BEEF 講習会
- 29 (火) <於：基盤センター分館 受講：サービス課長補佐、係長1名>
第4回附属図書館運営委員会 <於：社会科学系図書館>
- 30 (水) ULiCS メンバーによる各館見学会
第1部：自然系、社会系、人間、国際 <同行：補佐1名、係員1名>
第2部：保健、医学 <同行：係員1名>
シンポジウム「人文学の『危機』と未来」
<於：人文学研究科 B132 教室 出席：管理課長>
名誉教授称号授与式 <於：六甲ホール 出席：館長>
永年勤続者表彰式 <於：六甲ホール 出席：館長、部長、課長1名>
- 31 (木) 附属図書館平成27年度離任式
生協学生委員会による新入生ツアー
<於：社会科学系図書館 来館：新入生18名、引率学生7名>